

着痕が残っている。平城宮Ⅰ～Ⅱの時期と考えられる。1196は、外面に薄く灰がかぶっている。つまみ部を欠損している。飛鳥Ⅳの時期と考えられる。1198は、須恵器杯蓋である。外面に自然釉がかかっている。飛鳥Ⅳの時期と考えられる。1199は、須恵器鉢である。口縁は内湾している。生焼けであり、全体に白っぽい。飛鳥Ⅳの時期と考えられる。1200は、須恵器鉢の底部である。生焼けであり、軟質である。飛鳥時代のものと考えられる。1201は、須恵器壺の脚台部である。やや歪んでいる。飛鳥Ⅲの時期と考えられる。1202は、混入品であるが、古墳時代の須恵器高杯脚柱部である。脚部に筋状の透かし孔がある。陶邑編年のⅡ-5の時期と考えられる。1203は、須恵器平瓶である。口縁部を欠損している。口縁部内面と肩部外面に灰をかぶっている。底部に窯体片が付着している。天井部上面には、把手にかわる、粘土を丸めて扁平にしたボタン状のものを貼付している。

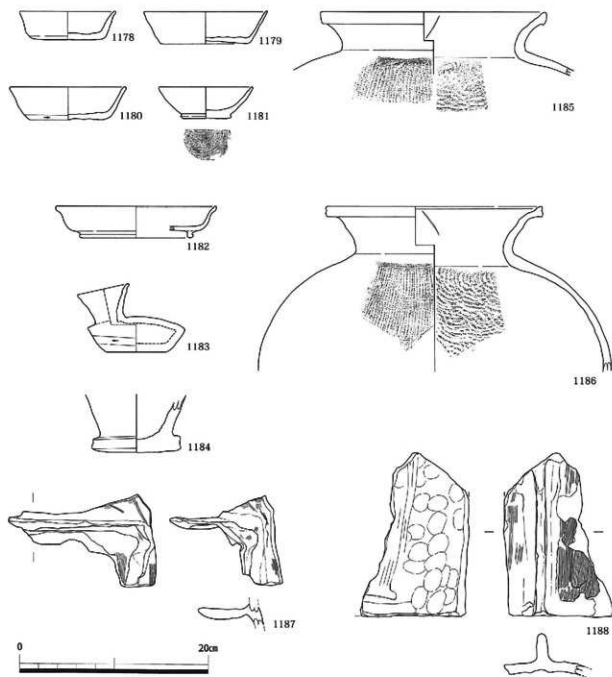


図 185 包含層出土古代遺物 (1)

1204は、須恵器甕の口縁部である。肩部にわずかに灰をかぶっている。平城宮Ⅳの時期と考えられる。1205は、須恵器壺の口縁部である。口縁部内面と肩部外面に、自然軸がかかっている。平城宮Ⅳの時期と考えられる。1206は、須恵器甕の口縁部である。口縁部に薄く灰をかぶっている。平城宮Ⅳの時期と考えられる。

図187-1207・1208は、土師器杯身である。1207は、口縁部内面が肥厚している。内面に2段の放射状暗文が見られる。飛鳥Ⅳの時期と考えられる。1208は、口縁端部が立ち上がり気味である。内面には放射状暗文が見られる。平城宮Ⅱの時期と考えられる。1209は、土師器高杯の杯部で、底部から脚部を欠損している。粘土紐の接合痕が残っている。平城宮Ⅳ～Ⅴの時期と考えられる。1210・1211は、土師器甕の口縁部である。いずれも平城宮Ⅱ～Ⅲの時期と考えられる。1212は、土師器真

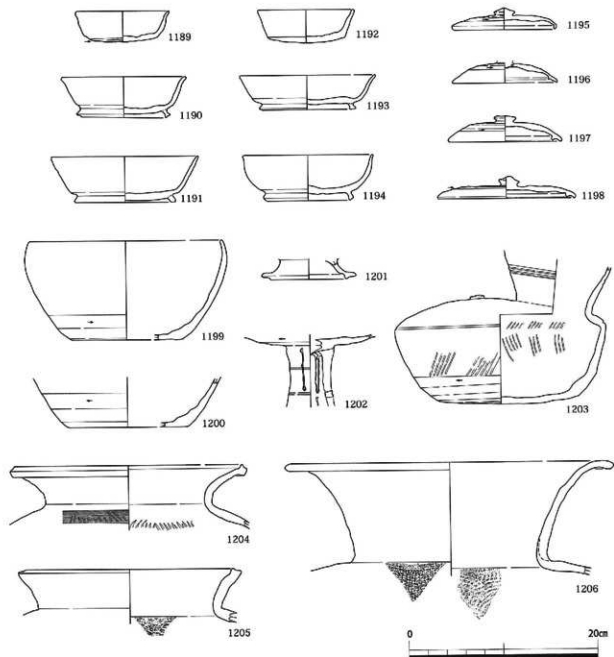


図186 包含層出土古代遺物(2)

蛸壺の把手部である。釣鐘形を呈するものである。把手や体部の破損部を再加工している可能性がある。古代のものである。1214は、土師器皿である。中世のものに似ている。平安I（新）の時期と考えられる。1215は、ほぼ完形の土師器杯身である。内外面に煤が付着した痕跡が残っている。外面は熱を受けており、赤く変色している。粘土紐の継ぎ目が残る。平安I（新）の時期と考えられる。1216は、土師器甕の口縁部付近である。内外面に煤が付着している。外面は熱を受けており、赤く変色している。外面は、口縁部から体部にかけて縦方向の粗いハケ調整が施されている。平城宮I～IIの時期と考えられる。1217は、土師器甕の上半部である。口縁部内面には、横方向の粗いハケ調整が施されている。体部内面には、指頭圧痕が見られる。

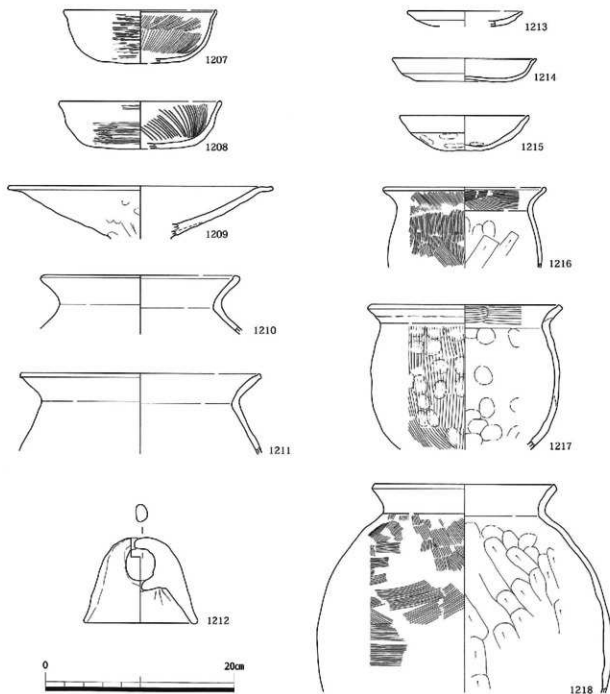


図 187 包含層出土古代遺物 (3)

中央北区の北東部のE区北半部で検出されたもののうち、中層の遺物包含層からの出土品を図188に示す。1219・1220は、須恵器杯身である。いずれも飛鳥Ⅲ～Ⅳの時期と考えられる。1221・1222は、須恵器高台付杯身である。1222は、高台の内側に円形状に並ぶ爪圧痕がみられる。いずれも平城宮Ⅴの時期と考えられる。1223は、須恵器蓋である。平城宮Ⅰ～Ⅱの時期と考えられる。1224は、須恵器杯蓋である。外面に薄く灰をかぶっている。平城宮Ⅲ～Ⅳの時期と考えられる。1225は、須恵器甕の口縁部である。平城宮Ⅳの時期と考えられる。1226は、須恵器小型壺であり、口縁部は欠損している。外面に薄く灰をかぶっている。体部外面に溶着痕が残る。平安Ⅰ（中）～（新）の時期と考えられる。1227は、須恵器杯身である。飛鳥Ⅳ～Ⅴの時期と考えられる。1228は、土師器皿である。平城宮Ⅴの時期と考えられる。1229は、土師器鉢である。内面に、数個の爪圧痕が集合したような圧痕が複数見られる。平城宮Ⅲの時期と考えられる。1230は、土師器高杯の杯部である。内面には放射状暗文が見

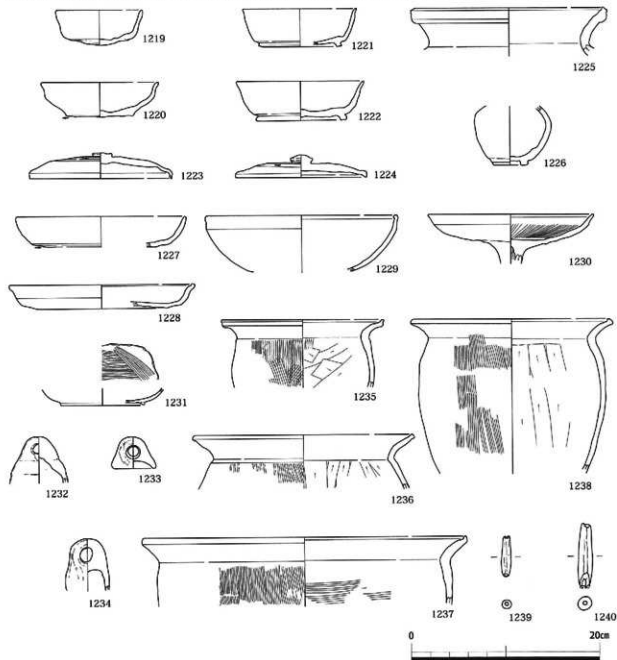


図188 包含層出土古代遺物（4）

られる。飛鳥Ⅲの時期と考えられる。1231は、黒色土器碗の底部である。内黒のもので、胎土に金雲母が多く含まれている。平安Ⅱ（後）の時期と考えられる。1233は、須恵器飯蛸壺のつまみ部である。破損部を打ち欠いたり、擦ったりして体部を再加工している。奈良時代のもと考えられる。1234は、土師器飯蛸壺のつまみ部である。再加工はされていない。奈良時代のもと考えられる。1235は、土師器壺の上半部である。外面と口縁部内面に煤が付着している。体部外面には、縦方向の粗いハケ調整が施されている。平城宮Ⅲの時期と考えられる。1236は、土師器壺の口縁部付近である。内外面に煤が付着している。体部外面には、縦方向の粗いハケ調整が施されている。平安Ⅰの時期と考えられる。1237は、土師器壺の口縁部付近である。体部外面には、縦方向の粗いハケ調整が施されている。体部内面には、横方向の粗いハケ調整が施されている。平城宮Ⅲの時期と考えられる。1238は、土師器壺の上半部付近である。底部を欠損している。体部外面には、縦方向の粗いハケ調整が施されている。体部内面には、縦方向のヘラケズリ調整が見られる。外面に煤が付着している。平城宮Ⅲの時期と考えられる。1239・1240は、一端がわずかに欠損しているが、ほぼ完形の土師質の管状十鍾である。時期は不明であるが、他の土師器や須恵器などとともに出土したものである。

前述したように、古代集落における出土遺物の時期は、飛鳥Ⅲ～Ⅴの時期と平城宮Ⅲ～Ⅳの時期にピークを迎えるものといえる。時期別に遺構のまとまりを复原することはできなかったが、この2時期を中心として、中央北区の北半部に集落が展開したことが推測される。

古代集落の周辺から出土した遺物については、出土量は少なく、集落の北側にあたる北区の遺物包含層から出土した遺物のうち、図化できたものは3点である。図187-1213・1218は、C区南半部の下層の遺物包含層から出土したものである。1213は、土師器皿である。時期ははっきりしないが、平安Ⅱの時期と考えられる。1218は、土師器壺の上半部である。体部外面には、上半に縦方向、下半に横方向のハケ調整が施されている。内面には、縦方向のヘラケズリ調整が見られる。平城宮Ⅰ～Ⅱの時期と考えられる。図188-1232は、B区の遺物包含層から出土したものである。須恵器飯蛸壺のつまみ部である。破損部を打ち欠いたり、擦ったりして再加工している。奈良時代のもと考えられる。

集落の南側にあたる、E区南半部とG区で検出されたもののうち、遺物包含層からの出土品を図189に示す。北側と比べると、比較的遺物量は多い。図189-1241は、須恵器杯身である。外面に灰をかぶっている。飛鳥Ⅲ～Ⅳの時期と考えられる。1242は、須恵器高台付杯身である。平安Ⅰ（中）の時期と考えられる。1243は、須恵器杯蓋である。縁辺部を欠損している。わずかに焼け歪みがある。奈良時代のもと考えられる。1244は、土師器杯身である。平城宮Ⅲ～Ⅳの時期と考えられる。1245・1246は、須恵器高台付杯身である。いずれも、平安Ⅰ（中）の時期と考えられる。1247・1248は、土師器皿である。表面に化粧土が施されている。いずれも、平城宮Ⅲ～Ⅳの時期と考えられる。1249は、須恵器壺の口縁部である。内外面に自然釉がかかっている。平城宮Ⅳの時期と考えられる。1250は、中世の遺構から検出された混入品である。口縁部が一部欠損しているが、小型の須恵器壺である。器壁は厚手である。口縁部内面と肩部外面に灰をかぶっている。平城宮Ⅲ～Ⅳの時期と考えられる。1251は、ほぼ完形の須恵器飯蛸壺である。古墳～奈良時代のもと考えられる。1252は、土師器鉢である。口縁がやや内湾している。内面には2段の放射状暗文が部分的に見られる。外面には横方向のヘラミガキ調整が施されている。平城宮Ⅲ～Ⅳの時期と考えられる。1253は、小型の黒色土器碗である。内外面とも黒色を呈しており、横方向のヘラミガキ調整が見られる。平安時代のもと考えられる。1254は、土師器高台付鉢である。高台以下を欠損している。外面に指頭圧痕が見られる。平安時代のもと考えられる。

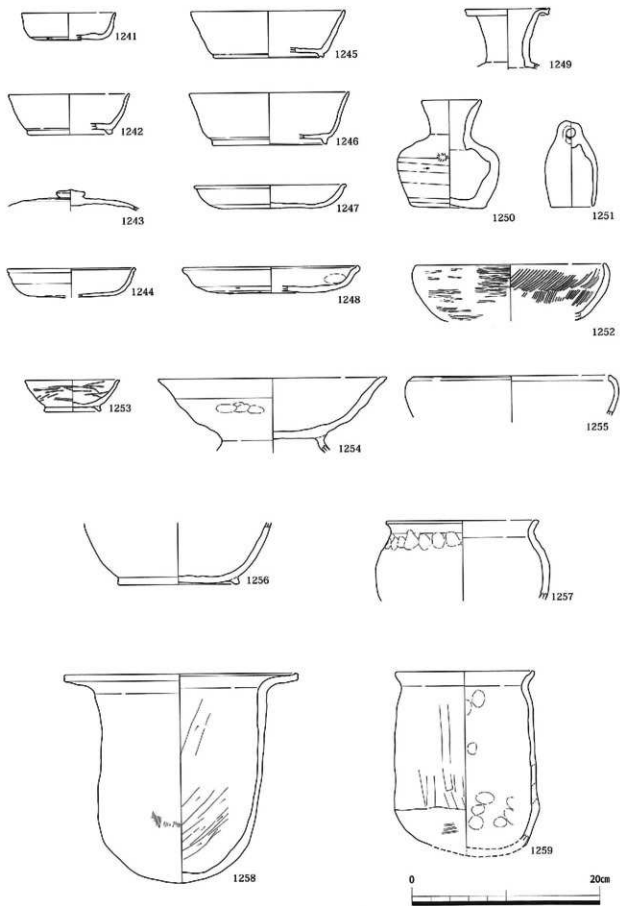


图 189 包含层出土古代遗物 (5)

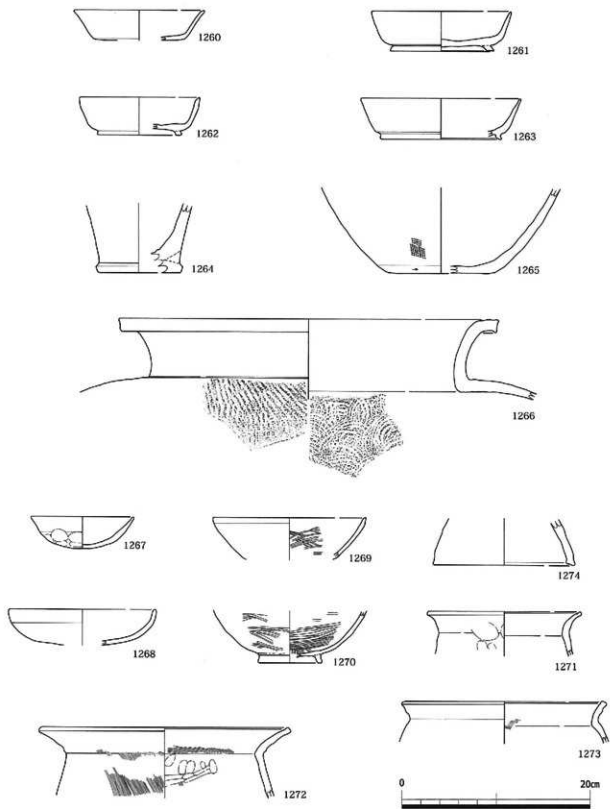


圖 190 包含層出土古代遺物 (6)

1255は、灰釉陶器鉢の口縁部である。いわゆる鉄鉢形を呈しており、口縁が内湾している。胎土が白い。平安時代のもと考えられる。1256は、土師器高台付鉢の底部である。上部の形状が不明であるため、壺の可能性もある。奈良時代のもと考えられる。1257は、土師器甕の口縁部付近である。頸部以下は、横方向のナデ調整が施されている。平城宮Ⅳ～Ⅴの時期と考えられる。

1258・1259は、G区の遺物包含層から検出されたものであるが、混入品である。1258は、土師器甕である。口縁部が強く外反し、ほぼ水平になっている。外面に煤が付着している。平城宮Ⅰの時期と考えられる。1259は、土師器甕である。内面に粘土紐の接合痕が残っている。外面に煤が付着している。奈良時代のもと考えられる。G区の中世の溝からは、混入品であるが、図版88—1449の須恵器獸脚が出土している。碗の脚と考えられるが、先端部も欠損しているため、詳細は不明である。ヘラで12面体に面取りしており、つま先側がカーブした面に灰をかぶっている。古代のもと考えられる。

中央南区や南区では、古代の遺構の検出も少ないことから、遺物包含層からの出土量は非常に少ない。遺物包含層からの出土品を図190に示す。ここでは、地区別にまとめてみることにする。

図190—1274は、H区の中世土坑530015から出土したもので、混入品である。須恵器台付壺の脚部と考えられるが、全容ははっきりしない。古代のものとしているが、古墳時代までさかのぼる可能性もある。1264と1272は、I区の遺物包含層から検出されたものであるが、混入品の可能性がある。1264は、須恵器すり鉢の底部である。内外面の一部に灰がかぶっている。時期ははっきりしないが、奈良時代のもと考えられる。1272は、土師器甕の口縁部である。体部外面には、縦方向のハケ調整が施されている。平城宮Ⅲ～Ⅳの時期と考えられる。

図186—1192・1197と図190—1268・1273は、L区の下層の遺物包含層から検出されたものである。1192は、須恵器杯身である。平城宮Ⅰ～Ⅱの時期と考えられる。1197は、須恵器杯蓋である。外面に灰をかぶっている。飛鳥Ⅳの時期と考えられる。1268は、土師器杯身である。皿の可能性もある。平安Ⅰ（中）の時期と考えられる。1273は、土師器甕の口縁部である。胎土に微角閃石や金雲母を含んでいることから、生駒西麓産の可能性もある。平安Ⅱ（中）～（新）の時期と考えられる。

1261は、N区の攪乱から出土したもので、混入品である。須恵器高台付杯身で、破損後に煤が付着している。平城宮Ⅰ～Ⅱの時期と考えられる。1262・1266・1271は、O区の下層の遺物包含層から検出されたものである。1262は、須恵器高台付杯身である。平城宮Ⅱの時期と考えられる。1266は、須恵器甕の口縁部である。大型のもので、平安時代のもと考えられる。1271は、土師器甕の口縁部である。外面に煤が付着している。平城宮Ⅲ～Ⅴの時期と考えられる。1260・1263・1265・1267は、P区の下層の遺物包含層から検出されたものである。1260は、須恵器杯身である。平城宮Ⅴ～Ⅵの時期と考えられる。1263は、須恵器高台付杯身である。平城宮Ⅴの時期と考えられる。1265は、須恵器すり鉢の底部である。外面の一部に平行タタキ目が残っている。底部内面が摩滅している。奈良時代のもと考えられる。1267は、土師器椀である。平安Ⅰ（中）の時期と考えられる。

1269は、南区のV区の遺物包含層から検出されたものであるが、混入品である。内黒の黒色土器椀で、底部を欠損している。内面に横方向のヘラミガキ調整が見られる。平安時代のもと考えられる。1270は、南区のZ区北半部の遺物包含層から検出されたものであるが、混入品である。内黒の黒色土器椀で、口縁部を欠損している。内外面に横方向のヘラミガキ調整が見られる。平安時代（11世紀前半）のもと考えられる。



## 第5節 中世の遺構・遺物

古代には、中央北区で集落がつくられていたことがわかり、この部分を中心として遺物の出土がみられた。中央北区と北区を分ける位置に、調査区を横切るかたちで当時の道路が存在したことが推測され、交通の要所として機能していたものと考えられる。また、南区では南北方向に流れる流路が検出され、遺構はみられないものの、遺物がまとまって出土していることから、近接して集落がつくられていた可能性が考えられる。弥生時代の集落とは、立地が異なっている。

中世の遺構や遺物が検出された部分は、弥生集落や古代集落と立地が異なっており、あまり重複しない位置にあたる。大きく分けて、中央北区南端部から中央南区北端部にかけての部分と、南区の南半部の2ヶ所でまとまって検出されている。いずれも、集落の中心からはずれた部分を検出したのみであるため、集落の全容はわからないが、出土遺物などから集落の性格をある程度推測することができる。ここでは、便宜上、北側のまとまりを中央部集落、南側のまとまりを南部集落と呼称することにす。中央部集落では、遺構はあまり検出されておらず、瓦類を主体とした遺物が多く出土している。南部集落は、検出された面積が狭いが、2ヶ所でピットがまとまって検出されているほか、一方では鍛冶をおこなっていたと考えられる遺物などが出土しており、建物が連なった集落が存在したことがわかる。

ここでは、中世の成果を、中央部集落、南部集落の状況に分けて述べることにす。

### 1. 中央部集落

中央部集落は、中央北区南端部から中央南区北端部にかけての部分のうち、E区南端部とH区、I区北端部で検出されている。ピットは検出されておらず、具体的に掘削された遺構もあまりみつからないが、くぼんだ部分で瓦類を主体とした遺物が廃棄された状態で、多く出土している。集落の中心部分は、調査区の東側に展開するものと考えられ、現在の馬場集落につながるものといえることができる。

#### (1) 層序

具体的な集落の全容がはっきりしないため、堆積状況を見る部分特定することはむずかしいが、ここでは、溝がまとまって検出されたE区南端部の堆積状況を見ていくことにす。遺構の密集している部分のうち、西壁と南壁の断面図を採用した(図191・192)。

土層の大まかな傾向としては、すでに述べたように、北から南へ向かって緩やかに上がっている状況である。中央北区の北半部では、この傾向は見られるが、南半部では比較的平坦な地形が続く。

調査前に耕作地であったことから、地表に10～20cmの厚さで口耕作土層や床土層がみられる。近世に大規模な整地がおこなわれている。北側で、整地により約40cmの段差が設けられており、耕作地が区画されている。遺物包含層は、北側で削平をうけており、ほとんど残存していないが、南側では比較的良好に残っている。基本的には、2層に分かれる遺物包含層が認められる。いずれの遺物包含層も北側が薄く、南側はやや厚くなる。

上層の遺物包含層は、黄色シルトや褐色シルトを主体としている。厚さは、10～20cmを測り、南側が厚い。中世から近世にかけての耕作土層と考えられ、部分的にはさらに土層が細分できる。この層の除去面が基本的に中世の遺構面である。遺物の量は少ない。

下層の遺物包含層は、暗褐色粘質土を主体としている。厚さは、10～30cmを測り、部分的に厚いところが見られる。古代の遺物包含層と考えられるが、遺物の量は少ない。この層の除去面が、最終遺構検出面であり、地山面と判断した。また、部分的に黄褐色礫混じり粘質土を主体とする地山も見られ、

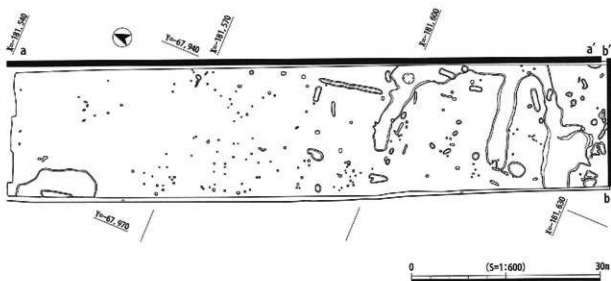
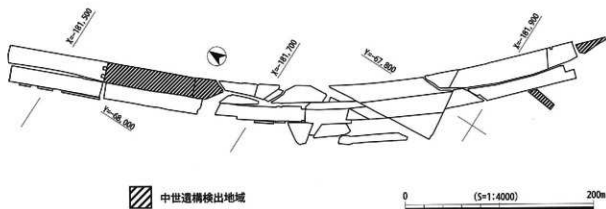
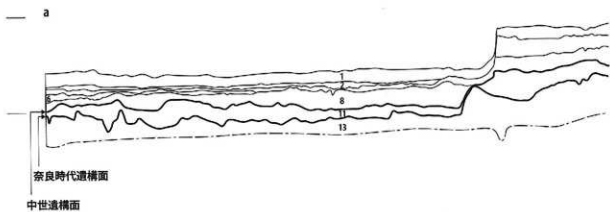


図191 中世遺構検出部分土層断面図(1)

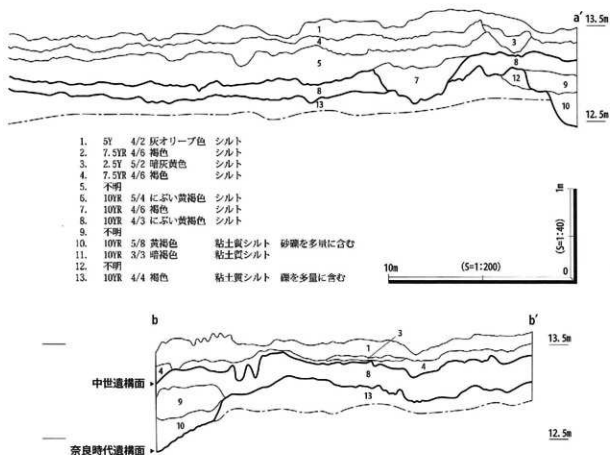


図192 中世遺構検出部分土層断面図(2)

地山は一定ではない。この礫層は締まっており、粘質土を主体とする地山とは対照的である。

東西方向の堆積状況を示すため、南壁断面図をあげている。立地している平坦地のつづきであり、堆積状況にあまり違いがないことから、採用した。上層の遺物包含層は、褐色シルトを主体としている。中世から近世にかけての耕作上層であり、この層の除去面が基本的に中世の遺構面である。遺物の量は少ない。下層の遺物包含層は、暗褐色粘質土を主体としている。古代の遺物包含層と考えられるが、遺物の量は少ない。部分的に、黄褐色礫混じり粘質土を主体とする地山も見られる。大規模な削平がおこなわれており、中央北区の南半部では、古代の遺物包含層はほとんど残存していない。

## (2) 北区

中央部集落の記述の前に、北区の状況を述べておく。基本的に北区では、中世遺構の検出はなく、明確な遺物も出土していない。遺物包含層からも、中世の遺物の出土量は少ないが、その中で図化できたものを図193に示す。いずれも、後世の遺物とともに検出された混入品であり、純粋な中世の遺物包含層は存在していない。

1275は、B区から出土したもので、土師器皿である。白色を呈する。1276は、B区から出土したもので、白磁碗の口縁部である。玉縁口縁であり、外面の下部で露胎が認められる。13世紀前半のものと考えられる。1277は、C区南半部から出土したもので、白磁碗の口縁部である。玉縁口縁であり、

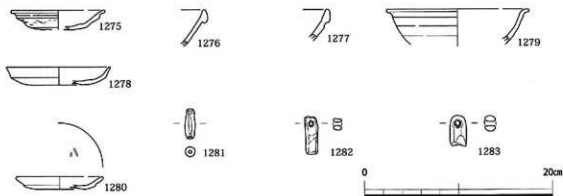


図 193 北区出土中世遺物

13世紀前半のものと考えられる。1278は、C区南半部から出土したもので、土師器皿である。13世紀のものと考えられる。1280は、C区南半部から出土したもので、瓦器小皿である。見込み部にわずかに暗文が認められる。1281は、B区から出土したもので、土師質の管状土鍾である。1282は、C区北半部から出土したもので、土師質の有孔土鍾である。一部欠損している。1283は、C区南半部から出土したもので、土師質の有孔土鍾である。半分ほど欠損している。土鍾の時期は不明である。

明確な遺物は、以上のように数も少なく、破片のみである。今回の調査区内では、中世の明確な遺構はみつかっていないが、調査区北端を東西方向に横切る府道堺阪南線の北側には、中世の集落遺跡である、戎畑遺跡などが存在しており、多くの遺構や遺物がみつまっている。北側の男里天神の森遺跡の調査でも、中世の遺構や遺物が多く検出されている。海岸線に近い部分では、中世の遺構が多く検出されていることから、中世以降、この部分に集落が形成されたことがわかる。

### (3) 中央北区

中央北区の南端部にあたる、E区南端部で、溝250001を中心とする遺構群が検出されている。溝250001は、建物などの区画溝の形状を呈している。詳細は後述するが、瓦類を主体とする遺物が多く出土している。周辺では土坑がまとまって検出されており、中には火葬墓と考えられるものも存在する。ピットはあまり検出されておらず、建物は復原できない。遺構の検出状況から、集落が営まれていたような状況とは考えられない。

また、続く中央南区の北端部にあたる、H区やI区北端部では、具体的な遺構はあまり検出されていないものの、瓦類を主体とする遺物が多く出土している。ここからは、径10～20cmの角礫も多く見られる。全体に削平が顕著な部分であり、近世以降の整地により、遺物包含層がほとんど残存していない状況である。このため、くぼんだ部分の底部付近のみが検出されていることになる。実際には、さらに多くの瓦類や角礫が埋まっていたことになる。これらのことから、周辺に寺院が存在していたことが推測される。

調査区内からは、具体的な寺院に関係するような遺構は検出されていないが、隣接して現在の馬場集落が存在しており、規模ははっきりしないが、中世には同じ場所に集落が営まれていたことが考えられる。現在のところ、馬場集落内には寺院が存在しておらず、集落内で具体的な寺院の遺構などは検出されていない。文献史料などにも、馬場集落に存在した寺院は具体的には見られず、寺院を特定するまでには至っていない。ただ、集落内に「安浪寺跡上地（あんようじあとかみち）」という小字が残っていることから、安浪寺と称する寺院が存在したことは確実である。なお、現在の男里集落には、径10～

20cmの角礫を用いた土塀が随所に見られることから、出土した角礫は、このように利用されていたものと考えることができる。

まず、E区南端部の状況から述べるが、前述したように、区画溝と考えられる溝250001を中心とする遺構群が検出されている。火葬墓と考えられる土坑なども見られ、墓が複数存在した可能性がある。なお、出土遺物のうち、瓦類に関しては、黒田慶一氏によって詳細な観察がおこなわれていることから、別項を設けて掲載している。

#### 溝250001 (図195～197、図版26、27、89、90)

中央北区の南東側にあたる、E区南端部で検出された。全体に上部は削平されているため、底部付近のみの検出である。区画溝の様相を呈しており、調査区東端に沿って南北方向につくられた溝から、ほぼ直交した溝が、西に向かって3条のびている。2ヶ所の区画を形成しているかたちである。

南北方向の溝は、東側が調査区外に広がるため、全容ははっきりしない。規模は、現状で長さ約24m、幅1.5～3m、深さ約10cmを測る。方向は、ほぼ北北西にのびている。西にのびる溝のうち北側のものは、検出面で長さ約12m、幅約2m、深さ約10cmを測る。方向は、ほぼ西にのびている。西にのびる溝のうち中央のものは、検出面で長さ約15m、幅約3m、深さ20～30cmを測る。方向は、西からやや南側に曲がっている。西にのびる溝のうち南側のものは、検出面で長さ約19m、幅約1.5～7m、深さ20～60cmを測る。中央部分が広がっており、規模が大きくなることから、新たに掘削された可能性がある。方向は、ほぼ西南西にのびており、中央の溝に比べてやや南側に曲がっている。

西にのびる溝のうち北側のものは、上部をかなり削平で失っており、底部のみの検出である。埋土は、黄褐色シルトが主体であるが、瓦類や径10～20cmの角礫が多く出土している。西にのびる溝のうち中央のものも、上部をかなり削平で失っており、底部のみの検出である。埋土は、2層に分けられ、上層は黄褐色シルト、下層はにぶい黄色シルトが主体である。下層は、厚さ5cm程度であり、非常に薄い層である。西にのびる溝のうち南側のものも、上部をかなり削平で失っており、底部のみの検出であるが、中央部分が土坑状を呈しており、深く掘削されていることから、かなり残存している。この部分の埋土は、3層に分けられ、上層は黄褐色シルト、中層はにぶい黄色シルト、下層は褐色粘質シルトが主体である。埋土からは、溝の状況はあまり把握できないが、少なくとも、西にのびる溝のうち南側のものの中央部分の深いところで、粘質土が堆積していることから、ある時期に滞水状態であったことがわかる。

不定形であるが、区画溝と考えられる。ただ、区画された部分では、

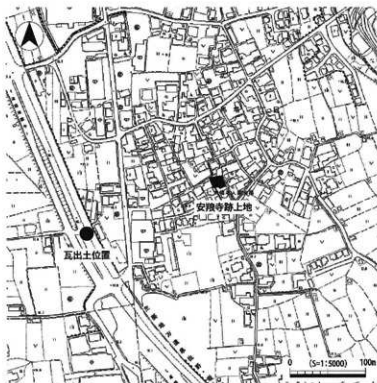


図194 中世中央部集落と馬場集落

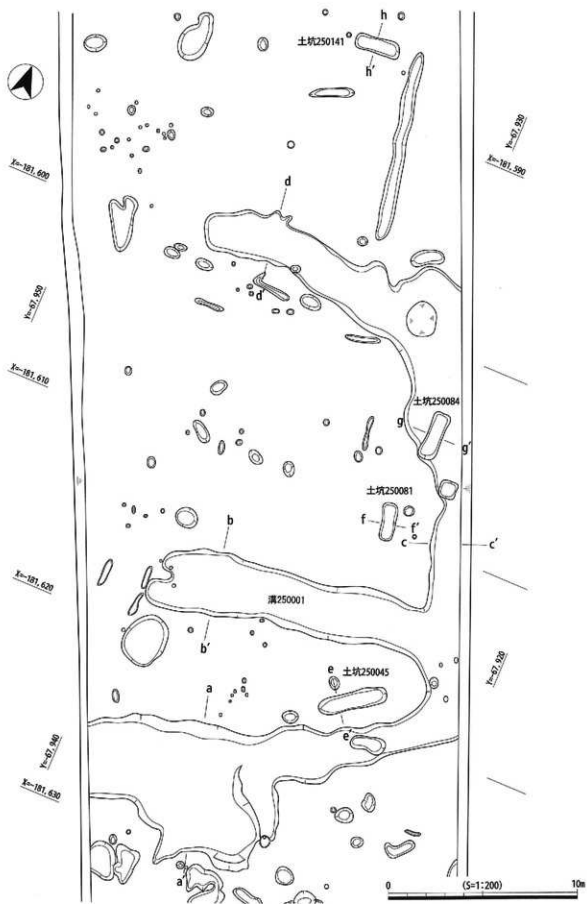


图195 中央北区遺構平面図

特にピットや土坑などの遺構は検出されていない。2ヶ所の区画のうち、北側の区画は、南北約14m、東西約12mの範囲をもっており、建物が存在するのに十分な面積であるといえる。礎石建物がつくられていたとすれば、削平により礎石が失われたことも考えられ、この部分に建物が存在した可能性は否定できない。この部分の周囲の溝内から多くの瓦類が出土していることから、寺院に関連する建物の存在を示しているといえる。現状では、詳細ははっきりしないが、この部分に礎石建物が存在した可能性は高いものといえる。一方、南側の区画は、南北約6m、東西約15mの範囲をもっているが、北側の区画とは様相は異なる。削平により礎石が失われたことも考えられ、この部分に建物が存在した可能性は否定できないが、北側の区画のように建物がつけられていた可能性は低いものといえる。

遺物は、前から述べているように、多くの瓦類が主体である。ただし、瓦類に関しては別項で扱うため、

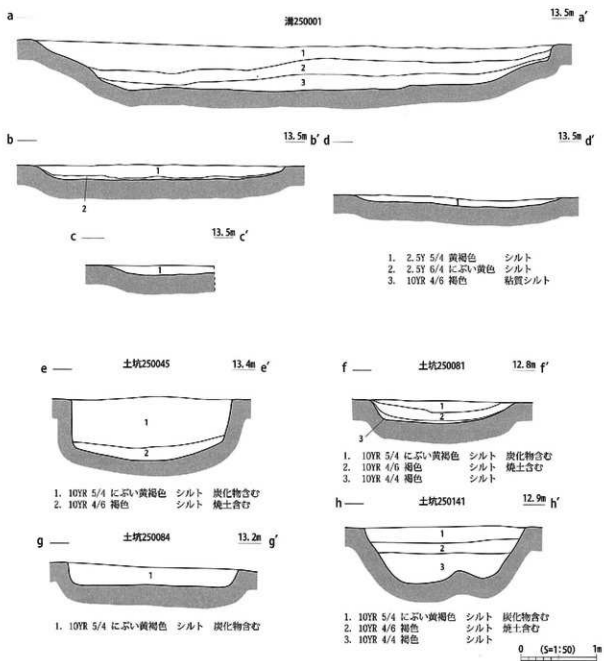


図196 中央北区遺構断面図

ここでは土器類の記述のみとし、主な遺物を図197に示す。遺物包含層出土のものも、溝に関連する遺物と考えられるため、ここで扱うこととする。瓦類に関しては、軒瓦で文様のはっきりするものに限ったが、総出土量はかなりの量にのぼる。

1284・1285は、包含層から出土したもので、土師器皿である。1284は、回転糸切り底である。いずれも13世紀の時期と考えられる。1286と図200-1305は、包含層から出土したもので、瓦器椀である。1286は、高台が退化し、わずかに残るタイプである。13世紀前半の時期と考えられる。1305は、高台が残っていることから、1286より古いタイプで、12世紀後半の時期と考えられる。1287は、溝から出土したもので、瓦質土器播鉢の口縁部である。片口部が残存している。内面に播り目が残っている。14世紀の時期と考えられる。1289は、溝から出土したもので、瓦質土器甕の口縁部である。口縁部の外反は短く、横方向のナデ調整により頸部を成形している。体部外面には、横方向のタタキ調整が施されている。14世紀後半の時期と考えられる。1290～1297は、溝から出土した瓦類であるが、詳細は後述する。なお、図版90-1450Iは、G区の近世井戸から出土した混入品で、鬼瓦である。口から鼻にかけての部分である。また、図200-1306は、G区南端部の近世溝から出土した、混入品であるが、土師器鍋の口縁部である。外面の頸部付近に、ハケ目の痕跡が認められる。外面に煤が付着している。他地域産の可能性もある。溝250001とは直接の関係はないが、隣接した位置にあることから、ここで報告しておく。

#### 土坑250045 (図195～197)

中央北区の南東側にあたる、E区南端部で検出された。溝250001による南側の区面の東半部に位置する。平面形は、東西方向に長い長方形を呈している。規模は、検出面で長辺約3.4m、短辺約1.0m、深さ約30cmを測る。埋土は、2層に分かれる。上層は、暗褐色シルトが主体で、焼土や炭化物を多く含む。下層は、褐色シルトが主体である。上層に、焼土が多く含まれており、土坑内部で燃焼した状況を呈している。このため、火葬墓と判断した。同様の土坑は、付近で複数検出されており、中世の墓地として、この付近が利用されていたことを示している。寺院に付随する施設と考えることができる。

遺物は、あまり出土していないが、図化できた遺物が1点見られる。図197-1288は、瓦質土器播鉢の上半部である。外面には、縦方向のヘラケズリ調整が見られる。内面には煤が付着している。熱を受けており、一部変色している。14世紀の時期と考えられる。

#### 土坑250141 (図195、196、図版27)

中央北区の南東側にあたる、E区南端部で検出された。溝250001による区面のさらに北側に位置する。平面形は、東西方向に長い長方形を呈している。規模は、検出面で長辺約2.2m、短辺約0.7m、深さ約30cmを測る。埋土は、3層に分かれる。上層は、暗褐色シルトが主体で、焼土や炭化物を多く含む。中層および下層は、褐色シルトが主体である。上層に、焼土が多く含まれているが、中層の土が燃焼により変色したものと考えられる。土坑内部で燃焼した状況を呈している。土坑250045と同様に、火葬墓と考えられる。遺物はあまり出土しておらず、図化できるものはなかった。

#### 土坑250084 (図195、196、図版27)

中央北区の南東側にあたる、E区南端部で検出された。溝250001の南北方向の溝と重複しており、土坑のほうが古いものと考えられる。溝250001により上部が削平されている。平面形は、南北方向に長い長方形を呈している。規模は、検出面で長辺約2.4m、短辺約0.8m、深さ約10cmを測る。埋土は、暗褐色シルトが主体で、焼土や炭化物を多く含む。土坑内部で燃焼した状況を呈している。土坑250045



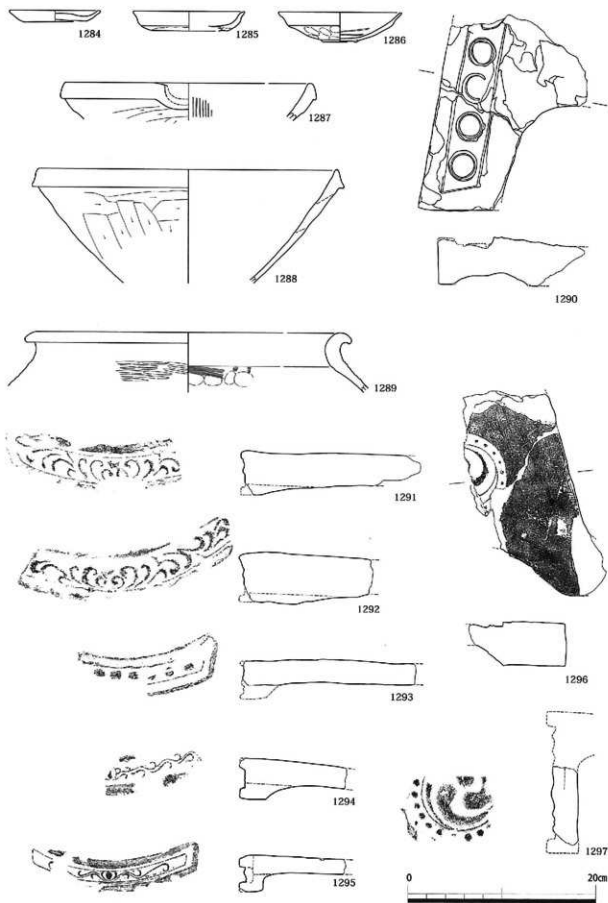


图 197 中央北区出土中世遗物

などと同様に、火葬墓と考えられる。遺物はあまり出土しておらず、図化できるものはなかった。

#### 土坑250081 (図195、196、図版27)

中央北区の南東側にあたる、E区南端部で検出された。溝250001による北側の区画の東半部に位置する。土坑250084から南へ約3m離れている。平面形は、南北方向に長い長方形を呈している。規模は、検出面で長辺約1.8m、短辺約0.7m、深さ約10cmを測る。埋土は、3層に分かれる。上層は、にぶい黄褐色シルトが主体で、焼土や炭化物を多く含む。中層および下層は、褐色シルトが主体である。上層に、焼土が多く含まれているが、中層の土が燃焼により変色したものと考えられる。土坑内部で燃焼した状況を呈している。土坑250045などと同様に、火葬墓と考えられる。遺物はあまり出土しておらず、図化できるものはなかった。

火葬墓が複数検出されており、堆積状況は類似しているが、平面形や位置関係にはあまり制約がなく、一連のものとはいえない状況である。ただし、複数の火葬墓がまとめて検出されたことは、この場所が中世のある時期に墓地として使われていたことを示している。また、一般の土坑墓が見られないことも特徴のひとつといえる。

#### (4) 中央南区

中央南区の北端部にあたる、H区北端部で遺構や遺物が部分的にまとめて検出されている。H区は、全面にわたって、近世以降の大規模な削平をうけており、遺物包含層の残存状況はあまり良好ではなかった。その中で、北端部の一部では、地山面がやや下がっていたことから、削平を免れた遺構や遺物が多く残存していた。土坑やピットが、部分的に密集したかたちで検出された。ただし、現代の建物の基礎などにより、攪乱をうけており、形状がはっきりしないものが多い。

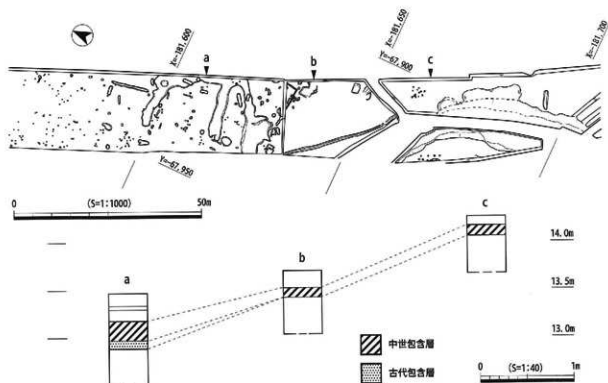


図198 中央南区周辺遺構分布図

### 土坑530015 (図199、200、図版27、90)

中央区の北端部にあたる、H区北端部で検出された。遺構が検出された部分の南端に位置しており、攪乱により大部分が失われており、平面形ははっきりしない。L字状を呈しており、当初、北西部を土坑530002、南東部を土坑530015として調査を進めた。2基の土坑が重複しているものと考えられるが、新旧関係は不明である。いずれも深さ約20cmを測る。北西部の埋土は、にぶい黄褐色シルトが主体で、炭化物や焼土を含む。南東部の埋土は、黄褐色シルトが主体で、炭化物や焼土を含む。やや埋土に違いが認められるが、焼土の割合の差とも考えられるため、実質は同じものといえる。

遺物は、図化できるものが若干見られ、図200に示す。1298・1299は、北西部から出土したもので、土師器皿である。いずれも白色を呈しており、14世紀代の時期と考えられる。1300は、南東部から出土したもので、土師器真蛸甕の底部である。胎上に橙色の土器碎片が混入している。外面は手づくねで成形されており、指頭圧痕が無数に見られる。室町時代の時期と考えられる。1301・1302は、南東部から出土したもので、軒平瓦である。詳細は後述する。

### 土坑530016 (図199、200、図版27、90)

中央区の北端部にあたる、H区北端部で検出された。土坑530015の南端部に位置しており、土坑530015を切ったかたちでつくられている。ピット状を呈しており、径約80cm、深さ約30cmを測る。埋土は、黄褐色シルトが主体で、炭化物を含む。遺物は、あまり出土していないが、図化できた遺物が1点見られる。図200-1303は、中世須恵器の捏鉢であり、底部を欠損している。口縁部の外面に溶着痕が見られる。13世紀の時期と考えられる。

これ以外に、遺構から出土した遺物はあまりないが、遺物包含層から出土した遺物のうち、図化できた遺物が若干見られるため、ここで示す。図200-1304は、瓦質土器の鍋であり、底部を欠損している。外面に煤が付着している。京都系のものであり、15世紀の時期と考えられる。1307～1311は、軒丸瓦および軒平瓦である。詳細は後述する。

H区北端部で検出された遺構埋土や遺物包含層には、焼土や炭化物が多く含まれていることから、寺院に関連する建物が、火災により焼失したものと考えられる。具体的な文献史料などの記事はないため、詳細は不明であるが、16世紀後半に織田信長が、泉州一帯の寺院に火を放ったことが、知られているこ

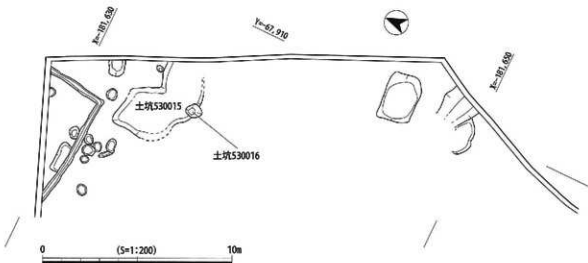


図199 H区中世遺構分布図

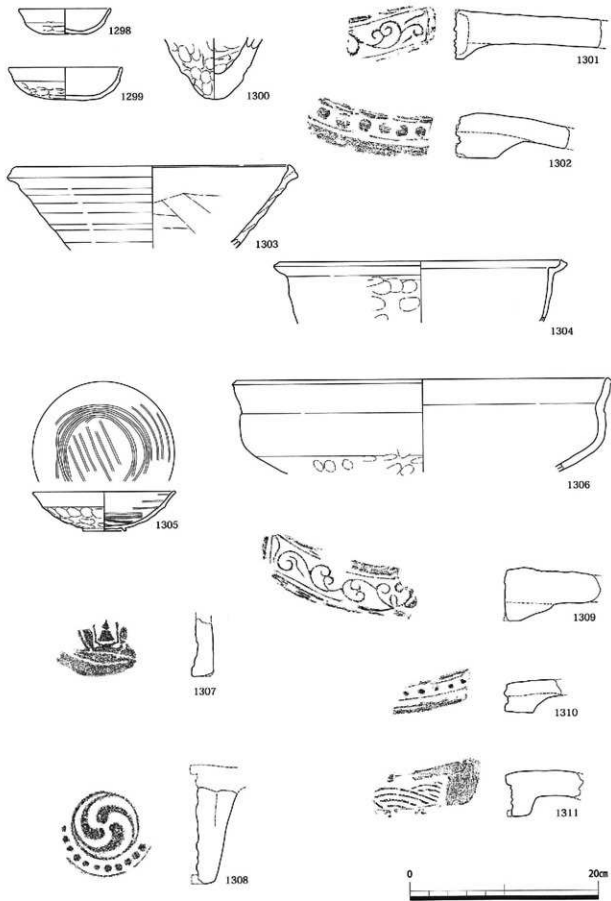


图 200 中央南区出土中世遗物 (1)

とから、この時期に焼失した寺院関連の遺物が、まとまって廃棄されたものと考えられる。

#### 溝540003 (図201～203、図版91～93)

中央南区の北端部にあたる、H区の南側に位置するI区北半部では、弥生時代の大溝1の上部で、ほぼ同じ位置を流れる溝540003が検出された。この溝は、現代の水路とも重複していることから、形状ははっきりしない部分がある。東側の肩部のみの検出であり、中心部から西側は、調査区外に広がる。多くの遺物が出土していることから、中世部分のみを抽出することができた。約30cmの深さで残存している。埋土は、にぶい黄褐色シルトが主体で、礫や炭化物を含む。詳細は不明であるが、現在でもほぼ同じ位置に水路がつくられており、機能していることから、中世でも水利にとつては重要な溝であったことが推定される。

調査開始時には、溝と認識せずに掘削した部分があり、遺物包含層として取り上げた遺物が多く見られる。この調査区の遺物包含層出土遺物は、ほとんどが溝540003に属するものと考えられるため、ここで同様に扱うこととする。図化できるものうち、土器類を図201、瓦類を図202、石製品を図203に示す。なお、瓦類に関する詳細は後述する。

図201-1312は、瓦質土器甕の口縁部である。口縁部の外反は短く、横方向のナデ調整により頸部を成形している。体部外面は、横方向のタタキ調整が施されている。内面は、横方向のハケ調整が見られる。15世紀の時期と考えられる。1313は、土師器羽釜の口縁部である。口縁部がやや内傾している。口縁部に段をもつ。内面は、横方向のハケ調整が施されている。15世紀の時期と考えられる。1314は、瓦質土器甕の口縁部である。口縁部の外反は短く、横方向のナデ調整により頸部を成形している。体部外面は、横方向のタタキ調整が施されている。内面には、横方向のハケ調整が見られる。熱を受けて、赤く変色している。15世紀の時期と考えられる。1315は、土師器羽釜の口縁部である。口縁部がやや内傾している。口縁部に段をもつ。内面は、横方向のハケ調整が施されている。熱を受けて、赤く変色している。15世紀の時期と考えられる。1316は、瓦質土器甕の口縁部である。口縁部の外反は短く、横方向のナデ調整により頸部を成形している。体部外面は、横方向のタタキ調整が施されている。15世紀の時期と考えられる。1317は、石鍋の口縁部である。外面に煤が付着している。15世紀の時期と考えられる。1318は、瓦質土器甕の口縁部である。口縁部の外反は短く、横方向のナデ調整により頸部を成形している。体部外面は、横方向のタタキ調整が施されている。15世紀の時期と考えられる。1319は、中世須恵器の捏鉢の口縁部である。内面に薄く自然釉がかぶっている。東海系と考えられる。1320は、土師器真蛸壺の底部である。内面には、指頭圧痕が残る。室町時代の時期と考えられる。1321は、唐津碗の底部である。削り出し高台で、内外面に胎土目が見られる。外面には溶着痕が認められる。17世紀初頭の時期と考えられる。

1322～1326は、遺物包含層出土遺物である。1322は、中世須恵器の捏鉢の底部である。内面は摩滅している。高台付のもので、東海系と考えられる。1323は、瓦質土器鉢の口縁部である。厚手のものであり、横方向のナデ調整が施されている。1324は、中国製青磁碗の高台部である。破損部を再加工している可能性がある。14世紀後半の時期と考えられる。1325は、唐津碗の底部である。内外面に胎土目が見られる。17世紀初頭の時期と考えられる。1326は、中国製青磁碗の底部である。見込みに圏線が1条巡っており、陰刻の草花文が描かれている。14世紀の時期と考えられる。

図202-1328～1339は、遺物包含層出土の瓦類である。詳細は後述する。図203-1340は、遺物包含層出土の石臼で、砂岩製の茶臼の上臼である。中央部で半割されており、さらに側面も欠損している。すり合わせ面は、切線3分画である。挽き木の側方打込み孔の周囲に四角の彫刻が付けられている。

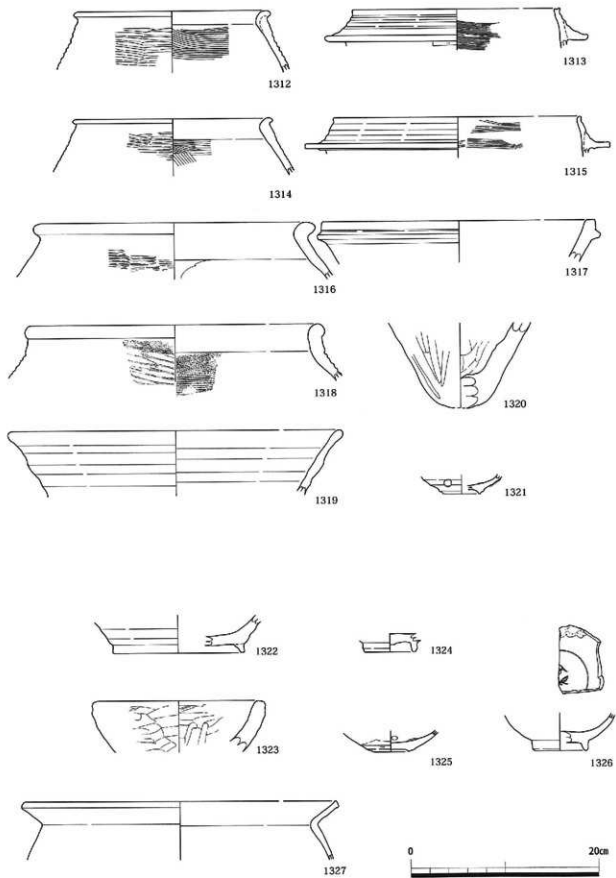


图 201 中央南区出土中世遗物(2)

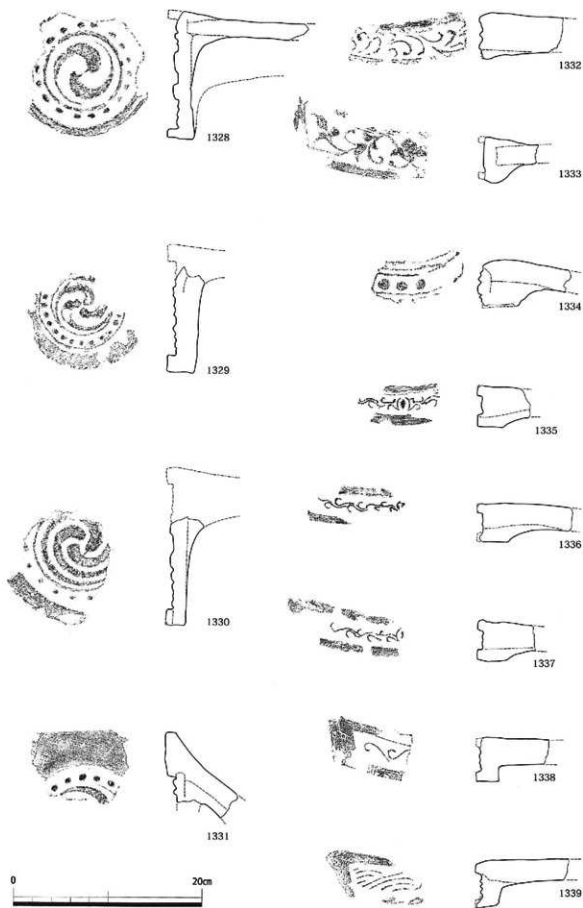


图 202 中央南区出土中世遗物 (3)

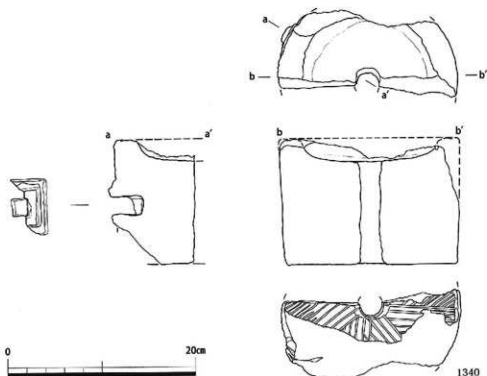


図 203 包含層出土土白

熱を受けて、赤く変色している。

このほか、中央南区の遺物包含層出土遺物のうち、図化できたものを図204に示す。前述したもののほかに、中世の遺構は検出されていないため、いずれも混入品である。純粋な中世の遺物包含層はなく、全体に近世以降の整地によって攪拌されているものである。また、耕作地として利用されていることから、全体に遺物量は少ない。遺物の検出状況に偏りは認められず、点在している状況である。

図201-1327は、中央南区の中央西側にあたる、O区の遺物包含層から出土したものである。土師器羽釜の口縁部である。胎土に結晶片岩を含んでいることから、紀伊産と考えられる。図204-1341は、中央南区の中央東側にあたる、L区の南端部のピットから出土したものである。混入品であり、ピットの時期を示すものではない。瓦器椀である。高台がまだ残っており、内面には、暗文が認められる。12世紀後半の時期と考えられる。1342～1345は、中央南区の北部にあたる、I区南端部の遺物包含層から出土したものである。1342は、須恵器杯身の高台部である。内面に自然釉がかかっている。平安I(中)の時期と考えられるが、中世の遺物と共存したものである。1343は、須恵器壺の底部である。底部外面に、回転糸切り痕とスサ状圧痕が見られる。平安時代の時期と考えられるが、中世の遺物と共存したものである。1344は、瓦質土器甕の口縁部である。横方向のナデ調整により、頸部を成形しており、口縁部を外方に湾曲させている。体部外面には、横方向のタタキ調整が施されている。14世紀の時期と考えられる。1345は、瓦質土器羽釜の口縁部である。口縁部がやや内傾する。口縁部に段をもち、体部外面に横方向のヘラケズリ調整を施している。内面には、横方向のハケ調整が見られる。15世紀の時期と考えられる。1346・1347は、中央南区の北部にあたる、I区南端部の遺物包含層から出土した軒丸瓦と軒平瓦である。瓦類に関する詳細は後述する。1348は、中央南区のほぼ中央部にあたるN区、1349は、L区の遺物包含層から出土したものである。いずれも、ほぼ完形の土師質の管状土錘である。時期は不明であるが、中世の遺物と共存したものである。



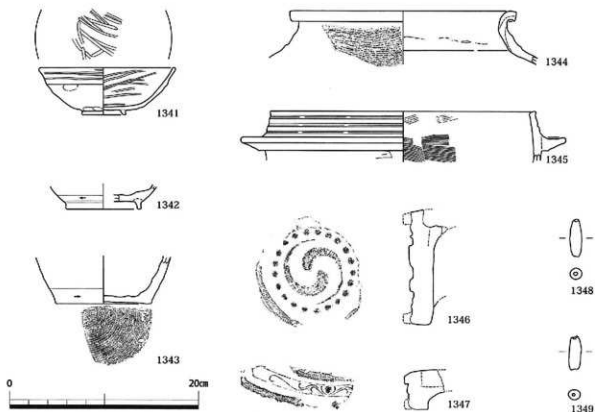


図204 中央南区出土中世遺物(4)

#### (5) 中央部集落出土土瓦

軒瓦・役瓦の記述においては、以下のようにした。軒丸瓦には二巴文・三巴文があるが、巴文の巻きの向きは、巴頭から尾への方向とする。軒平瓦は榫部分(外縁部の押さえ。文様区とは別個の榫型である可能性あり)の有無で、A型(無)とB型(有)に区別し(図205)、瓦当の成形は、粘土板貼付け(a)、水平貼付け(b)、斜め貼付け(c)、芋糺ぎ(d)に分けた(図206)。c成形を山崎信二氏は「瓦当貼り付け」と呼び、大和・京都・鎌倉では、山崎編年の中世Ⅲ期(1260～1300年)かそれ以降に盛行するが、和泉の瓦には存在しない(山崎信二 2000、155頁)とする。焼成の「瓦質」は瓦器のように低温焼成で断面が白色に近く、表面は燻され炭素の吸着が良好なものをいい、焼成が須恵質や土師質で燻されたもの、炭素吸着がないものとは区別した。

#### 図197、図版89、90

鬼瓦1290は溝250001出土で、復元高1尺ほどの隅鬼もしくは棟鬼の左半分の破片である。母屋を指ナゲ後、鬼面を接合したと見られる。側面に断面が台形の溝を作り、溝内に直径3.0cmの竹管によって連珠文を押捺している。裏面は基本的に指先で削り取るが、地を残す部分にはコビキ痕と離れ砂が見られる。中央の把手成形部際は深さ1cmほど半球形に削り取る。胎土は直径1～5mmの灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は瓦質である。

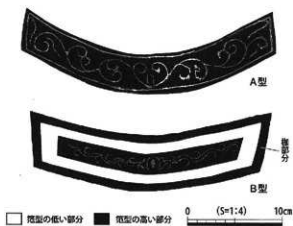


図205 軒平瓦の范型の2タイプ

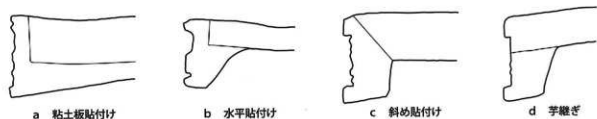


図206 軒平瓦の瓦当成形

唐草文軒平瓦1291は満250001から出土し、范型はA型で、1292・1332と同型式と思われ（後述）、直線顎をもつ。文様区は小さなC字対向の上に矢羽様のものを逆さにして置いた中心飾の左右に、同方向の唐草2本もしくは3本のセットを、子葉を介在させながら反転させ、文様区全体を細い界線で囲む。ただし今回の出土品からは、脇界線の有無は不明である。離型剤は使わない（瓦当面付着の粗粒砂は後世のもの）。凹面には全体的に布目圧痕が見られ、凸面台上で平瓦凸面に粘土を加え、a成形したようで、顎部分の幅4cmはヨコナデしている。海会寺の軒平瓦第ⅡB型式（泉南市教育委員会1987）は、左・右の第3唐草の形状などから、同型式と思われる。胎土は直径1mmほどの灰色クサリ礫をまばらに含むが粘土っぽく、須恵質の焼き上がりである。

唐草文軒平瓦1292は満250001出土で、文様区は1291と比較して、左右幅が15%ほど大きくなっているが、これは焼成前に瓦当面を下にして乾燥させた際、瓦当がつぶれた結果と思われる、唐草文様の凹凸や太細、また文様が左右非対称で、左第6唐草が下向きなのに対して、右第6唐草は上向きであるなど、一致していることから、1291と同型式と考えた。范型はA型で、離型剤を用いない。瓦当はa成形で、凸面は粗雑な作りの直線顎をもち、凹面は布目圧痕をよく残すが、瓦当際幅3cmは布目が消えている。胎土は直径1mmほどの橙色クサリ礫とチャートをまばらに含むが粘土っぽい。焼き方は全体的に浅く、焼きもやや甘く、淡灰色を呈している。

連珠文軒平瓦1293は満250001出土で、直径1.4cmの珠文を0.4～0.9cmの間隔をあけて配し、幅0.2cmの突線による界線で囲む。下外縁部と右外縁部が高さ0.5cmを測るのに対して、上外縁部は突出せず平らである。瓦当面が緩やかにカーブする段顎だが、単に芋継ぎ（d）したのではなく、凸面の側面際には十分に粘土を足して瓦当を補強したa成形である。瓦当成形の際、カキヤブリは施さない。瓦当面は離型剤を用いないが、平瓦凹・凸両面にも粗粒砂の離れ砂が付着する。范型はA型で、凸面台上で瓦当成形し、ヨコから范型を押し付けたと思われる。瓦当面の平瓦広端面に当たる部分は乾燥が進んでいたのか、范型の押捺が浅い。凹面中央部に布目圧痕は残るが、側面際は6cm幅で消えている。胎土は直径1～5mmほどの橙色クサリ礫を多く含むが粘土っぽく、焼きはやや甘く土師質で淡灰色を呈している。焼きは見られない。

唐草文軒平瓦1294は満250001出土である。1335～1337と同型式であり、C字の中央に太いタテ線を加えた三葉の中心飾の左右に、細い突線で描かれた唐草が8転する。中心飾の両側の唐草が上向きの「コ」字形を呈するのが、この范型の特長である。文様区には細粒砂の離れ砂が付着し、外縁部は0.5cmと高く、范型はB型である。瓦当はa成形で、幅3.0cmの顎をもつ。瓦当裏面から平瓦凸面にかけては工具でタテ方向にナデを施し、瓦当裏面が緩やかにカーブする段顎に仕上げている。凹面には粗粒砂の離れ砂が付着する。胎土は直径1mmほどの灰色クサリ礫とチャートを含むが粘土っぽく、瓦質に焼き上がっている。

唐草文軒平瓦1295は包含層出土である。上弦幅18.4cmと小型で、1347と同型式である。上に開口す

るC字の中に杏仁形の突起を配して中心飾とし、左右に枝の長い唐草を3転させ、細い界線で囲む。離型剤は用いない。外縁部は0.5～0.7cmと高く范型はB型で、瓦当はb成形の段頸。瓦当裏面下辺部を始点として、平瓦部凸面には幅2.1cmの工具を用いてタテ方向のナデを施す。凹面も工具によるタテ方向のナデ調整後、上外縁に幅0.7cm、深さ0.3cmの面取りを加える。胎土は直径1mmの灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、瓦質に焼成されている。

三巴文瓦瓦1296は溝250001出土で、復元高は1尺程度の棟鬼になると思われる。正面中央に、圏線をもち復元珠文数23個の左巻き三巴文を押捺するが、文様区径は8.3cmを測る。榫部分のない小型軒丸瓦の范型を用いたと見られる。裏面にはムシロ痕が見え、股割り上端から4cmほど上部で、把手成形のための半球形の割り取り穴がはじまる。胎土は直径1mmの灰色クサリ礫やチャートを含むが粘土っぽく、燻しがかかるが、焼成は須恵質である。

左巻き三巴文軒丸瓦1297は溝250001出土で、珠文の内側に圏線をもち、復元珠文数は24個を数える。巴文は頭が大きいぐびれ部は緩やかな弧を描き、尾は半周と短い。細粒砂の離れ砂を用いる。瓦当裏面は工具による不定方向のナデを施す。胎土は直径0.5～5mmの灰色クサリ礫を含むが、粘土っぽく、焼成は瓦質である。

#### 図200、図版90

唐草文軒平瓦1301は土坑530015出土で、1309や岸和田市堂浦廃寺(市本芳三 2001)と同型式である。同方向の大小の巻きがくつつく唐草や、巻きの弱い唐草などを、圏線内に配する。范型はA型で、離型剤を用いない。瓦当は段頸に近い曲線頸で、凹面にコピキA痕と粗粒砂の離れ砂、凸面に条線文のタタキ痕、側面の凹面側に幅1.5cmの面取りがある。胎土は直径0.5～8mmの橙色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は土師質だが燻しは良好である。

連珠文軒平瓦1302は土坑530015出土で、圏線の内側に直径1.5cmと大粒の珠文を0.5cm間隔で配する。范型はA型で離型剤はなく、上外縁部に幅2.0cm、深さ1.0cmの面取りを施す。瓦当はa成形で、幅4.3cmの段頸をもち、瓦当裏面は緩やかなカーブを描く。胎土は直径1mm前後のチャートと灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は瓦質である。

宝塔文軒丸瓦1307は土坑530015出土である。塔身は円形で、四角い圏線で囲まれた内陣中央に、逆「ハ」字形の台座の上に結跏趺坐する仏像を配する。珠文をもたないタイプで、離型剤は使わない。瓦当の摩滅も激しいが范キズも顕著で、范型の宝塔基壇部分は欠損していたと思われる、下部の周縁部際は粘土が盛り上がっている。海会寺の軒丸瓦Ⅷ(泉南市教育委員会1987)に似ている。胎土は直径0.5mmのチャートと灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は瓦質である。

右巻き三巴文軒丸瓦1308は包含層出土で、珠文の内・外に圏線をもち、珠文は直径0.9cmと大粒で密に配され、復元すると23個になる。周縁部は幅0.9cmと薄い。巴文の断面は丸みをもつが扁平で、尾は半周して圏線に接する。摩滅のため離型剤の有無は不明である。瓦当断面は上広下狭のV字形を呈し、丸瓦部との接合補強のため、瓦当裏面上部の粘土を厚くしたようである。胎土は直径5mmのチャートと1mmの灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は瓦質であるが、燻しはほとんど残っていない。

唐草文軒平瓦1309は包含層出土である。前出の1301や岸和田市堂浦廃寺例と同型式で、唐草の大小の巻きが接するのを特徴とする。范型はA型で、圏線の外側に製品では幅0.2cmの溝がある。この溝は范型では突線で外周に相当するのであろう。離型剤は使わない。瓦当は粗雑なa成形で、曲線頸を呈し、平瓦部凸面にはタテ方向のタタキ痕が残る。凹面には粗いコピキ痕と布日痕が見られ、上外縁部は中央

のみ幅2.0cmの面取りを施す。胎土は直径1～3mm前後のチャートと灰色クサリ礫を少量含むが粘土っぽく、焼成は瓦質である。

連珠文軒平瓦1310は包含層出土で、直径1.0cm前後の珠文を圏線で囲む。范型はA型で、離型剤は使わない。上外縁部は今回出土の連珠文軒平瓦と同様突き出さず、瓦当面の地の高さと同様変わらない。瓦当は厚さ1.4cmと薄い平瓦部にa成形し、幅3.2cmの平坦な顎を成形したもので、胎土は直径1mm前後のチャートと灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は瓦質だが、摩擦のため燻しの残りは悪い。

水波文四唐草1311は、包含層出土で、1339と同型式と思われるものの右半分である。水波文は伸びやかな弧線4条を一単位とし、外縁部が高いことから范型はB型と思われ、離型剤は用いない。上外縁部に幅2.0cmの面取りをもつ。瓦当右端から平瓦部にかけて斜め方向に割れ、その破面にカキヤブリが見られることから、一体成形の四唐草であったと思われる。胎土は直径1～3mm前後のチャートと灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は瓦質である。段顎下面には燻しが付かない。

#### 図202、図版92

左巻き三巴文軒丸瓦1328は包含層出土で、間隔が一定しない18個の珠文の内側に、幅0.6cmの太い圏線を置き、巴頭同士を突線で繋ぐ三巴文である。周縁部は幅1.0～1.3cmと一定しないが、高さが0.9cmと高いことから、柳型を用いた後、丸瓦部との接合・調整時に歪んだと思われる。長石の顕著な中粒砂の離れ砂が文様区・周縁部ともに付着し、瓦当裏面は丸瓦部接合のため補足した粘土を指先で掻き取り、裏面中央下が凹んでいる。胎土は直径1mmの長石・チャート・灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は須恵質だが、燻されている。

左巻き三巴文軒丸瓦1329は包含層出土である。珠文の外側に細い圏線、内側に幅0.3cmの太い圏線が巡り、復元珠文数は23個である。周縁部が整っていることから、柳型を用いたと思われる。長石が目立つ細粒砂の離れ砂が周縁部を含めた瓦当面全体に付着する。丸瓦部は深く、瓦当裏面は周縁に円周なりの強いナデを加える。胎土は直径1mmの長石・灰色クサリ礫を含みシルトっぽく、焼成は須恵質である。

左巻き三巴文軒丸瓦1330は包含層出土で、復元珠文数は18個。珠文の内側に幅0.5cmの太い圏線を置き、太い胴と2/3回転する長い尾をもつ三巴文が配されている。巴頭先と別の巴のくびれ部を繋ぐ范キズがある。周縁部が一定し、柳型を用いたと思われ、また離型剤は使わない。瓦当裏面は不定方向にナデる。胎土は直径1mmの長石と灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は土師質で燻されている。

左巻き三巴文鳥倉1331は包含層出土で、尾の長い巴文をもつ。直径1.0cmの半球形の珠文は復元すると20個になる。離型剤はない。胎土は直径0.5mmの長石、1～3mmの灰色クサリ礫を含みやや細粒砂っぽく、焼成は瓦質だが、瓦当面の炭素付着は悪い。

唐草文軒平瓦1332は包含層の出土で、右第6唐草が上向きなもの1292と一致するから、1291・1292と同型式の右半分であることがわかる。范型はA型、上外縁部が下外縁部に比して倍ほど広く、離型剤は使わない。瓦当はa成形で、凸面は粗雑な直線顎。凹面に布目疝痕が見られるが、端面隙3cmは疝痕が消え、上外縁部に幅1cmの面取り、凹面側面に幅1.0～1.8cmの面取りが見られる。胎土は直径0.5～5mmほどの灰色クサリ礫・長石を多く含むが粘土っぽく、須恵質の焼き上がりである。

唐草文軒平瓦1333は包含層出土で、中心飾は唐花文で左に伸びる蔓から蕾が派生する。瓦当は平瓦広端部を上下から粘土板上で包み込んで成形し、范型はB型である。外縁部を含めて瓦当面全体に、細粒砂の離れ砂が付着する。顎と瓦当側面・裏面に丁寧なヨコナデを加える。胎土は直径1mmの灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、須恵質の焼き上がりである。

連珠文軒平瓦1334は包含層出土で、直径1.2cmの珠文を0.8cm間隔で配し、界線で囲む。上外縁部は突出せず、瓦当面の地より低い。離型剤は用いない。瓦当はa成形の段頸で、胎土は5mmの灰色クサリ礫を含むが精緻で粘土っぽい。焼成は瓦質だが、炭素の残りは悪い。

唐草文軒平瓦1335～1337は包含層出土である。中心飾三葉で、1294と同型式である。1335が中央部、1336・1337が左半分の破片である。文様区には細粒砂の離れ砂が付着する。外縁部が高いことから、范型はB型と考えられる。瓦当はa成形で、幅2.8～3.5cmの頸部をもつ。瓦当裏面から平瓦凸面にかけて工具でタテ方向のナデを施す。凹面にはタテ方向のムシロのような圧痕と、細粒砂の離れ砂が全体に付く。胎土は直径1mmほどの灰色クサリ礫を含むが精緻で粘土っぽく、瓦質に焼き上がっている。

唐草文軒平瓦1338は包含層出土である。左端の唐草2軀を残すのみで、文様区には離型剤とした粘土粉が見られる。外縁部が三方とも外反し、粘土の逃げが見られることから、范型はA型と思われ、瓦当裏面には粗粒砂がめり込んでいる。破面の観察からは瓦当成形の方法は不明である。側面のヘラ切りは凹面側から凸面方向、すなわち上から下へ切られている。上外縁部には幅0.7cmの面取りが施される。胎土は直径0.5～3mmの黒色クサリ礫が目立つがしっかりした粘土で、焼成は須恵質で、燻されている。

水波文軒平瓦1339は包含層出土である。1311と同型式の左半分で、左端には高さ1.2cmの水返しが付いており、掛瓦の可能性も残る。水波文は緩い弧線4条を一単位とし、范型はB型と思われ、離型剤を使わない。瓦当はd成形に近い。上外縁部に幅1.2cm、深さ0.5cm、瓦当裏面下辺に幅0.4cmの面取りが施されている。胎土は直径1～4mmの灰色クサリ礫を含むが粘土っぽく、焼成は瓦質だが、瓦当部分には燻しがかかっている。

#### 図204、図版93

右巻き二巴文軒丸瓦1346は包含層出土で、21個の珠文の内側に巴文を配する。周縁部が幅0.7～1.0cmと薄く不均等で、周縁部内面の粘土の詰り具合が粗悪だが、周縁部の高さは1.0cmと高いことから楕型を用いて成形し、丸瓦部との接合・調整時に歪んだと思われる。長石の顕著な中粒砂の離れ砂が周縁部を含めて瓦当面全体に付着する。瓦当裏面に丸瓦部接合のため深い溝を彫り、瓦当直径の8割以上にも達する深い丸瓦を接合し、粘土を補強した後、粘土を指先で掻き取っている。胎土は直径1mmの長石・チャート・灰色クサリ礫を含む粘土っぽいもので、焼成は須恵質だが、燻されている。1328とは成形・焼成ともに共通点がある。

唐草文軒平瓦1347は包含層出土で、1295と同型式のC字と杏仁形を組合わせた中心飾と界線をもつもので、外縁部が高く范型の打込みが深いことから范型はB型と思われ、瓦当はb成形である。上外縁部に0.8cmの面取りを施す。瓦当裏面は強いナデで凹み、平瓦部凹面には細粒砂の離れ砂が付着する。胎土は直径1～5mmの灰色クサリ礫や長石を多く含みシルトっぽく、焼成は瓦質だが燻しは甘く、ほとんど炭素は残らず、灰白色を呈している。

#### 参考文献

- 市本芳三 2001 「大阪地域の平安時代後期瓦の様相」『中世寺院の幕開け—11・12世紀の寺院の考古学的研究—』第4回 摂河泉古代寺院フォーラム、摂河泉文庫・摂河泉古代寺院研究会  
泉南市教育委員会 1987 『海会寺—海会寺遺跡発掘調査報告書—』  
山崎信二 2000 『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所学報第59冊

## 2. 南部集落

南部集落は、南区のうち本線部分の東部にあたる、V区南東部からZ区にかけての部分と、地下通路部分のY区で検出されている。本線部分では、V区で掘立柱建物がみつかったりしているほか、Z区南半部で小規模ながら、ピットや土坑が検出されている。集落は、調査区南側から北東方向に広がるものと考えられる。地下通路部分のY区では、面積は狭いものの、ピットや土坑がまとまって検出されており、調査区南側に広がる集落が存在したことが判明している。現在の集落にはつながらないものである。ここでは、本線部分を中心とした集落を南部集落1、地下通路部分を中心とした集落を南部集落2と呼称し、記述することとする。なお、両者は調査区外でまとまって一つの集落になる可能性もあるが、現在のところは別の集落として扱うこととする。

### (1) 南部集落1

具体的な集落の全容がはっきりしないため、集落の広がりを知ることはできないが、Z区南半部を中心として、調査区外に広がっているものと考えられる。調査区南端は、調査区が細分されていることから、検出遺構のまとまりを見ることがむずかしい状況である。その中で、V区の南半部で掘立柱建物52が検出されたほか、Z区南半部ではピットや土坑がまとまってみつかった。ただし、建物を復原するまでには至らなかった。ここでは、主としてZ区南半部の層序と検出遺構、出土遺物などを中心に述べていくが、V区の状況にもふれておくこととする。

#### 掘立柱建物52 (図207、図版28)

南区の中央部にあたる、V区南半部で検出された。総柱の建物である。全体に遺物包含層が削平されており、地山面での検出である。周囲には、ピットや土坑は検出されていないことから、複数の建物を復原することはできず、単独の建物である。土坑や溝との重複関係もない。

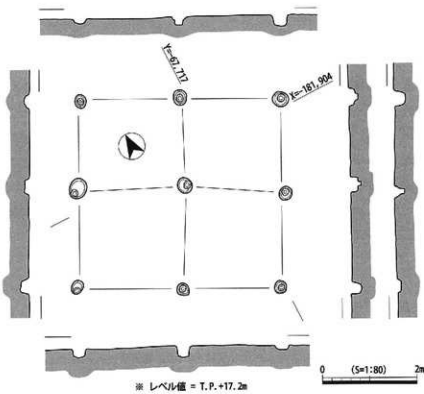


図207 掘立柱建物52平・断面図

現状で、2間(4.0m)×2間(4.2m)を確認している。平面形は、ほぼ方形を呈する。主軸方向は、N-61°-Wである。柱間寸法は、北側の桁行で、平均2.1m、東側の梁行で、平均2.0mを測る。柱穴掘方は、ほぼ円形のものが多く、径20～30cm、深さ10～20cmである。埋土は、暗オリーブ褐色粘質土である。柱穴の規模はほぼ同じである。遺物は出土していない。

#### V区出土遺物(図209、213、図版94)

南区の中央部にあたるV区では、掘立柱建物52以外に中世と考えられる遺構は検出されていない。この部分では、良好な中世の遺物包含層は残存しておらず、耕作地の整地により攪拌された層が主体である。遺物包含層や近世以降の遺構から混入品として、遺物が出土している。そのうち、図化できるものを図209に示す。

1351は、近世土坑から出土したもので、K混入品であるが、ほぼ完形の土師器小皿である。灯明皿であり、二次的に火を受けている。13世紀のものと考えられる。1353・1354は、近世溝から出土したもので、土師器小皿である。13世紀のものと考えられる。1356は、遺物包含層から出土したもので、混入品である。瓦器碗であり、高台の痕跡が残っている。表面が磨耗しているが、13世紀後半のものと考えられる。1359は、近世溝から出土したもので、土師器皿である。やや白味がかっており、白色から肌色系のものである。13世紀のものと考えられる。1362は、近世土坑から出土したものである。瓦器碗であり、高台のないものである。13世紀後半のものと考えられる。1364は、近世井戸から出土したもので、瓦質土器捏鉢の口縁部である。体部外面には、横方向のヘラケズリ調整が施されており、内面には横方向のハケ調整が見える。15世紀のものと考えられる。なお、この井戸からは、図版94-1451のslagが1点出土している。鍛冶に伴う挽形滓である。関連する遺物が他に見られないため、詳細は不明であるが、金属生産にかかわる作業がおこなわれていた可能性がある。1365・1366は、遺物包含層から出土したもので、混入品である。1365は、管状土錘であり、両端を一部欠損している。時期は不明である。1366は、土師器真鍮壺である。ほぼ完形に復元できたものである。厚手のもので、砲弾形を呈している。口縁部付近はナデ調整で仕上げられており、頸部外面には、紐擦れの痕跡は見られない。体部上半の外面には、縦方向にまとめて3本のヘラ記号がつけられている。室町時代のものと考えられる。1367・1368は、同一の近世土坑から出土したもので、いずれも常滑焼で、13世紀後半のものである。1367は、甕の口縁部である。肩部に釉薬がかかっており、溶着品も数点見られる。また、矢羽状のスタンプ文が認められる。1368は、甕の口縁部である。口縁端部は面をなしており、上に凹線状のへこみが巡る。1369は、近世溝から出土したもので、常滑焼甕の底部である。底部内面に自然釉がかかる。図213-1403は、X区の近世溝から出土したものである。この近世溝は、調査区を縦断しており、V区と同一の溝である。白磁碗の底部であり、内面見込み部に圏線が1条巡っている。内外面に釉ひびが見られる。

#### Z区南半部(図208、209、図版28、94)

南区の南端部にあたるZ区南半部では、ピットや土坑がまとまってみつまっている。ただし、調査範囲が狭いことや、隣接するZ区北半部で遺構が検出されていないこと、遺構の広がりや調査区外に向かっていることなどから、全容ははっきりしない。隣接するX区でも遺構は、ほとんど検出されていない。このため、Z区南半部での遺構検出状況により、集落は調査区南側から北東方向に広がるものと推定されるのみである。ここでは、Z区南半部の堆積状況を見ていくことにする。調査区北東壁の断面図を採用した。土層の大まかな傾向としては、すでに述べたように、北から南へ向かって緩やかに上がっている。

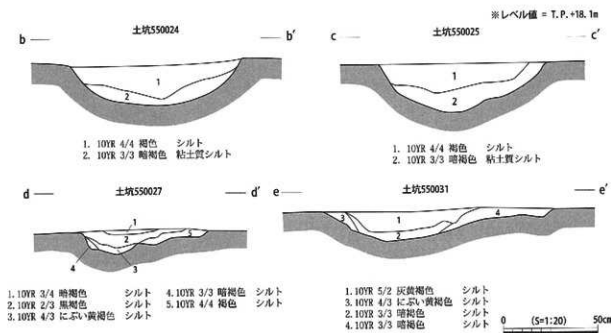
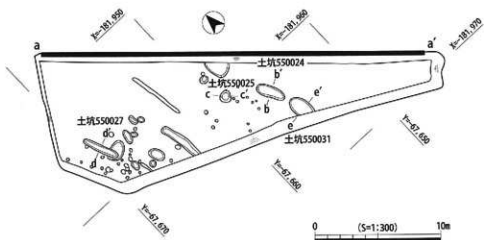
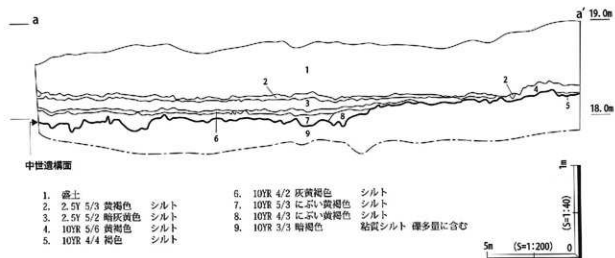


図208 Z区南端部平・断面図、遺構断面図



る状況である。南区は、最も高い位置にあたるが、比較的平坦な地形が続く。

調査前に耕作地であったことから、10～20cmの厚さで旧耕作土層や床土層がみられるが、現地表面は、その上に堆積する厚さ0.6～1.2mの盛土の上である。近世に大規模な整地がおこなわれていることから、中世以前の遺物包含層はほとんど残存しておらず、10～20cmの厚さで確認されたのみである。基本的には1層のみであり、分けることができないが、北側が薄く、南側はやや厚い。暗褐色シルトを主体としている。近世の耕作土層と考えられ、この層の除去面が最終遺構検出面であり、地山面と判断した。中世の遺構面である。全体に遺物の量は少ない。地山は、灰黄褐色礫混じりシルトであり、礫層は締まっている。

小規模な土坑や溝、ピットを主体とする遺構が検出されているが、建物を復原することはできなかった。また、遺物量も少ないことから、集落の性格を推定することも困難である。遺構の分布は、調査区の南西側にやや偏っている状況である。ただし、調査面積が狭いことから、遺構分布の傾向を示しているとはいえない。ここでは、遺物が出土した遺構を主体として述べることにする。

土坑550024は、Z区南半部の中央やや南寄りで見出されている。北西から南東方向にのびる溝状を呈しており、検出面で長さ約2.5m、幅約0.8m、深さ約20cmを測る。埋土は、2層に分かれており、上層は褐色シルト、下層は暗褐色粘質シルトである。遺物量は少ないが、図化できた遺物が1点見られる。図209-1352は、土師器小皿で白色系のものである。13世紀のものと考えられる。

土坑550031は、Z区南半部の中央やや南寄りで見出されている。土坑550024から南東へ約0.5m離れており、ほぼ同じ方向であることから、一連のものと考えられる。同様に溝状を呈しており、南側は調査区外側に広がる。規模は、検出面で長さ約2.0m、幅約1.2m、深さ約20cmを測る。埋土は、2層に分かれており、上層は灰黄褐色シルト、下層は暗褐色シルトが主体である。下層には、炭化物が多く含まれている。遺物量は少ないが、図化できた遺物が1点見られる。図209-1358は、ほぼ完形の土師器小皿で、白味がかった。13世紀のものと考えられる。

土坑550025は、Z区南半部の中央部で見出されている。土坑550024から北西へ約1.5m離れており、形状は異なるが、土坑550031と共に一連のものと考えられる。井戸とは考えられない。円形を呈しており、検出面で径約0.8m、深さ約20cmを測る。埋土は、2層に分かれており、上層は褐色シルト、下層は暗褐色粘質シルトである。上層には炭化物が、下層には礫が含まれている。遺物量は少ないが、図化できた遺物が1点見られる。図209-1360は、ほぼ完形の土師器皿で、白味がかった。外面に煤が一部付着している。13世紀のものと考えられる。

溝550010は、Z区南半部の中央やや西寄りで見出されている。上面は、削平のため失われている。調査区南西端でまともに見出されている、遺構群の西端に位置していることから、規模は小さいが、区画溝の可能性がある。ほぼ南北方向にのびており、南側は調査区外側に広がる。規模は、検出面で長さ約3.0m、幅約0.6m、深さ約10cmを測る。埋土は、灰褐色粗砂混じりシルトである。遺物量は少ないが、図化できた遺物が1点見られる。図209-1355は、ほぼ完形の土師器小皿で、肌色系のものである。口縁端部に煤が一部付着している。13世紀のものと考えられる。

ピット550012は、Z区南半部の西端部で見出されている。周囲にピットが多く見出されているが、建物を復原するまでには至っていない。掘立柱建物の柱穴の一部と考えられ、意識的に掘削された土器埋納ピットとは考えられない。埋土は、褐灰色粗砂混じりシルトが主体で、他のピットも同様である。図化できた遺物が1点見られる。図209-1363は、青磁碗の底部である。外面に蓮弁文が施されている。

13世紀後半のものと考えられる。

この他に、遺物包含層からの遺物量は少ないが、図化できた遺物が3点見られる。図209—1350は、土師器小皿で、白色系のものである。13世紀のものと考えられる。1357は、ほぼ完形の土師器皿で、白色系のものである。13世紀のものと考えられる。1361は、ほぼ完形の土師器小皿である。内面にハケ目が明瞭に残っているため、成形の際にハケ状工具で表面をなでたものと考えられる。外面には、指頭圧痕が見られる。

Z区南半部から出土している遺物は、おおむね13世紀を中心としたものである。そのため、この部分一帯に広がると推定される集落は、13世紀代を中心として展開したのと考えられるが、時期幅がないことから、長く続いたものとは考えられず、規模もあまり大きくなかったものといえる。

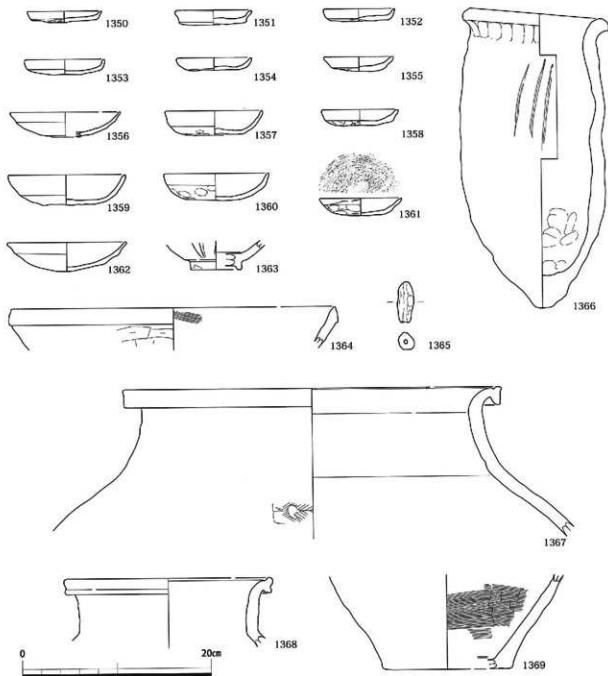


図 209 南部集落 1 出土遺物

## (2) 南部集落 2

本線部分から南へのびるY区で、ピットや土坑がまともって検出され、この部分で集落が営まれていたことがわかった。Y区は、長さ約27m、幅約7mの狭い範囲の調査区である。部分的にスラグや焼土塊などが出土していることから、集落内で鍛冶作業がおこなわれていたことが想定される。

調査区南端部には、近世以降に掘削された土坑状の大きな掘り込みがあり、径20cm程度の河原石が多量に出土した。耕作地から除去された河原石をまとめて廃棄したものと考えられるが、その上に床土と耕作土がのせられていることから、この部分も利用して耕作がつけられたものといえる。この掘り込みにより、遺構面の一部が失われているが、中央から北半部にかけては、比較的良好に遺構は残存していた。ちょうど、弥生時代の方形周溝墓の上部にあたるが、この中世集落がつくられる際に、方形周溝墓の墳丘部を削平したものと考えられる。北側のX区では、遺構がほとんど検出されていないため、集落は、調査区の西側および南側に広がるものと考えられる。この部分での発掘調査は、今までおこなわれておらず、現在の集落域からも離れていることから、初めて知られることとなった中世集落である。

Y区の堆積状況を見るために、調査区東側の土層断面図を採用した(図210)。この部分でもZ区南半部と同様に比較的平坦な地形である。

調査前に耕作地であったことから、20～30cmの厚さで旧耕作土層や床土層がみられるが、現状では、その上に厚さ約20cmの盛土が堆積している。ここでも、Z区やX区と同様に、大規模な整地により削平されていることから、中世の遺物包含層はほとんど残存しておらず、10cm程度の厚さで確認されたのみ

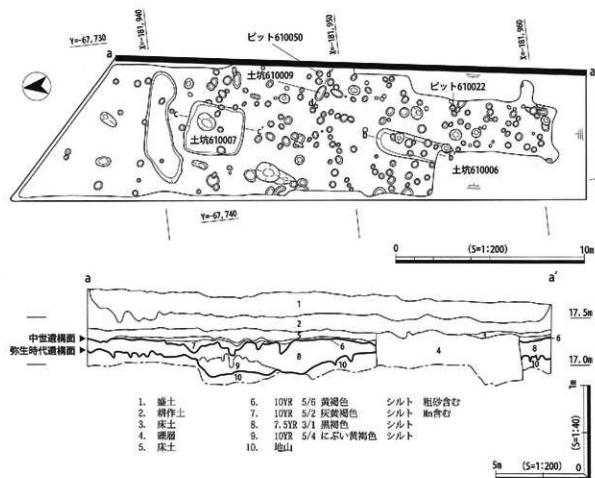


図210 Y区平・断面図

である。この層除去面が中世の遺構面で、多くのピットや土坑が検出された。その下には、10～20cmの厚さで別の遺物包含層が残存しており、この層除去面が地山面となり、ここで弥生時代の方形周溝墓が検出されている。上層である中世の遺物包含層は、黄褐色シルトを主体としており、径5mm程度の粗砂を含んでいる。遺物の量は少ない。下層の遺物包含層は、黒褐色シルトである。遺物の量は少ない。ここでの地山は、シルト層であり、礫は含まれていない。

検出された遺構は、ピットと土坑が主体であり、ほぼ全面にわたって遺構が展開している。ピットが密集していることから、掘立柱建物の建て替えが頻繁におこなわれたことが推測されるが、検出された範囲が狭いことから、建物を復原するまでには至っていない。ピットの中には、根石と考えられる比較的平らな石が検出されるものもみられる。また、前述したように、調査区南端部に近世の掘り込みが重なるように掘削されているため、南側の遺構の広がり是不明な部分が多い。遺物包含層がほとんど失われていることや、ピットが主体の遺構であることから、全体に遺物量は少ない。Y区からみつかった遺物のほとんどは、土坑610006から出土したものである。また、この集落で特徴的なことは、鍛冶炉を掘えたと考えられる焼土面が検出されたことである。上部が削平されているため、具体的な構造は不明

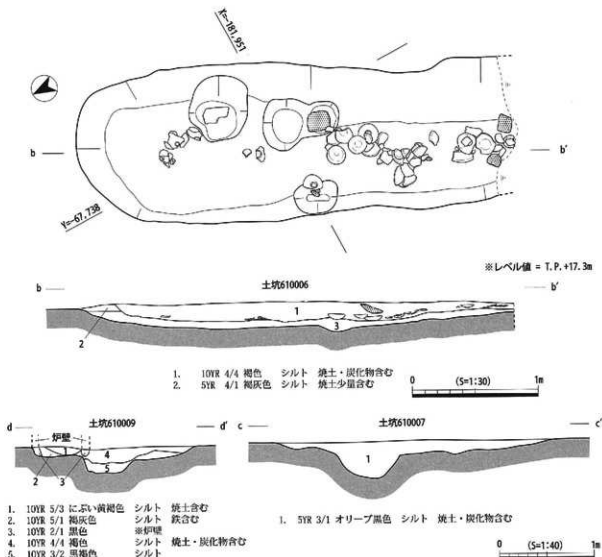


図211 Y区土坑平・断面図

であるが、痕跡が残っているものである。さらに周囲から鍛造剥片が多く検出されていることやスラグ、ふいごの羽口などもみつまっていることから、鍛冶作業がおこなわれていたことがわかる。以下、これらの遺構を中心に述べていくこととする。

#### 土坑610006 (図211～213、図版29、95、96)

Y区の中央やや南寄りで検出されたものである。溝状を呈しており、南北方向からやや東寄りに傾いている。南側は、近世の廃棄土坑により失われている。近接したピットのうち、一部で土坑の方向と同じ方向に並ぶピット列も考えられるため、詳細は不明であるが、掘立柱建物と関連した土坑と考えることができる。規模は、検出面で長さ3.5m以上、幅約1.2m、深さ約20cmを測る。

埋土は、2層に分かれており、上層は褐色シルト、下層は褐灰色シルトが主体である。全体に焼土塊が含まれており、上層では炭化物と共に多く検出されている。上層で、瓦器碗を主体とする遺物が多く出土している。土器はほぼ丸形のものが多く、上を向いたものや伏せた状態で検出されたものが多い。径約15cmの礫と共に出土している。廃棄土坑というよりも、土器などの保管のためにつくられた土坑の様相を呈している。本来は保管用の土坑だったと考えられるが、埋土に焼土塊が多く含まれていることから、最終的には廃棄物で埋められたものといえる。

遺物は、瓦器碗が主体である。図化できたものを図212・213に示す。図212-1370～1387は、瓦器碗である。1370は、内面見込み部に平行暗文が見られる。口縁部外面は、強い横ナデによりやや凹線状を呈している。外面は横ナデの後、指頭圧痕が残っている。内面には横方向のヘラミガキが見られ、口縁部まで及んでいる。一部熱を受けており、赤く変色している。1371は、完形品で、内面見込み部に平行暗文か不整形の格子状暗文が見られる。外面は横ナデの後、指頭圧痕が残っており、さらに横方向のヘラミガキが部分的に施されている。内面には横方向のヘラミガキが見られ、口縁部まで及んでいる。1372は、内面見込み部に暗文が見られる。外面は横ナデの後、指頭圧痕が残っている。一部熱を受けており、赤く変色している。1373・1374は、外面に横ナデの後、指頭圧痕が残っており、さらに横方向のヘラミガキが部分的に施されている。内面には横方向のヘラミガキが見られる。1373には、外面に重ね焼きの痕跡が認められる。1374は、口縁部に熱を受けており、赤く変色している。1375は、外面に指頭圧痕が残っている。1376～1378は、外面に横ナデの後、指頭圧痕が残っている。内面には横方向のヘラミガキが見られる。1377は、外面に重ね焼きの痕跡が認められる。1379は、外面に指頭圧痕が残っており、さらに横方向のヘラミガキが部分的に施されている。内面は磨耗のため調整は不明である。1380は、外面に横ナデの後、指頭圧痕が残っており、さらに横方向のヘラミガキが部分的に施されている。内面には横方向のヘラミガキが見られる。1381～1384は、外面に指頭圧痕が残っている。内面は磨耗のため調整は不明である。1383は、一部熱を受けており、赤く変色している。1385・1386は、底部を欠損している。外面は横ナデの後、指頭圧痕が残っており、さらに横方向のヘラミガキが部分的に施されている。内面には横方向のヘラミガキが見られる。1385は、一部熱を受けており、赤く変色している。1387は、底部のみである。一部熱を受けており、赤く変色している。

瓦器碗は、おおむね、12世紀中～後半の時期のものであるが、1375・1376・1381のように、やや古く、12世紀前半の時期のものも見られる。

1388は、瓦器鉢である。底部を欠損している。内外面共に、丁寧な横方向のヘラミガキ調整が施されている。1389～1391は、瓦器小皿である。いずれも口縁部外面が、強い横ナデによりやや凹線状を呈している。外面の下半部には、指頭圧痕が残っている。内面には横方向のヘラミガキが見られ、口

縁部まで及んでいる。

図213-1392・1393は、中国製白磁碗である。内面見込み部に圈線が1条巡っている。いずれも玉縁口縁で、同じサイズのものであるが、別個体である。13世紀前半のものと考えられる。1394は、白磁香合の蓋である。蓋の上面に陰刻の草花文が描かれている。天井部の内面は施釉されており、外面には溶着痕が見られる。1395は、土師器鍋の口縁部である。外面には、指頭圧痕が残っている。内面には、横方向のヘラミガキが見られる。1396は、土師器小皿である。いわゆるへそ皿で、内面見込み部に暗文状のヘラミガキが見られる。13世紀のものと考えられる。1397は、土師質の有孔土鍾である。一部欠損している。土鍾の時期は不明である。これ以外に、図版96-1452のスラグが出土している。ここからは、ほかに金属生産関係の遺物は出土していない。

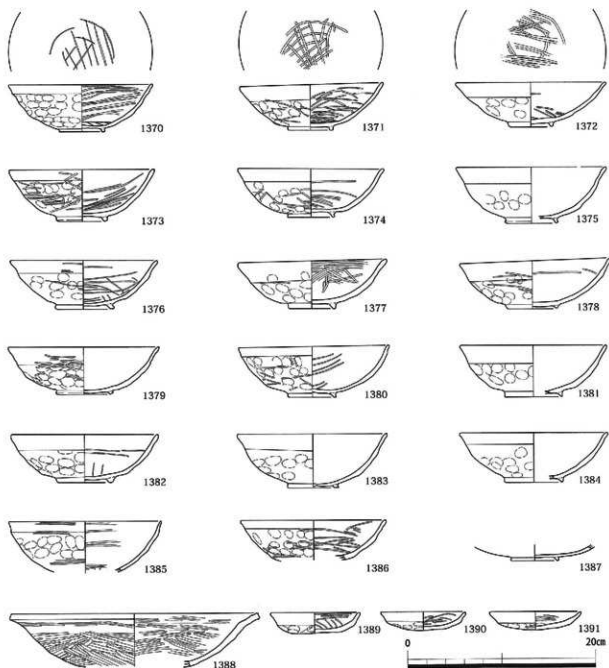


図 212 南部集落2 出土遺物 (1)

土坑610009 (図211、図版29)

Y区の中央やや東寄りで検出されたものである。全体の形状は、東西方向に長い楕円形を呈しており、西側に焼土面が認められる。規模は、長さ約1.0m、幅0.3mを測る。中央部が1段下っており、深さは、10～25cmである。埋土は、2層に分かれており、上層は褐色シルト、下層は黒褐色シルトが主体である。上層には、焼土や炭化物を含んでいる。

焼土面は、径約30cmの円形であり、外側で幅約5cmのドーナツ状に焼けた部分が見られることから、炉壁幅5cmで直径30cmの溶解炉が、この部分に掘えられていたものと考えられる。溶解炉の上部は失われているが、底部がそのまま残ったものといえる。高熱をうけたため、幅5cmの炉壁のうち、内側半分は褐灰色、外側半分は黒色に変色している。炉内の内側部分には、にぶい黄褐色シルトが入っており、焼土を含んでいるほか、鉄粒子も見られる。鍛冶作業に用いられる溶解炉の一部と考えられる。廃絶後に埋められたものである。遺物は出土していない。

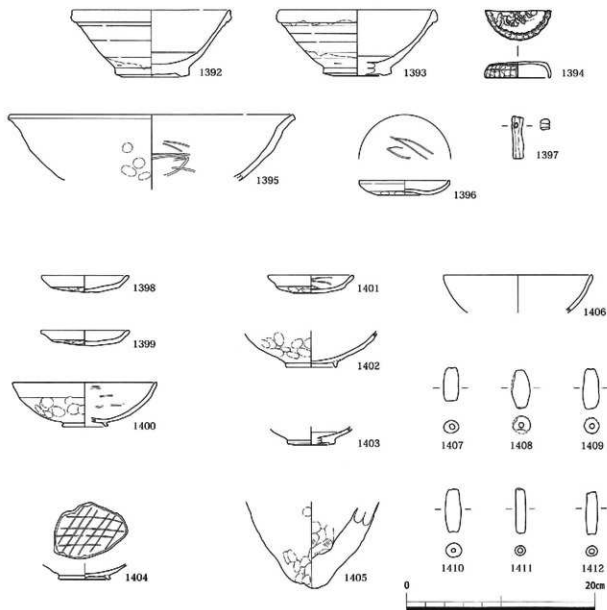


図213 南部集落2出土遺物(2)

#### 土坑610007 (図211、213、図版29、96)

Y区の中央やや北寄りで検出されたものである。方形を呈していると考えられるが、上部が削平により失われており、西半部の状況ははっきりしない。底部のみの検出である。規模は、検出面で東西方向約2.5m、南北方向約3.0m、深さ約10cmを測る。埋土は、黒褐色シルトが主体で、焼土や炭化物を多量に含む。性格は不明であるが、最終的には廃棄土坑として利用されている。

埋土はかなり失われているが、遺物が検出されており、図化できたものを図213に示す。1406は、土師器椀で、底部を欠損している。表面が摩滅しているため、調整は不明である。1407～1412は、ほぼ完形の管状土錘である。1408は、中央部が一部欠損している。1409は、両端が一部欠損している。1412は、片方の端部が一部欠損している。まとめて出土したものであるが、大きさが異なっており、規格がそろっているわけではない。

#### ピット610022 (図210、213、図版96)

Y区の中央やや南寄りで検出されたものである。土坑610006から東へ約2m離れている。上面は削平のため失われていることから、底部のみの検出である。掘立柱建物の柱穴の可能性もあるが、土器がまとめて出土していることから、土器埋納ピットと考えられる。地鎮などの目的で土器を埋納したものといえる。規模は、検出面で径約80cm、深さ約20cmを測る。埋土は、灰褐色シルトが主体であり、炭化物や焼土を含んでいる。

図化できた遺物が3点見られる。図213-1398は、瓦器小皿である。表面が摩滅しているため、調整は不明である。1399は、ほぼ完形の土師器小皿である。12～13世紀のものと考えられる。1400は、瓦器椀である。外面に指頭圧痕が残っている。内面には横方向のヘラミガキが見られる。一部熱を受けており、変色している。12世紀後半のものと考えられる。

#### ピット610050 (図210、213)

Y区の中央やや東寄りで検出されたものである。土坑610009から東へ約1m離れている。上面は、削平のため失われていることから、底部のみの検出である。土器がまとめて出土していることから、ピット610022と同様に、土器埋納ピットの可能性はあるが、はっきりしない。規模は、検出面で径約80cm、深さ約20cmを測る。埋土は、灰褐色シルトが主体であり、炭化物や焼土を含んでいる。

図化できた遺物が2点見られる。図213-1401は、瓦器小皿である。口縁部外面が、強い横ナデによりやや凹線状を呈している。外面の下半部には、指頭圧痕が残っている。内面には横方向のヘラミガキが見られ、口縁部まで及んでいる。1402は、瓦器椀の底部である。保存状態が悪く、表面の調整は不明である。12世紀後半のものと考えられる。

この他に、遺物包含層からの遺物量は少ないが、図化できた遺物が2点見られる。図213-1404は、瓦器椀の底部である。内面見込み部に格子状暗文が見られる。一部熱を受けており、変色している。12世紀半ば～後半のものと考えられる。1405は、土師器真鍮壺の底部である。胎土に橙色の土器碎片が混入している。外面は手づくねで成形されており、指頭圧痕が見られる。室町時代の時期と考えられる。さらに、北側のX区の遺物包含層からは、図版94-1453のふいごの羽口が出土しており、金属生産関連の遺物として、注目される。

Y区から出土した遺物は、12世紀代を中心としたもので、Z区南半部で検出された集落よりは古い時期のものである。



## 第7章 基礎分析

### 第1節 大溝1・2出土土器の組成

男里弥生集落における土器資料のほとんどは、大溝からの出土である。集落内の遺構からの出土量はずかであるため、弥生集落の時期決定をする根拠となる資料としては、大溝出土遺物が適しているといえる。また、土器組成に関しても、集落における傾向をある程度示しているものと考えられる。ただし、大溝の調査も調査区設定などの諸条件の結果、細切れ状態となっており、偏った部分の調査が多い状況であるため、出土遺物の全体では、遺物の組成などの傾向を正しく表すことが困難であるといえる。そこで、きわめて部分的であるが、大溝1において、ほぼ両肩部を含めて底部まで調査することができた、K区における出土土器の組成を調べることにした。また、大溝1と重複している大溝2出土土器に関しても、同様の計測をおこなった。この部分での出土量ももっとも多いことから、弥生集落における土器組成の傾向を、ある程度示すものと考えたためである。泉南地域において、弥生時代中期末の遺物がこれほどまとまって出土した例はないことから、さらに拡大解釈することによって、泉南地域の土器の傾向まで探ることができる端緒となる可能性がある。

方法としては、出土土器のうち、口縁部の数量を数えることにより個体数とした。今回は、口縁部のみの計測に限定しており、大きさに関わらず、細かい破片なども含んでいるが、口縁部を欠損するほぼ完形のものや底部は含んでいない。この数量は、全体から見ると1%にも満たないと考えられるが、組成比などは、ある程度実際のものに近い数値であるといえよう。器種別に大まかな分類をおこない、その中で主に口縁部の成形の違いから細分をした。ここでは、それぞれの数量を提示することを主体としていることから、計測結果とある程度の傾向を示すのみにとどめ、あえて細かい論考はおこなわないこととする。いずれ機会があれば、さらに論考を深めていきたい。

#### 1. 大溝1の傾向

K区における大溝1出土土器は、合計2510点を数える。器種は、おおまかに見ると、甕が36%、壺類が32%、鉢・高杯類は21%、真蛸壺形土器は8%、飯蛸壺は2%、蓋類は1%である。その他、台形土器が2点出土している。大型の破片は、壺や高杯が比較的多く、調査中は壺が日立っているように感じていたが、計測結果によると、甕のほうが多い傾向が見られる。これは、甕が小破片になって残存していたことを表している。消耗品である甕が、多く消費されていたことがわかる。

搬入された土器は、胎土中に結晶片岩を含む特色をもつ、紀伊産が全体の11%、胎土中に角閃石を含む生駒西麓産は、全体の0.4%である。紀伊産は、隣接地域であることから、比較的比率が高いことは想像できたが、畿内で影響力をもつ生駒西麓産がほとんど見られないのは、意外な結果であるといえよう。紀伊産の器種の中では、甕が最も多く、他に壺、鉢、高杯、蓋がある。生駒西麓産の器種には壺、甕、鉢が見られる。

#### 甕

甕は、全体で907点を数える。胎土中に結晶片岩を含む紀伊産は244点で、27%を占めており、そのうち頸部の屈曲が緩やかなものは78点で、9%である。甕における紀伊産の比率は、土器全体の比率

に比べて高いため、より多く搬入されている器種であることがわかる。それに比べて、角閃石を含む生駒西麓産の甕は、僅かに4点しか検出されていない。

口縁端部を主体とした形態の特徴で、a：口縁端部の肥厚しないもの、b：口縁端部を上方に拡張したもの、c：口縁端部を下方に拡張したもの、d：口縁端部を上下に拡張したものの4タイプに分けた。内訳は、aが343点(38%)、bが372点(41%)、cが22点(2%)、dが170点(19%)である。このうち、a・bの2種類で、甕全体の約8割を占めている。紀伊産は、aからdの各タイプで見ることができる。244点のうち、最も多いのはaの141点で、bが68点、cが12点、dが23点である。

口径による分類では、30cm以上と30cm未満に分けた場合、甕全体ではその割合が半々である。タイプ別に見ると、aでは口径の小さいものの占める割合が高く、口径30cm未満が約6割を占める。逆に、dでは、口径の大きいものの占める割合が高く、口径30cm以上が約9割を占める。

施文されたものが少量見られる。タイプ別に見ると、口縁端下部に刻目を施したものが、bに1点、dに4点ある。口縁端面に凹線文を施したものは、aに5点、bに52点、dに31点ある。頸部に刻目突帯を施したものは、bに1点、dに4点ある。体部にタタキのあるものは、aに1点、bに10点、dに15点ある。その多くは、器壁表面の残存状況が悪く不明瞭だが、ナデ調整が多いようである。

紀伊産は、上層の大溝2出土に比べて、大溝1出土の割合がやや高く、頸部の屈曲が緩い古い形態の要素を多めに残している。

#### 広口壺

広義の広口壺は、全体で660点を数える。その中には、壺495点のほか、日明山型8点、受け口状口縁壺132点、胎土中に結晶片岩を含む紀伊産11点、胎土中に角閃石を含む生駒西麓産5点、摂津産2点を含む。また、皿様式のものも6点含んでおり、形式不明のものが1点ある。口径は、9から32cmまで見られ、20cm前後のものが多く認められる。

受け口状口縁壺、日明山型、他地域産の壺を除いた口縁端部の文様は、凹線文を施したものが最も多く、凹線文に他の文様を施したものを加えると、およそ半分を占める。凹線文の次に多いは無文のものであり、約3割を占める。波状文、簾状文、扇形文、列点文、斜格子文や円形浮文のみ付けられているものなどは少量である。凹線文に他の文様を施したのものの中では、円形浮文が付けられたものが最も多い。他に、凹線文と組み合わせた文様には、縦線文、円形竹管文、棒状浮文があり、縦線文が円形浮文に次いで多い。

皿様式の壺では、口縁端部の文様は無文(4点)と波状文(2点)がある。波状文のものには、口縁内面に扇形文も施されている。

紀伊産では、口縁端部の文様は、凹線文が6点で最も多く、他に無文(2点)、櫛描き直線文(1点)、簾状文(1点)、刻目(1点)が見られる。生駒西麓産では、口縁端部に簾状文を施したものが4点で、無文のものも1点見られる。摂津産では、波状文に円形浮文が付けられたものと凹線文に浮文がつけられたものが、1点ずつある。

日明山型は、口径が32から40cmのうち、34cmのものが4点で最も多い。口縁は端部寄り屈曲して水平に開く。頸部に櫛描き直線文の残るものも見られる。

受け口状口縁壺の口縁端部の文様では、無文および凹線文の施文されたものが、全体の6割弱を占める。しかし、口縁部の立ち上りの屈曲度により施文の傾向が異なる。立ち上りの屈曲度が強いものには波状文が多く、屈曲の緩やかなものでは無文と凹線文の割合がおおよそ半々である。

## 直口壺

直口壺は、24点出土している。このうち、紀伊産のものは1点見られる。口径は、12から34cmのうち、20cmのものが7点で最も多い。

口縁から頸部にかけての文様は、ほとんどが貼付突帯に波状文、直線文、簾状文などの櫛描き文様を組み合わせたものである。紀伊産のものには、凹線文や簾状文が施されている。

## 短頸壺

口縁部細片が多く、水差形土器との区別が難しいが、挟りのあるものを除き、計45点出土している。口径は、9から31cmのうち、15～20cmのものが33点と多く、最も多いのは18cmの14点である。文様は、口縁から頸部にかけて凹線文を施したものが38点で84%を占め、他は無文（7点）である。

## 水差形土器

水差形土器は、4点出土している。口径は5.4から17cmの間である。生駒西麓産のものが1点出土しており、綾杉状列点文、簾状文が施されている。残り3点は無文で、摂津産のものが1点含まれる。

## 細頸壺

細頸壺は、32点出土している。そのうち4点は、紀伊産である。口径は6から20cmのうち、15cmのものが8点で最も多い。口縁から頸部にかけての文様では、無文が6点、凹線文16点、凹線文を含む文様が8点、他の文様が2点である。凹線文のみと凹線文+他文様を合わせると約8割になり、凹線文の占める割合が大変高い。

## 無頸壺

無頸壺は、44点出土している。口径は10から34cmのうち、18cmが12点で最も多い。口縁部の文様では、無文が26点（59%）で最も多く、次いで凹線文の10点（23%）、貼付突帯の4点（9%）、刻目3点（7%）、円形浮文1点（2%）である。生駒西麓産のものは、口縁部の文様は無文であるが、肩部に棒状浮文を施したものと、痕跡を留めるものの2点が見られる。

## 蓋類

蓋の内訳は、壺蓋9点、甕蓋21点である。壺蓋と甕蓋には、それぞれ紀伊産のものが1点ずつ含まれている。蓋の口径は12から24cmであるが、甕蓋では18cm前後と12cmのものが多く、壺蓋の口径には、ばらつきが見られる。

## 鉢

鉢は、274点出土している。そのうち、紀伊産のものは11点、生駒西麓産のものは2点見られる。口縁部の特徴で、a：口縁がそのまま立ち上るもの、b：口縁部外面に粘土帯を貼付けたもの、c：口縁部が外反しているものの3種類に分けた。内訳は、aが232点（紀伊産11点含む）、bが35点（生駒西麓産2点含む）、cが7点である。口径は8から32cmのうち、12～14cmのもの（40点）、24～28cmのもの（72点）が多い。文様では、口縁部に凹線文を施したものが144点で5割強、無文のものが112点で4割、他の文様が18点で1割弱である。

## 高杯

高杯は、231点出土している。このうち、紀伊産のものは7点である。口縁部の垂下の有無で2種類に分けた。口縁部がそのまま立ち上がるものは164点で7割、垂下したものは67点で3割である。垂下したのものの中では、垂下幅のわかるもので、広めのもの25点、狭いもの8点がみられ、そのほとんどが無文である。口縁の文様では、無文が121点で5割強を占めており、凹線文が107点で46%、他の文

様が3点で1%である。

#### 真蛸壺形土器

真蛸壺形土器は、全体で198点を数える。口縁の形態で、a：口縁端部が内側へ少し肥厚したもの、b：口縁端部が肥厚しないもの、c：口縁端部を内外に肥厚させたもの、d：口縁端部を内側へ直角に折り曲げたもの、e：口縁部を外反させたものの5種類に分けた。

内訳は、aが91点（46%）で約半分を占めており、bは4点（2%）、cは78点（39%）、dは24点（12%）、eは1点（1%）である。体部にタタキ目を施したものは、全体の約2割に見られ、全体の中での割合は、aが7点（4%）、bが4点（2%）、cが23点（12%）、dが5点（3%）である。但し、各タイプの中では、aは8%、bは100%、cは30%、dは21%となり、タタキ目はbタイプに特徴的な文様であるといえる。

#### 飯蛸壺

飯蛸壺は、56点出土している。全形のわかるものは少ないが、器高が確定できるものの中では、8.3から10.8cmのものが見られる。その中では、9.5cmのものが7点で最も多い。

#### 台形土器

台形土器は、全体で2点出土している。脚部は欠損しており、全形は不明である。台部径は、22cmと15cmである。

## 2. 大溝2の傾向

大溝2出土土器は、合計265点を数える。器種は、甕が34%、壺類は30%、鉢・高杯は21%、真蛸壺形土器は6%、蓋類は2%、不明7%である。大溝2出土土器は、大溝1出土土器と比較すると、甕や壺・真蛸壺形土器の割合が少し低く、鉢・高杯の割合が少し高い。大溝2からは飯蛸壺は出土していない。なお、断っておくが、大溝1と同様の表が増えるなど、煩雑になるため、ここでは大溝2の集計結果としては、全体の点数と甕のみの計測値を提示する。その他の器種については、文章で触れることとする。

#### 甕

甕は、90点出土している。このうち、紀伊産は21点で、約2割強を占める。

口縁端部を主体とした形態の特徴で、a：口縁端部の肥厚しないもの、b：口縁端部を上方に拡張したもの、c：口縁端部を下方に拡張したもの、d：口縁端部を上下に拡張したものの4タイプに分けた。内訳は、aが15点（24%）、bが45点（50%）、cが8点（9%）、dが22点（17%）と、bタイプが最も多く、次いでaタイプである。紀伊産のタイプ別に占める割合は、aが8点（53%）、bが5点（11%）、cが5点（63%）、dが3点（14%）である。

口径は30cm以上の大、30cm未満の小で分けた場合、小が54点で6割を占める。タイプ別ではa～cタイプに小が多く、dタイプに大が多い。

口縁端部の文様は、凹線文を施したものがbからdタイプにみられ、bタイプの約半数、dタイプの3割強、cタイプの1割強に凹線文がみられる。体部のタタキ目はb・dタイプに少量残る。

#### 広口壺

広口壺は、65点出土している。このうち、受け口状口縁壺は5点であり、全て無文である。器形は、口縁端部を内外に拡張したものが43点、口縁端部を下方に拡張したものは17点である。口径は12から

31cmの間で21cmが最も多い。口縁端部の文様では、凹線文のみが約5割を占める。さらに凹線文と他の文様を組み合わせたものは2割強であり、凹線文関連では全体で7割強を占める。無文は2割強、他の文様は1割未満である。

#### 直口壺

直口壺は、2点出土しており、1点は紀伊産である。口径は紀伊産が12cmで、他は不明である。

#### 短頸壺

口縁部に凹線文を施したものが2点ある。口径は17cmと19cmである。

#### 細頸壺

細頸壺は、7点出土しており、口径は8から22cmの間である。口縁部文様では、無文が3点、凹線文のみが2点、凹線文と円形浮文または波状文、列点文を施したものが各1点ある。

#### 無頸壺

無頸壺は、5点出土しており、口径は10から25cmの間である。口縁部の文様は無文が4点、凹線文が1点である。

#### 蓋

壺蓋は、口径13から24cmのものが4点出土している。蓑蓋は、口径11cmのものが1点出土している。大溝1では、蓑蓋のほうが多いことから、対照的である。

#### 鉢

鉢は、30点出土している。口径は16から32cmの間で、20cm前後および30cm前後のものが比較的多い。

口縁端部の特徴では、端部を拡張していないもの2点、外側へ肥厚させたもの6点、内側へ肥厚させたもの6点、内外へ肥厚させたもの7点、粘土を貼付け、段状の口縁を呈するのは8点、口縁部を外反させたものは1点である。口縁端部の文様では、無文が6割弱、凹線文および他の文様と組み合わせたものは4割弱、他の文様は1割弱である。

#### 高杯

高杯は、26点出土している。口縁端部の垂下の有無で2種類あり、垂下しているものは生駒西麓産の1点だけである。垂下部は欠損しており、幅は不明である。口径は15から29cmの間で、20cmと25cmが多い。口縁部の文様では、無文、凹線文ともに12点ずつであり、不明が2点である。

#### 真蛸壺形土器

真蛸壺形土器は、15点出土している。口縁端部の特徴で、a：口縁端部が肥厚していないもの、b：口縁端部を内側へ少し肥厚させたもの、c：口縁端部を外側へ肥厚させたもの、d：口縁端部が内外に肥厚しているものに分類した。aが5点、bが6点、cが3点、dが1点である。体部のタタキ目は、aとbタイプの口径12cmと13cmに見られる。

以上が、K区における大溝1と大溝2の口縁部計測の大まかな傾向である。本来は、この結果をふまえて論考を展開すべきであるが、ここでは、計測結果を提示するのみにとどめておくこととする。以下に、各計測値の数値一覧表と主な比率を示すためのグラフを掲載しておく。参考になれば幸いである。

表2 大溝1出土土器点数内訳表

## 大溝1(K区南半部)出土土器点数

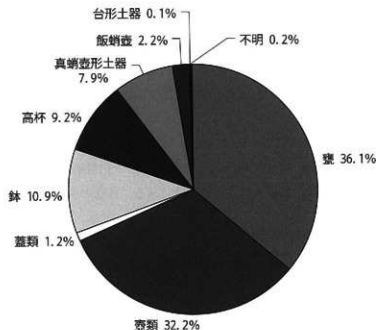
	合計	割合	在地?	紀伊	河内	その他
甕	907	36.1%	660	244	1	2
広口壺	658	26.2%	642	11	5	
直口壺	24	1.0%	23	1		
短頸壺	45	1.8%	45			
水差し形土器	4	0.2%	2	1	1	
細頸壺	32	1.3%	28	4		
無頸壺	44	1.8%	44			
壺蓋	9	0.4%	8	1		
甕蓋	21	0.8%	20	1		
鉢	274	10.9%	261	11	2	
高杯	231	9.2%	224	7		
真蛸壺形土器	198	7.9%	198			
飯蛸壺	56	2.2%	56			
台形土器	2	0.1%	2			
不明	5	0.2%	5			
合計	2,510	100.0%	2,218	281	9	2
産地別割合	100.0%		88.4%	11.2%	0.4%	0.1%

## 器種別割合

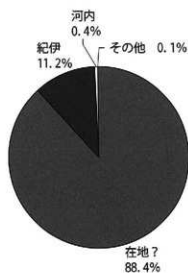
甕	907	36.1%
壺類	807	32.2%
蓋類	30	1.2%
鉢	274	10.9%
高杯	231	9.2%
真蛸壺形土器	198	7.9%
飯蛸壺	56	2.2%
台形土器	2	0.1%
不明	5	0.2%
合計	2,510	100.0%

## 産地別割合

在地?	2,218	88.4%
紀伊	281	11.2%
河内	9	0.4%
その他	2	0.1%
合計	2,510	100.0%



器種別割合グラフ



産地別割合グラフ

表3 大溝2出土土器点数内訳表

## 大溝2出土土器点数

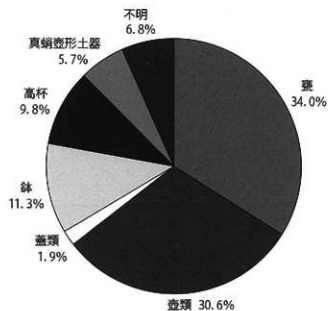
	合計	割合	在地?	紀伊	河内	その他
甕	90	34.0%	69	21		
広口壺	65	24.5%	64	1		
直口壺	2	0.8%	1	1		
短頸壺	2	0.8%	2			
水差形土器	0	0.0%	0			
細頸壺	7	2.6%	7			
無頸壺	5	1.9%	5			
壺蓋	4	1.5%	3	1		
甕蓋	1	0.4%	1			
鉢	30	11.3%	29		1	
高杯	26	9.8%	25		1	
真蛸壺形土器	15	5.7%	15			
不明	18	6.8%	17	1		
合計	265	100.0%	238	25	2	0
産地別割合	100.0%		89.8%	9.4%	0.8%	0.0%

## 器種別割合

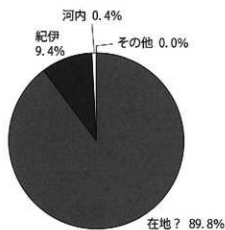
甕	90	34.0%
壺類	81	30.6%
蓋類	5	1.9%
鉢	30	11.3%
高杯	26	9.8%
真蛸壺形土器	15	5.7%
不明	18	6.8%
合計	265	100.0%

## 産地別割合

在地?	238	9.8%
紀伊	25	9.4%
河内	2	0.8%
その他	0	0.0%
合計	265	100.0%



器種別割合グラフ



産地別割合グラフ

表4 大溝1出土竪点数内訳表(1)

タイプ	口縁端部の特徴	各部の特徴			口径			合計		
		口縁部	頸部	体部	30cm以上	30cm未満	15<30cm		15cm未満	
a	拡張無(端部角・丸・薄含む)	下端刻目			1		1	2		
			刻目突帯						0	
			端面凹縁					2	3	
				タタキ					1	
				外面ナデor不明	22		73		88	
				ハケ目	3		2		4	
		小計			28	0	78	96		
	紀伊産	端部角	くの字形	25	14				39	
		端部角	緩やかな形	27	2				29	
		端部丸	くの字形	30	11				41	
		端部丸	緩やかな形	27	5				32	
		小計			109	32	0	0	141	
	生駒西麓産?					1			1	
	他地域産?					1			1	
	合計			135	34	78	96	343		
b	上方に拡張	下端刻目				2			2	
			刻目突帯				1			1
			端面凹縁			18	34			52
				タタキ	1	9				10
				外面ナデor不明	107	96				203
				ハケ目	10	22				32
		小計			136	164			300	
	紀伊産	端部角	くの字形	20	27				47	
		端部角	緩やかな形		1				1	
		端部丸	くの字形	2	10				12	
		端部丸	緩やかな形	2	6				8	
		小計			24	44			68	
	生駒西麓産?					1			1	
	生駒西麓産?			タタキ1含む		2			2	
瀬戸内産?					1			1		
	合計			160	212			372		
c	下方に拡張	下端刻目							0	
			刻目突帯							0
			端面凹縁							0
				タタキ						0
				外面ナデor不明	9	1				10
				ハケ目						0
		小計			9	1			10	
	紀伊産	端部角	くの字形	3	9				12	
		端部角	緩やかな形						0	
		端部丸	くの字形						0	
端部丸		緩やかな形						0		
	小計			3	9			12		
	合計			12	10			22		
d	上下に拡張	下端刻目			3				3	
			刻目突帯			4				4
			端面凹縁			31				31
				タタキ	15					15
				外面ナデor不明	68	19				87
				ハケ目	7					7
		小計			128	19			147	
	紀伊産	端部角	くの字形	13	2				15	
		端部角	緩やかな形	8					8	
		端部丸	くの字形						0	
端部丸		緩やかな形						0		
	小計			21	2			23		
	合計			149	21			170		
	総合計							907		



表5 大溝1出土壺点数内訳表(2)

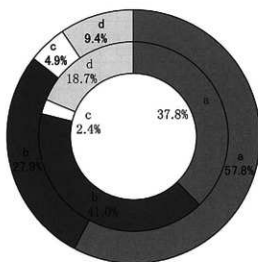
壺	a	b	c	d	合計
全点数	343	372	22	170	907
比率	37.8%	41.0%	2.4%	18.7%	100.0%
紀伊産	141	68	12	23	244
比率	41.1%	18.3%	54.5%	13.5%	26.9%

紀伊産内訳	a	b	c	d	合計	比率	紀伊/全体	%
頸部くの字形	80	59	12	15	166	68.0%	166/907	18.3%
頸部緩やか	61	9		8	78	32.0%	78/907	8.6%
計	141	68	12	23	244	100.0%		
比率	57.8%	27.9%	4.9%	9.4%	100.0%			

生駒西麓	1	3			4
------	---	---	--	--	---

壺 合計	343	372	22	170	907
紀伊産 合計	141	68	12	23	244

大溝1出土壺  
(外:タイプ別紀伊産点数、内:タイプ別合計点数)



大溝1出土壺口径別点数

	口径大		口径小		計
	30cm以上	30cm未満	15<30cm	15cm未満	
a	135	34	78	96	343
	135		208		343
b	160	212			372
c	12	10			22
d	149	21			170
合計	456	277	78	96	907
合計	456		451		907

表6 大溝1出土広口壺点数内訳表(1)

タイプ	口縁端部文様	口縁上端文様	口徑(cm)															小計	口縁文様別計							
			32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18			17	16	15	14	13	12	11
1-1	無文	無文							1					3		2				1					7	7
		凹線文																							1	1
	波状文	無文												1						1					3	7
		彫形文												1	1		1			1					4	
	彫形浮文	波状文																			1				1	1
計			0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	1	2	1	1	2	2	0	0	0	16	16	
1-2	凹線文	無文	1		6		1		1	1	1	1	3											14	21	
		列点文					1						1	3							1	1			7	
	凹線文+彫形竹管文	無文															1							1	4	
		列点文				1						2													3	
	凹線文+彫形浮文	列点文	2					1	1	1	1	2		1	2		3	2							16	17
		波状文							1																1	
	凹線文+縦線文	無文											1												2	14
		列点文	1		3			2	2	1	2							1							12	
	凹線文+縦線文+彫形浮文	無文																							1	1
		列点文						1																	1	
波状文+彫形浮文	無文					1																		1	2	
	列点文						1																	1		
計			4	0	10	1	3	4	4	3	4	6	1	7	3	0	4	3	0	1	1	0	0	59	59	
2-1	凹線文+彫形浮文	無文											1		2		1		1					5	5	
		波状文																							2	2
計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	7	7	
2-2	凹線文	列点文												1	1									2	2	
		無文												1	1	1				1				5	8	
	凹線文+彫形竹管文	無文																						1	8	
		列点文			1		1			1	1	2		1							1				8	
	凹線文+彫形浮文	無文																				1			2	2
		波状文	1																						1	1
	凹線文+縦線文	列点文																							2	2
		波状文																							2	2
波状文+彫形浮文	無文				1		1														0	1	0	2	2	
	列点文																							25	25	
計			1	0	3	0	2	1	0	3	2	2	2	1	2	2	1	0	0	1	1	0	1	25	25	
3	凹線文	無文																						1	1	
		無文																							5	5
	凹線文+縦線文	無文																							1	1
		無文																							1	1
	彫形浮文	波状文																							1	1
		彫形文																							2	2
	波状文	浮文																							1	1
		無文																							1	1
計			0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	2	1	0	3	0	0	2	0	0	12	12		
4	凹線文	無文																						1	1	
		無文																						1	2	
	波状文	無文																						1	1	
		無文																						1	1	
計			0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	4		

- 1-1. 口縁部下方へ短く垂下 (2cm未満)、口縁上部平坦面なす
- 1-2. 口縁部下方へ長く垂下 (2cm以上)、口縁上部平坦面なす
- 2-1. 口縁部下方へ短く垂下 (2cm未満)、口縁上部緩やかに広がらなす
- 2-2. 口縁部下方へ長く垂下 (2cm以上)、口縁上部緩やかに広がらなす
3. 口縁部斜め下方へ短く垂下 (2.5cm未満)、口縁から肩部への厚みが逆への字状で直線的
4. 口縁部斜め下方へ短く垂下 (2.0cm未満)、上方へ僅かに肩部拡張

表7 大溝1出土口蓋点数内訳表(2)

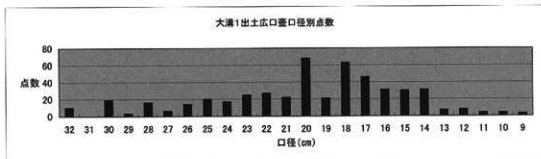
タイプ	口縁形状文様	口縁上端 文様	口徑(mm)																	小計	口蓋文 様別計						
			32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16			15	14	13	12	11	10
5-1	無文	無文	1			1	2		1				1	1	7	8	14	4	8	1		1			90	54	
		列点文														1	2		1						4		
	凹線文	彫彫文						1			1	1													3	11	
		波状文							1			3	1			1	1	1							8		
	波状文	無文											1	1	2	1				2					2	22	
		彫彫文							1						2					1					4		
		列点文												1	2		1		1	1					6		
	扇彫文	波状文											1					1	1						3	1	
		彫彫文											1												1		
	円形浮文	無文																						1	1	1	
		列点文																							1		
	環状文	無文									1			3	1	3			1						8	11	
列点文															1									2			
	計		1	0	0	1	2	0	2	1	2	2	5	2	14	4	16	19	1	9	11	3	1	1	1	2	100
5-2	凹線文	無文			2		3		9	3	2	4	3	3	21	4	14	12	9	6	3		1	1	97	121	
		列点文					1		3	1	5	2	1	3	3	2	1	2									24
	計		0	0	2	0	4	0	6	6	3	9	5	4	24	7	16	13	9	8	3	0	1	1	0	0	121
5-3	凹線文+円形浮文	無文						1		1	1	1	1	2		1									8	10	
		列点文							1		1																2
	凹線文+捺状浮文	列点文										1	1													2	1
		円形浮文												1												1	
	縦線文+円形浮文	列点文						1								1										2	2
		列点文																								1	
	環状文+円形竹管文	列点文							1																	1	1
		無文								1																1	
	計		0	0	1	0	1	0	2	1	0	1	2	2	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	18	
6	無文	無文			1				1	1	1		5	2	5		3		3			1			23	23	
		列点文								2	1									1					4		
	計	無文							1				1	1	1										3	3	
		列点文																									3
	計		0	0	0	1	0	0	0	3	3	0	1	0	6	2	6	0	3	0	4	0	0	1	0	30	
7	無文	無文																								25	33
		不明																								2	
		列点文																								1	
		列点文? (環状文)																								4	
	計	列点文? (環状文)																								4	1
		列点文																								1	
	計	無文			1											1										2	2
		列点文												2	1			1								5	
	凹線文	無文																2	2	2	4	1	1			15	17
		列点文																	1							1	
波状文	波状文																								1	4	
	列点文																								1		
計	不明																								1	1	
	列点文																								1		
	計		0	0	2	0	0	1	0	0	1	3	7	3	3	2	7	7	11	3	7	2	2	1	0	62	
8	無文	無文	4			2				1	2	1	1	9	2	3	3	3	2	1	2	3		3	1	39	39
		列点文									1															1	
	計	不明																								1	1
		列点文																								1	
	計		4	0	0	0	2	0	0	2	2	2	1	5	2	3	3	3	2	1	2	3	0	3	1	41	

- 5-1. 口縁端部に短く、下にやや長く拡張(口縁幅2.0cm以下)  
5-2. 口縁端部に短く、下に幅広く拡張(口縁幅広狭あり)  
5-3. 口縁端部に短く、下に幅広く拡張(口縁幅2.0cm以上多い)  
6. 口縁端部下方へ少し拡張  
7. 口縁端部上方へ少し拡張  
8. 口縁端部拡張無or僅かに拡張

表8 大溝1出土広口壺点数内訳表(3)

## 大溝1出土広口壺口径別点数

タイプ	口径(cm)																	計							
	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16		15	14	13	12	11	10	9
1-1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	1	2	1	1	2	3	0	0	0	0	0	16
1-2	4	0	10	1	3	4	4	3	4	6	1	7	3	0	4	3	0	1	1	0	0	0	0	0	59
2-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7
2-2	1	0	3	0	2	1	0	3	2	2	2	1	2	2	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	25
3	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	2	1	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	12
4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4
5-1	1	0	0	1	2	0	2	1	2	2	5	2	14	4	16	19	1	9	11	3	1	1	1	2	100
5-2	0	0	2	0	4	0	6	6	3	9	5	4	24	7	16	13	9	8	3	0	1	1	0	0	121
5-3	0	0	1	0	1	0	2	1	0	1	2	2	2	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	18
6	0	0	0	1	0	0	0	3	3	0	1	0	6	2	6	0	3	0	4	0	0	1	0	0	30
7	0	0	2	0	1	0	0	1	0	3	7	3	3	2	7	7	11	3	7	2	2	1	0	0	62
8	4	0	0	0	2	0	0	0	2	2	2	1	5	2	3	3	3	2	1	2	3	0	3	1	41
計	10	0	19	3	16	6	14	20	17	25	27	22	68	21	63	46	31	30	31	7	8	4	4	3	495



## 大溝1出土広口壺口縁部文様別点数

口縁部文様	タイプ1	タイプ2	タイプ3・4	タイプ5	タイプ6~8	合計	%
凹線文	22	8	7	132	21	190	38%
凹線文+円竹管文or円浮文	21	12		10		43	
(凹線+円竹管文)	4	8				12	
(凹線+円浮文)	17	4		10		31	
凹線文+棒状浮文					2	2	
凹線文+縦線文	14	1				15	
凹線文+縦線文+円形浮文	1					1	
凹線文+他文様 計	36	13	0	12	0	61	12%
無文	7	7	2	54	95	165	33%
簾状文+円形浮文or円形竹管文	2	2	2	13	1	20	
(簾状文のみ)	2	2	2	11	1	18	
(簾状文+円形竹管文)				1		1	
(簾状文+円形浮文)				1		1	
波状文	7		2	22	4	35	
列点文+波状文		2				2	
円形浮文	1		1	2		4	
縦線文+円形浮文				2		2	
格子文or斜格子文				2		2	
扇形文					1	1	
刻目					5	5	
列点文					1	5	6
不明					2	2	
その他文様 計	10	4	7	41	17	79	16%
合計	75	32	16	239	133	495	100%

※III様式、日明山型、不明、他地域除く集計

表9 大溝1出土受け口状口縁点内訳表

## 大溝1出土受け口状口縁点口縁部点内訳表

受け口状口縁部形態	口縁文様	口径 (cm)														計			
		31	30	29	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17		16	13	不明
口縁立ち上り部	波状文	波状文のみ				4	3	3	1	2	2	2	5	7	1	2	1	5	38
		紀伊型										1							1
		+凹線文			1	1		1	1	1			1						7
		+彫刻文												2					2
		+直線文					1												1
	凹線文															1			1
	斜格子文	斜格子文のみ	2	1								1							4
		刻みあり	1																1
	線形状列点文	+円形竹管文													1				1
		線形状列点文のみ												1					1
	口縁に刻み	+凹線文									1								1
		無文				1				1									2
	口縁に斜列点文	無文								1									1
		斜列点文										1							1
	口縁に彫刻文	斜列点文のみ				1													1
		+凹線文																1	1
口縁立ち上り部やかに屈曲、口縁内外に拡張	無文					4		1	3	3				1			2	14	
	凹線文								2	2		4	1	1			1	11	
口縁立ち上り部やかに屈曲、口縁部に拡張	無文							4	3	1		1	2				2	13	
	凹線文																	8	
口縁立ち上り部やかに屈曲、口縁部拡張無	無文				3				3	2								7	
	凹線文					2			2	1							2	7	
口縁立ち上りならぬ	凹線文						3		2	3				1			4	13	
	無文													1				1	
合計		3	1	1	7	9	11	8	10	10	11	6	14	14	3	5	1	18	132

大溝1出土受け口状口縁部口縁部文様別点内訳表

受け口状口縁部口縁部文様							計
波状文+その他文様	凹線文	凹線文+その他文様	無文	(刻目)列点文+その他文様	斜格子文	簾状文	
42	25	10	43	7	4	1	132

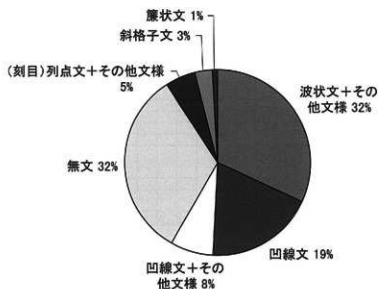


表10 大溝1出土その他遺点数内訳表

## 短頭壺

形態の特徴	口縁部の特徴	口縁～頸部文様	口径(cm)																計				
			34	32	31	29	24	23	22	21	20	19	18	16	15	14	13	12		11	10	9	8
a	内側へ拡張	凹線文								1	2	1	3	2									9
		無文										1											1
	口縁部に内 けて厚み持つ	凹線文															1			1			2
		無文																		1			1
b	内側へ拡張	凹線文										1	3	2							1		6
		無文																			1		1
	口縁部に内 けて厚み持つ	凹線文																			1		1
		無文																				1	1
	口縁部に厚 み持つ	凹線文																					10
		無文																					6
合計	凹線部に凹線文																					3	
	凹線部に無文																					4	
	口縁部に凹線文																					4	
	口縁部に無文																					4	

a. 頸部から口縁部にかけて膨らみをもって立ち上がる

b. 頸部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる

## 細頸壺 (紀伊産4点を除く)

形態の特徴	口縁部の特徴	口縁～頸部文様	口径(cm)																計					
			34	32	31	29	24	23	22	21	20	19	18	16	15	14	13	12		11	10	9	8	7
a	口縁部に内 けて厚み持つ	凹線文																					7	
		凹線部のみ凹線文																						4
		内彫浮文、凹線文 (沈線的)																					1	2
		内彫浮文、凹線文 (沈線的)																						2
	口縁部厚み無	内彫浮文																						2
		内彫浮文																						1
	口縁部厚み無	覆状文、縹漆直線文																						1
		凹線文、波状文、直 線文、覆状文																						2
		凹線文、内点文																						1
		無文																						2
b	口縁部厚み無	凹線文																					1	
		無文																					2	
合計		0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	8	0	4	0	1	2	3	5	1	28		

a. 頸部から口縁部にかけて膨らみをもって立ち上がる

b. 頸部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる

## 無頸壺

形態の特徴	口縁部文様	体部文様	口径(cm)																計					
			34	32	31	29	24	23	22	21	20	19	18	16	15	14	13	12		11	10			
口縁部厚 無	1	凹線文																					2	
		無文																					3	
	2	附目	凹線文+棒状浮文																				1	
		無文	凹線文																				4	
	3	粘付凸等	無文	縹漆直線文																				2
			無文	無文?																				1
		無文、棒孔	無文?																				1	
		無文、棒孔	無文																				3	
		無文	無文																				6	
		無文	凹線文、内点文、縹 漆直線文																					1
口縁部厚 有(胎土 等粘付が 主の成状 口縁)	3	附目、凹線文、 附目	無文?																				1	
		凹線文	無文?																				1	
	内彫浮文	無文?																					1	
	無文	無文																					7	
	無文	縹漆直線文																					2	
口縁部外 厚	3	上縁部:沈線、 内面、凹線文	無文																				3	
		凹線文	無文																				3	
口縁部外 厚無	3	無文	無文																				2	
		無文	無文																				2	
合計			1	2	0	2	2	3	1	1	3	0	12	5	4	2	1	2	2	1	4	20		

1. 口縁部内側へ拡張

2. 口縁部と体部の境界

3. 口縁部と体部の境有



表12 大溝1出土高杯点数内訳表

大溝1出土高杯口径別点数

鉢部～口縁部にかけての形態の特徴	口縁縁部	文様	産地	口径(cm)													計												
				31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19		18	17	16	15	13	不明						
そのまま立ち上がる	屈曲	内側に凹	凹線文			1		2	3	2	3	3		6	2	1	1				1	25							
			無文								1												2						
		拡張無	凹線文				1		3	1	1	1	1	1	1								10						
			無文									2	2										4						
	緩く湾曲	内側に凹	凹線文		2		5	8	4	5	6	9	4	1	4	1							1	50					
				無文	2	1		4	2	1	3	4		3		2	3							3	26				
				紀伊																					1	1			
			他文様			2																			2	2			
		拡張無	凹線文		1		2	1		4		2	2		5	2							2	21					
				無文											5	1						1	1		8				
			紀伊																					1	1				
	段状口縁	拡張無	無文																					1	1				
			無文																						2	2			
			紀伊																							1	1		
	垂下口縁	垂下幅大	凹線文		1		1		1					2											6	6			
				無文																							1	1	
		垂下幅中	凹線文		4		2		1						1												9	9	
				紀伊																								1	1
垂下幅小		凹線文		1	1	2	1	2			2	3		1													13	13	
			紀伊																									2	2
幅不明		凹線文				2	4							1														7	7
			他文様																										1
合計				2	11	3	16	23	19	15	17	19	14	20	16	9	5	2	1	1	1	36	231						
紀伊産 計				0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	7						

大溝1出土高杯口縁部文様および産地別点数

口縁部文様	産地	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	13	不明	計	
凹線文	在地?	0	3	1	7	11	8	11	12	15	7	8	12	5	2	0	0	0	0	4	106	
	紀伊																					1
無文	在地?	2	8	2	9	9	10	4	5	4	6	11	4	4	3	1	1	1	31		115	
	紀伊	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	6		121
他文様	在地?	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3

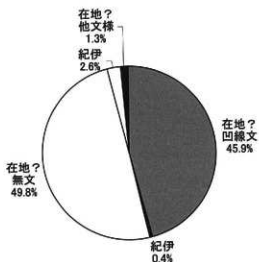


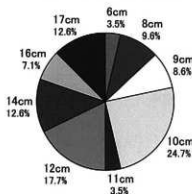


表13 大溝1出土真鍮形土器点数内訳表

タイプ	特徴	タタキの有無	口径									小計	計	割合
			6cm	8cm	9cm	10cm	11cm	12cm	14cm	16cm	17cm			
a	口縁部内側へ少し肥厚	無	2	9	3	20	2	17	12	10	9	84	91	46.0%
		有			1	2		2		2		7		
b	口縁部肥厚無	無										0	4	2.0%
		有						2	2			4		
c	口縁部内外に肥厚	無	2	4	5	18	3	4	4	1	16	55	78	39.4%
		有	2	4	4	4	2	3	4			23		
d	口縁部内側へ直角に折れ曲がる	縦ハケ			1							1		
		無	1	2	2	5		6	2			18		
		有				2		1	1	1		5		
e	口縁部外反(真鍮蓋形?)	無			1							1	1	0.5%
合計			7	19	17	49	7	35	25	14	25	198	198	100.0%
割合			3.5%	9.6%	8.6%	24.7%	3.5%	17.7%	12.6%	7.1%	12.6%	100.0%		

タタキ調整無	計	5	15	12	41	5	27	18	11	25	159
	割合	3.1%	9.4%	7.5%	25.8%	3.1%	17.0%	11.3%	6.9%	15.7%	100.0%
タタキ調整有	計	2	4	5	8	2	8	7	3	0	39
	割合	5.1%	10.3%	12.8%	20.5%	5.1%	20.5%	17.9%	7.7%	0.0%	100.0%

真鍮形土器口径別点数



真鍮形土器口径別点数(2)

外側：タタキ有(39点) 内側：タタキ無(159点)

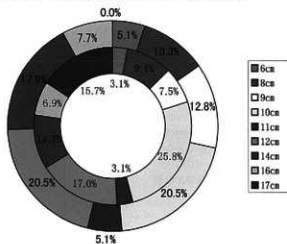


表14 大溝2出土遺点数内訳表

タイプ	口縁端部の特徴	各部の特徴			口径				合計
		口縁部	頸部	体部	30cm以上	30cm未満	15<30cm	15cm未満	
a	拡張無(端部角・丸・薄含む)	下端刻目							0
			刻目突帯						0
		端面凹縁							0
				タタキ					0
				外面ナデor不明	1	5			6
	小計					1	1		1
	紀伊産	端部角	くの字形			1	6		7
		端部角	緩やかな形				5		5
		端部丸	くの字形						0
		端部丸	緩やかな形			2			2
小計					3	5		8	
合計					4	11	0	0	15
b	上方に拡張	下端刻目							0
			刻目突帯						0
		端面凹縁				8	15		23
				タタキ	2	1			3
				外面ナデor不明			13		13
	小計					1			1
	紀伊産	端部角	くの字形			10	30		40
		端部角	緩やかな形				3		3
		端部丸	くの字形						0
		端部丸	緩やかな形						0
小計					2			2	
合計					2	3		5	
c	下方に拡張	下端刻目							0
			刻目突帯						0
		端面凹縁				1			1
				タタキ					0
				外面ナデor不明	1	1			2
	小計							0	
	紀伊産	端部角	くの字形			2	1		3
		端部角	緩やかな形				4		4
		端部丸	くの字形					1	1
		端部丸	緩やかな形						0
小計					0	5		5	
合計					2	6	0	0	8
d	上下に拡張	下端刻目							0
			刻目突帯						0
		端面凹縁				6			6
				タタキ	3	1			4
				外面ナデor不明	8				8
	小計					1			1
	紀伊産	端部角	くの字形			18	1		19
		端部角	緩やかな形				1		1
		端部丸	くの字形						0
		端部丸	緩やかな形						0
端面凹縁						1		1	
小計						1		1	
合計					0	3		3	
総合計					18	4	0	0	22

## 第8章 まとめ

主要地方道泉佐野岩出線（都市計画道路泉南岩出線）建設に伴う男里遺跡の調査成果は、これまで述べた通りである。大阪湾の海上に建設される関西国際空港建設に伴う関連事業の一つとして計画された、主要地方道泉佐野岩出線（都市計画道路泉南岩出線）が、泉南市域で男里遺跡を縦断するかたちとなったため、今回の調査となったものである。調査の開始は平成5年度であり、結果的に本報告書刊行まで約12年の歳月がかかっている。この間、社会情勢の変化もあり、地元調整や道路建設の細分化などの諸事情から、当初の計画よりかなり遅れたが、弥生時代の集落をはじめ、奈良時代を中心とする集落など多くの成果をあげることができた。各時期別の詳細については、前章までで述べているが、ここでは広い視野にたって、調査成果をまとめていくこととする。

男里遺跡は、昭和15(1940)年に遺物が発見されたことが契機となり、京都帝国大学考古学教室の藤岡謙二郎が調査、『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』において報告したことが発端で、知られるようになった遺跡である。以来、本格的な調査は昭和55(1980)年頃からおこなわれるようになったが、それまでも、田畑から弥生時代の土器や石器が発見されることが多く、弥生時代の遺跡として知られていた。今回の調査でも、中心となる時期は弥生時代である。

弥生時代以前の成果としては、縄文土器が若干出土している。その中で、従来からの男里遺跡の出土土器の中では最も古いものとなる、中期末の深鉢が検出されたことは大きな成果である。残念ながら、純粹な包含層や遺構は検出されていないことから、実態は不明である。ただし、他の遺物が後世の移動などによるローリングを受けているのに対し、かなり保存状態が良好であることから、あまり移動したものとは考えられず、出土地点付近にこの時期の集落が存在した可能性は高いといえることができる。このほか、後期の土器は、細片でローリングを受けているものの、数点みつまっているほか、石器も見ることができる。いずれも包含層や遺構は検出されていないことから、実態は不明である。さらに、晩期の土器も1点出土している。晩期の土器は、今回の調査区からやや離れるが、男里遺跡の範囲内では多く出土している地点があり、包含層も確認されている。今回の調査地付近では、隣接する双子池の調査で晩期と弥生時代前期（第Ⅰ様式古段階）の土器が共存していることから、集落の範囲がこの付近にまで及んでいる可能性がある。

弥生時代では、前期の遺物は出土していない。最初の報告（『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』）では、中期の遺物が中心であったが、今回の調査でも中期の遺物がほとんどを占めている。ただし、時間的には、今回の調査で出土した遺物のほうがやや新しいものと考えられる。最初の報告で紹介された地点は、双子池の南側にあたり、今回の調査で検出された弥生集落の西側に位置している。男里川の氾濫原および旧河道であり、今回の調査区が低位段丘上に位置していることと比較すると、低い位置にあたり、立地条件が異なっている。弥生集落のほうが新しく、あまり重複する点が少ないことから、集落の移動も考えることができる。ただ、現時点では、双子池南側で調査があまりおこなわれていないことから、最初に報告された地点での実態はあまりつかめていない。

今回の調査で検出された土器の時期は、中期末（第Ⅳ様式）を中心としたものであるが、その前後に及ぶものはあまりみられないため、弥生集落はほぼこの時期に限定されるものといえる。時期決定のた

めの土器資料は、集落の西側を縦断する大溝1埋土から出土したものである。集落内では、竪穴住居をはじめ、多くのピットや土坑、溝などが検出されているが、遺構に伴う遺物量は総じて少ない。包含層も残存状況が良好ではないため、純粋な包含層からの出土遺物は少ない。大溝1をはじめとして他の大溝からは、多量の弥生土器が出土しており、今回の調査で検出された遺物の大半を占めている。調査区外も含めて考えると、大溝内に埋まっている遺物量はさらに多いことが予測され、近隣の遺跡の中ではかなり規模の大きなものである。泉南地域でも有数の遺物量をもつ弥生遺跡ということが出来る。

弥生集落は、居住域と墓域をあわせてもっている。今回の調査では、居住域の一部と墓域のごく一部を検出したものと考えられる。集落を南北方向に縦断したかたちで調査区が設定されたことから、集落の南北方向の範囲は確定することができた。これに対し、東西方向の範囲は確定できていない。集落の西側に大溝1や3が縦断しており、さらにその西側は男里川の旧河道となるため、急に低くなっている。このため、実態ははっきりしないものの、集落はあまり西側には広がらないものと考えられる。一方、東側も未調査であるため、実態は不明であるが、平坦面が広がっていることから、集落の広がりがある程度予測することができる。これにより、居住域の範囲は南北約200m、東西約100mの規模をもつものといえる。居住域に関していえば、全体のうちの西側1/3から1/2程度が明らかになったものと考えられる。墓域は、居住域の中心部から約200m離れた南側に位置しており、方形周溝墓を主体とするものである。墓域に関しては、後述する。

居住域では、竪穴住居やピット群、土坑、溝などが検出されている。竪穴住居は、32基余を確認しているが、重複の著しい部分もあるため、調査区外も含めて、さらに多くの竪穴住居が存在したことが推測される。居住域における竪穴住居の位置は、ある程度規制があるようで、掘削しにくい礫の密集した地山部分で重複してつくられている例や、掘削しやすいシルト質の地山部分にもかかわらず、まったくつくられていない状況が認められる。居住域部分の地山は一定しておらず、礫の密集した部分とシルト質の部分のかなり錯綜しているが、当時でもこの状況は把握していたものと考えられるため、集落内で自由に掘削しやすい場所を求めて竪穴住居をつくることはできなかったことが推測される。このことから、竪穴住居をつくる際には、なんらかの規制やルールがあったものと考えられる。さらに、竪穴住居と掘立柱建物の間にもつくられる場所に違いが認められる。居住域の南半部にあたるR区では、ピット群の上から掘削された竪穴住居28・29・30が検出されている。このことは、掘立柱建物がつくられていた場所に、後から竪穴住居をつくったことを表している。居住域の北側で、竪穴住居が重複を繰り返すほど密集しているのに対し、R区から南側のT区では竪穴住居の検出は少なく、重複もみられない。このため、想像をたくましくすると、居住域の南側は本来、掘立柱建物群がつくられていた場所であったが、なんらかの事情から、新たに竪穴住居をつくるようになったものと考えられることもできよう。居住域の中では、竪穴住居と掘立柱建物に時期差はなく、共存していたものと考えられるため、分布状況から類推すると、位置に関してもなんらかのルールがあったことが推測される。

竪穴住居は、形状や規模にあまり統一性がみられず、かなり多くの種類を見ることができる。形状は、大小含めて、ほぼ円形や楕円形であるが、方形（隅丸方形）のものも、1基検出されている。大きさに関しては、小型のものは径約6m、大型のものは径9mを超えるものが検出されている。ほぼ規模の近い竪穴住居がまとまっており、ここでもなんらかのルールが存在していることが推測される。大型の竪穴住居は建て替えにおいても、同等規模の竪穴住居がつくられている。さらに、内部構造においては、中央土坑の形状に特徴のある、いわゆる「松菊里型住居」に類似した形状の竪穴住居がみられる。1基

のみであるため、なんらかの影響を受けたものかどうかは判断できない。また、テラス状の張り出しをもつ竪穴住居も検出されており、香川県や徳島県で類例の見られる形状に類似している。現時点では、類例をあまり集成していないため、系譜をたどることはできないが、西日本や四国からの影響を受けた竪穴住居が存在する可能性があることを示しているものといえる。やや飛躍した考えかもしれないが、大阪湾を介したルートによる直接的な影響も考えることができよう。

今回の竪穴住居の調査の中で、壁溝における杭の痕跡を検出したことは大きな成果である。平成12年度の調査において、はじめて検出されたもので、竪穴住居の上屋構造を復原するうえで重要な要素と考えられる。現場において、竪穴住居の上屋構造や壁構造などを想定した、目的意識をもった発掘方法でなければ、おそらくみつけれなかったであろうことを痛感させられた調査であった。

竪穴住居の壁溝内に、約30～40cm間隔で径4cm程度の杭の痕跡が確認できたものである。この杭を織木舞と考えると、壁溝に沿って土壁が立ち上がっていることが推測される。また、繊維状の編物を固定する支柱と考えた場合には、草壁構造を想定することもできる。前者の例は、竪穴住居28・29・30である。ここでは、壁溝の内部だけではなく、埋土の観察により、土壁と考えられる土層が確認されている。壁溝部分からまっすぐ立ち上がった土壁がつくられており、その外側に裏込めの土が入れられている状況がわかる。このタイプの竪穴住居は、弥生集落の中ではあまり多くないようであるが、確実に存在する例である。後者の例は、竪穴住居22・23、25である。隣接した径8mを超える大型の竪穴住居が隣接してつくられているものである。ここでは、上面の削平が著しいことから、埋土による土壁の確認はできなかったが、壁溝内における杭の痕跡を明瞭に検出することができた。土壁の確認ができなかったことから、内装材として繊維状の編物を使用した草壁構造を想定した。竪穴住居28・29・30とはやや構造が異なっており、弥生集落の中では比較的一般的なタイプと考えることができる。竪穴住居の壁構造に関しては、今回の調査では、このような2つのタイプを想定することができた。ただし、それ以降の調査で、同様の精査をおこなったが、すべての竪穴住居に存在するものではないことが判明しており、他の上屋構造をもつ竪穴住居の存在も明らかとなった。

竪穴住居22・23と竪穴住居25は、弥生集落の中で大型のものであり、隣接してつくられていることから、中心的な役割をもつものと考えられる。前述したように、いずれも壁構造をもつ同等規模の竪穴住居と想定されている。これらの竪穴住居から同時に大溝3に向かう排水溝と考えられる、溝710219がつくられていることから、並存していたことがわかる。集落内の位置関係から考えると、中心部とはいえないが、集落の玄関口ともいえる大溝3に面した部分であるため、集落内では重要な位置と考えることができる。

集落内では、竪穴住居が顕著に見られるが、他ではピットが多く密集して検出されている程度で、土坑や溝は比較的少ない。上部が削平されていることから、失われた遺構もあるものと想定できるが、基本的にはこれらの遺構は、本来あまりなかったと考えることができる。その中で、規模は大きくないため見落としがちであるが、サヌカイトチップが集中して出土したピットや溝が検出されており、注目される。この部分で、打製石器の完成品の出土量が特に多いわけではないが、これらの存在は、集落内で打製石器を製作していたことを表しており、実態はあまりつかめないものの、集落内における石器製作の場を知ることができる。

弥生集落で特徴的な存在として、大溝1があげられる。集落の西側部分を縦断しているものであり、西側の境界を示しているものと考えられるが、そのさらに西側でも竪穴住居は検出されている。

自然流路を利用したものであるため、途中で蛇行する部分も見られるが、基本的には肩部を成形している状況がうかがわれる。底部付近の堆積状況から、流水状態と滞水状態が繰り返されていることが想定されるが、単純に取水をおこなうためだけの水路とは考えられない。調査当初の部分的な検出段階では、環濠的な存在という見方もでき、集落を画するものとの認識もあったが、集落を環状に巡ることはなく、北側と南側で集落を画するような状況ではないことから、現時点では否定的な見解である。

大溝の性格を考えるうえで重要な意味をもつ存在として、大溝3があげられる。大溝3は、未調査部分に広がる部分が多いことから、全容は明らかではないが、大溝1とは別の流路である。両者は合流していることは確実に考えられるが、肩部の形状に差がある。大溝3の形状は、推定ではあるが、集落に向かって幅が広がっているものと考えられ、特に集落側の肩部は、ゆるい斜面となっている。大溝1が成形によって比較的急斜面の肩部であるのに対し、明らかに形状は異なっている。前述した大型の竪穴住居が2棟隣接してつくられている部分に面しており、やや想像をたくましくすると、集落の玄関口のような場所と考えることができる。残念ながら、大溝3の肩部にあたる場所で、特別な遺構などは検出されていないため断定できないが、大溝3を通じて船などがここまで到達し、船着き場的な役割をもっていたことも推測することができる。かなり推論を進めてしまったが、男里川から、大溝1を経て大溝3に至り、弥生集落に到達するという、水上交通路の可能性を考えてもいいのかもしれない。

大溝には、まだ不明な点が多く、集落が営まれた時期に機能していたのかどうかという問題点がある。水上交通路と考えることは可能であるが、自然堆積層があまりなく、ほとんどが多量の土器を含む人為的な埋土であるため、状況から判断すると十分に機能しないうちに廃絶したものといえる。このため、大溝が機能していた時期は、案外短い期間であった可能性も考えられる。また、多量に埋められた土器が、どこからもたらされたものかという問題点もある。基本的な考え方として、弥生集落の廃絶とともに大溝も廃絶したものと考えられる。埋土からの土器は、日常生活で生じた廃棄物の長年にわたる蓄積の結果ではなく、人為的に一気に埋められたものである。集落内になんらかのかたちで土器を含む廃棄物の集積場があり、それを利用して大溝を埋めたものといえる。

墓域は、居住域内と居住域から離れた部分で検出されている。居住域内で検出された墓は、土器陪墓であり、方形周溝墓はみられない。土器陪墓に関しては、規模が小さいことから、小児を埋葬したものと考えられ、竪穴住居に隣接した部分に埋められたものといえる。今回の調査では検出されていないが、隣接する地点で木棺墓や土坑墓群がまとまってみつまっている。竪穴住居と墓が共存することはあまり考えられないため、詳細な時期の検討はできていないが、集落がつくられる以前に墓域として利用されていた可能性もある。あるいは、方形周溝墓の有無の違いから、墓をつくる際にもなんらかの規制があったことが考えられる。

離れた部分でみつかった墓域は、方形周溝墓を主体としたものである。部分的な検出にとどまっているため、全容は不明であるが、少なくとも2基の方形周溝墓は確認することができ、供献土器も出土している。この中には、今回の出土品の中で、もっとも丁寧なつくりをしており、装飾も細かい水差し形土器が見られる。墳丘などは削平を受けており、主体部は確認できなかったが、泉南地域で方形周溝墓を複数基もつ遺跡は、泉佐野市三軒屋遺跡に次いで2例目というほど、稀有な例である。三軒屋遺跡は、全容は明らかになっていないが、泉南地域を代表する弥生時代の集落遺跡である。以前から指摘されていることであるが、男里遺跡が、集落の規模や内容から泉南地域における拠点的な集落であることを再認識することができた。

また、特殊な例として、後世に弥生土器を改めて人為的に埋めた例がみついている。弥生時代の遺構が検出されない地区で、突然ほぼ完形の弥生土器が出土する例が数例確認できた。当初は、遺構の検出もれとも考えたが、単独の検出であり、あまり散逸した状況ではないことから、このような判断となった。今後の調査において、このような例も存在することを念頭においておかなければならないものと感ずることであった。

注目される遺物の筆頭としては、掘立柱建物を複数描いた絵面土器があげられる。赤を意識した化粧土を施された器壁に、非常に鋭利な工具で描かれているもので、ほかにあまり類例を見ない。器種や絵面が描かれている部位も特徴的である。他の土器に比べると丁寧なつくりであることから、他地域からもたらされたものとの印象を与えるが、化粧土の下の胎土は、在地のものに似ていることから、在地で作られた可能性も考えられる。

弥生集落は、時期がほぼ中期末（第IV様式）に限定されるものであり、後期以降には完全に廃絶している。遺物量も極端な差があり、後期の遺物はほとんどみられない。この傾向は、古墳時代まで続いており、今回の調査で古墳時代の遺物も出土していない。唯一、古墳時代の完形の製塩土器が十坑内から1点出土した例が顕著なものである。また、弥生集落の中で検出されたピットの中から古墳時代の須恵器が出土する例も見られることから、古墳時代の掘立柱建物の存在も考えられる。ただし、包含層からの遺物量は少ないうえ、建物の復原ができていないことや、ほかに確実に同時期といえる土坑や溝が検出されていないことから、古墳時代には調査区内に集落は存在していなかったものと推測される。男里遺跡の範囲内では、古墳時代の遺構や遺物が主体の部分もあることから、調査区内ではみつっていないが、弥生集落廃絶後に新たな場所で、継続して集落が営まれていたものといえる。

古代では、7世紀末から8世紀にかけて、中央北区を中心として集落がつけられていたことがわかる。以前から、この周辺では、ピットや遺物が検出されており、集落の存在が指摘されていたが、今回の調査で明らかにすることができた。ピット群から掘立柱建物を16棟復原することができ、土坑からの良好な一括資料も出土したことから、実態をある程度つかむことができた。掘立柱建物は、方形の柱穴をもつものや円形の柱穴をもつもの、両者を混合してもっているものなどがみられるが、総じて柱穴の規模は大型である。主軸方向の違いから、3つのグループに分けることができた。重複関係があまりないため、この違いが、そのまま時期差を表すものとはいえないが、掘立柱建物群の変遷があったことがわかる。ただし、この集落はあまり長い期間営まれていたわけではなく、掘立柱建物が復原できたピット以外は、あまり検出されていない。

また、土坑からの一括資料は、時期決定のうえで重要な成果である。従来のピット主体の検出段階では、遺物量は少なく、時期を確定することが困難であった。今回の一括資料では、完形に近い状況まで復元できるものが多く、従来の調査で欠落していた部分を補充するのみならず、溶着品という新たな遺物もみつかった。これは予測していなかったことで、須恵器の溶着品が数点検出されたため、近接した部分に須恵器窯が存在していたことを示すものと考えられる。現在のところ、須恵器窯は確認されていない。なお、双子池の調査では、飛鳥時代から奈良時代の河道で、木材を使ったしがらみが検出されている。ここでも、窯体片や焼けひずみのある須恵器などが出土している。

さらに、中央北区では平安時代の黒色土器や土師器なども出土していることから、明確な遺構は検出されていないものの、この時期にも近接して集落が存在していた可能性が考えられる。一方、中央南区と南区の境界部分では、南北方向の大溝が検出されており、黒色土器を含む遺物が出土している。遺物

量は少なく、調査区内ではほとんど遺構は検出されていないことから、集落の存在は確定できないが、中央北区と同様に近隣に存在した可能性は考えることができる。

遺跡の北部を横断する、府道堺阪南線よりさらに北側は、平安時代末から中世にかけての集落であり、瓦器椀や土師器、真蛸壺などが多く出土している。隣接する戎畑遺跡も同時期の集落で、真蛸壺焼成土坑や火葬墓などがみつまっている。この部分から北側は海岸線となるため、中世の漁村の景観を復原することができる。今回の調査区では、大きく分けて2ヶ所のまとまりが認められる。

中央部集落では、多量の瓦類の出土が特徴的である。現在の馬場集落に隣接した地区であることから、この集落の初期段階の遺構や遺物を検出したことになる。明確な遺構はあまり検出されていないため、実態ははっきりしない部分が多いが、瓦類が多量に出土していることから、寺院関係の建物が存在していたことが推測される。現在のところ、文献史料に近隣の寺院は表れていないが、集落内に「安養寺跡上地」という小字名が残っている。詳細は不明であるが、16世紀後半に織田信長が、泉州一帯の寺院に火を放ったことが知られているため、この時期に焼失した寺院関連の遺物をまとめて廃棄したものといえよう。

南部集落は、従来知られておらず、今回の調査で新たに検出されたものである。集落のごく一部を検出したのみであるため、全容は不明であるが、さらに2ヶ所のまとまりに分けられる。調査区外の北東方向に広がる集落では、ピット群や土坑などが検出されているが、遺物は少なく、中心部が調査区外であることから、全容は不明である。一方の調査区外の南方向に広がる集落では、ピットが密集しているほか、土坑から瓦器椀を主体とする一括資料が出土しており、時期を確定することができた。かなり狭い範囲の調査のみであるため、全容は不明であるが、整地により弥生時代の方形周溝墓の上部を削平した上につくられている。ちょうど、弥生集落の墓域にあたる部分に位置している。ピットの密集度から、建物の建て替えがかなり多くおこなわれたものといえる。出土量はわずかであるが、スラグや焼土塊がみられるほか、鍛冶炉を据えたものと考えられる、地山に熱を受けた部分が検出されていることから、鍛冶作業をおこなっていたことがわかる。ただ、規模は小さいものであることから、小鍛冶程度の作業をおこなっていたものと考えられ、特別な職人集団をかかえる集落とはいえない。ただし、中央部集落とは異なり、集落は現在までは残っていない。

以上が、調査成果をふまえて、時期別にまとめたものであるが、あまりにも不確定要素が多く、推論ばかりになってしまっている部分が多いことを、この場を借りてお断りしておく。改めて振り返ってみれば、今回の調査では、弥生時代をはじめとして大きな成果をあげることができた。本来は、この成果をもとに様々な論考を展開すべきところであろう。たとえば、弥生時代だけでも、竪穴住居の構造の問題や集落の構成、弥生土器の問題、他地域との関連性、絵画上器の内容など、様々な問題点がわいてくる。ただし、今回の整理作業では、まず調査成果の公表という点を重視し、まとめることを第一とした。内容に関しては、過去の調査担当者や研究者から見ると、非常に不満足な点が多いことも承知している。すべての責任は、編纂者の力不足にあるということで、勘弁していただきたい。機会があれば、この成果をふまえた論考を展開してみたいと思う。

約12年の調査期間は、いろいろな問題点を抱えていたが、ここに調査成果をまとめることができ、道路も供用を開始したことは、結果的には大きな前進であるといえる。今後、この成果を活用していただくことがあれば、編纂者として喜ばしいことである。



# 遺物一覽表

打製石器一覽表

磨製石器一覽表

土器一覽表

瓦・その他遺物一覽表



打製石器一覧表(1)

遺物番号	発掘番号	図原番号	種類	大区割り	調査区	遺物名	番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	質量 (g)
60	32		石鏃 (凸基式)	中央南	L	竪穴住居	3	4.10	1.10	0.59	3.13
61	32	69	石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	L	竪穴住居	3	3.70	1.15	0.54	2.05
62	32		石鏃 (有茎式)	中央南	L	竪穴住居	3	3.80	1.35	0.65	3.27
63	32		石鏃 (凹基式)	中央南	L	竪穴住居	3	2.25	1.60	0.37	1.08
64	32	69	石鏃 (有茎式)	中央南	L	竪穴住居	4	3.15	1.90	0.58	2.62
65	32	69	石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	L	竪穴住居	4	3.15	1.45	0.38	1.30
66	32		石鏃 (凸基Ⅱ式石鏃の転用)	中央南	L	竪穴住居	4	3.30	1.50	0.46	2.22
67	32		石鏃 (縄文・凹基無茎式)	中央南	L	竪穴住居	4	1.55	1.80	0.25	0.55
68	32	70	石鏃 (Ⅰ期)	中央南	L	竪穴住居	4	3.75	0.90	0.52	2.48
69	32	70	石鏃 (Ⅲ期)	中央南	L	竪穴住居	4	3.95	1.30	0.85	4.20
70	32	70	石鏃 (Ⅲ期)	中央南	L	竪穴住居	4	3.50	1.40	0.66	3.59
71	32		石鏃	中央南	L	竪穴住居	4	3.05	2.35	0.97	8.91
72	32		石鏃未成品?	中央南	L	竪穴住居	4	4.90	2.20	0.69	6.57
73	32	72	スクレーパー	中央南	L	竪穴住居	4	4.00	5.00	0.76	16.45
74	32	69	石鏃 (有茎式)	中央南	L	竪穴住居	5・6・7	3.45	2.55	0.47	2.83
75	32		石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	L	竪穴住居	5・6・7	3.45	1.10	0.62	2.48
76	32		石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	L	竪穴住居	5・6・7	3.20	1.45	0.49	2.28
77	32	70	石鏃 (Ⅰ期)	中央南	L	竪穴住居	5・6・7	3.80	1.60	0.50	2.50
78	32	72	スクレーパー	中央南	L	竪穴住居	5・6・7	3.80	1.75	0.51	3.52
108	38		石鏃 (凹基式)	中央南	K	竪穴住居	8	1.65	1.25	0.29	0.38
109	38		石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	K	竪穴住居	8	3.75	1.30	0.57	2.47
110	38	71	石鏃未成品?	中央南	K	竪穴住居	8	5.70	3.60	0.90	18.15
111	38	71	石鏃未成品?	中央南	K	竪穴住居	8	5.30	3.10	1.22	22.11
112	38	69	石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	K	竪穴住居	12	3.30	1.65	0.36	1.84
113	38		石鏃未成品?	中央南	K	竪穴住居	12	4.10	2.90	0.90	10.68
114	38		石鏃 (凸基式・柳葉形)	中央南	K	竪穴住居	12	6.05	1.10	0.47	3.54
115	38	70	石鏃 (Ⅲ期)	中央南	K	竪穴住居	12	4.20	1.90	0.74	4.64
116	38	70	石鏃 (Ⅲ期)	中央南	K	竪穴住居	12	5.45	1.20	0.78	4.32
117	38	70	石鏃 (Ⅲ期)	中央南	O	竪穴住居	14	3.90	1.75	0.94	7.06
118	38		石鏃 (Ⅰ期)	中央南	O	竪穴住居	15	6.45	3.35	1.19	19.15
119	38	72	石小刀 (Ⅲ期)	中央南	N	竪穴住居	16	6.65	1.55	0.83	7.43
120	38	69	石鏃 (有茎式)	中央南	N	竪穴住居	16	4.45	1.40	0.46	2.55
121	38		石鏃 (Ⅲ期)	中央南	N	竪穴住居	16	2.35	0.90	0.54	1.35
122	38		石鏃 (Ⅰ期)	中央南	O	竪穴住居	16	2.85	2.50	0.76	4.68
123	38		石鏃未成品?	中央南	O	竪穴住居	16	5.20	2.80	1.10	15.46
130	42		石鏃 (Ⅲ期)	中央南	N	竪穴住居	17 b	2.90	1.20	0.50	1.86
131	42		石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	O	竪穴住居	17 a	2.60	1.40	0.39	1.12
132	42		石鏃 (縄文?・凹基無茎式)	中央南	O	竪穴住居	17 a	2.45	1.60	0.44	1.36
133	42		石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	N	竪穴住居	18	4.65	1.75	0.55	3.79
134	42		石鏃 (Ⅲ期)	中央南	N	竪穴住居	18	2.80	1.80	0.38	0.71
135	42		石鏃 (有茎式)	中央南	N	竪穴住居	18	2.70	1.25	0.65	1.94
136	42		石鏃 (Ⅰ期)	中央南	N	竪穴住居	19	3.35	2.35	0.80	4.85
137	42	69	石鏃 (有茎式)	中央南	N	竪穴住居	20	3.25	1.60	0.41	1.77
138	42		石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	N	竪穴住居	20	3.35	1.10	0.53	1.96
139	42		石鏃 (有茎式)	中央南	N	竪穴住居	20	3.65	1.35	0.67	2.60
140	42		石鏃 (凸基Ⅰ式?)	中央南	N	竪穴住居	22・23	2.85	1.55	0.45	2.51
141	42		石鏃 (有茎式石鏃の転用)	中央南	N	竪穴住居	25	2.95	1.20	0.45	1.48
186	58	70	石鏃 (Ⅲ期、凸基Ⅱ式石鏃の転用?)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	5.05	1.85	0.79	6.81
187	58		石鏃 (凸基Ⅰ式)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	2.85	1.50	0.35	1.48
188	58		石鏃 (凹基式)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	2.35	1.25	0.48	1.38
189	58		石鏃 (凹基式)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	2.65	1.80	0.28	0.98
190	58		石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	3.70	1.05	0.38	1.39
191	58		石鏃 (凸基Ⅱ式)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	3.25	1.50	0.49	1.85

打製石器一覧表(2)

遺物番号	探出番号	図版番号	種類	大区割り	期古区	遺構名	番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	質量 (g)
192	58		石鏃 (II類)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	5.00	1.60	1.00	8.18
193	58		石鏃 (有茎式)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	2.55	1.05	0.41	0.97
194	58	70	石鏃 (II類)	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	3.90	2.80	1.07	6.32
195	58		石鏃?	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	2.85	1.75	0.76	3.67
196	58	69	石鏃 (有茎式)	中央南	T	竪穴住居	31	4.10	2.10	0.70	4.24
264	77		石鏃 (平基式)	中央南	T	ピット	110207	2.30	1.30	0.50	1.62
265	77		石鏃 (II類)	中央南	L	土坑	260005	2.95	1.10	0.35	1.27
266	77		石鏃 (III類)	中央南	K	土坑	810001	4.50	1.15	0.51	2.48
267	77		石鏃 (有茎式)	中央南	L	土坑	260033	2.90	1.70	0.47	2.03
268	77		石鏃 (有茎式)	中央南	L	土坑	260203	2.70	1.60	0.42	1.82
269	77		石鏃 (有茎式)	中央南	L	土坑	260349	3.60	1.90	0.48	2.77
270	77		石鏃 (凸基II式)	中央南	N	土坑	710114	2.85	1.55	0.53	1.91
344	88		石鏃 (凹基式)	中央南	H	溝	530006	2.60	1.90	0.35	1.37
345	88		石鏃 (有茎式)?	中央南	N	溝	710219	2.90	1.95	0.61	2.78
346	88		石鏃 (凸基II式)	中央南	N	溝	710219	3.75	1.30	0.50	2.51
873	126		石鏃 (凸基II式)	中央北	G	大溝	1	3.40	1.30	0.34	1.16
874	126		スクレーパー	中央南	J	大溝	1掘い	2.45	3.85	0.97	5.53
875	126	71	石槍 (打製石刺?)	中央南	J	大溝	1掘い	13.20	3.10	1.44	80.14
876	126		石鏃 (凸基II式?・柳葉形?)	中央南	J	大溝	1掘い	5.60	1.30	0.60	4.20
877	126		石鏃 (有茎式)	中央南	P	大溝	3	4.05	1.75	0.55	3.96
878	126		石鏃 (凸基I式)	中央南	P	大溝	3	3.40	1.55	0.39	1.82
879	126		石鏃 (有茎式)	中央南	P	大溝	3	4.25	3.30	0.65	5.30
880	126		石鏃 (平基式)	中央南	P	大溝	3	2.55	1.55	0.42	1.57
881	126		石鏃未製品	中央南	P	大溝	3	5.15	3.20	0.61	9.31
882	126	69	石鏃 (有茎式)	中央南	P	大溝	3	7.00	2.15	0.48	5.62
883	126		石鏃 (有茎式石鏃の転用)	中央南	P	大溝	3	4.55	1.75	0.74	4.54
884	126		石鏃 (有茎式)	中央南	P	大溝	3	3.65	1.15	0.53	2.46
885	126		石鏃 (有茎式)	中央南	P	大溝	3	3.30	1.90	0.31	2.05
886	126	70	石鏃 (II類)	中央南	P	大溝	3掘い	4.45	1.85	0.84	5.57
887	126	70	石鏃 (II類)	中央南	P	大溝	3	5.65	1.60	1.09	7.92
888	127		石槍	中央南	P	大溝	3	5.00	2.55	1.54	25.05
889	127		石槍	中央南	P	大溝	3	2.90	2.10	0.85	5.66
890	127		石鏃未成品?	中央南	P	大溝	3	4.55	3.00	0.87	10.24
891	127		石鏃 (凹基式)	中央南	N	大溝	3	2.00	1.35	0.29	0.64
892	127		石鏃 (凸基II式)	中央南	N	大溝	3	2.30	1.15	0.36	1.02
893	127	72	スクレーパー	中央南	P	大溝	3	5.00	8.90	1.20	53.82
894	127		石鏃 (有茎式)	中央南	N	大溝	3	3.90	1.95	0.55	3.66
895	127	70	石鏃 (II類)	中央南	N	大溝	3	3.80	1.55	0.73	5.05
896	127		石鏃 (II類)	中央南	N	大溝	3	3.20	0.80	0.52	1.28
897	127		石鏃未成品?	中央南	N	大溝	3	5.05	1.90	0.72	6.64
898	127		石鏃 (凸基II式石鏃の転用)	中央南	N	大溝	3	3.15	1.60	0.48	2.48
899	127		石槍	中央南	N	大溝	3	4.80	2.35	0.91	12.45
900	127		石槍	中央南	N	大溝	3	2.65	2.20	0.83	4.47
901	127	69	石鏃 (凹基式)	中央南	S	大溝	1	2.60	1.60	0.40	1.39
902	127		スクレーパー	中央南	N	大溝	3	2.15	4.05	0.98	8.11
903	127		石鏃未成品	中央南	N	大溝	3	5.50	2.70	0.71	10.32
962	135		石鏃 (II類)	中央南	U	大溝	4	4.00	1.30	0.69	4.02
963	135	70	石鏃 (II類?)	中央南	U	大溝	4	4.60	2.05	1.15	9.89
964	135		石鏃 (有茎式)	中央南	T	大溝	4	3.00	2.40	0.50	3.04
965	135		石鏃 (縄文・凹基式)	中央南	U	大溝	4掘い	1.75	1.55	0.30	0.56
966	135		石鏃 (III類)	中央南	T	大溝	4	3.90	0.90	0.40	1.34
967	135	72	スクレーパー	中央南	T	大溝	4	4.60	5.90	0.90	27.68
968	135		石鏃 (II類)	中央南	T	大溝	4	4.50	1.00	0.40	2.18
1049	153		石鏃 (縄文・凹基式)	中央北	E	包含層	2層	2.55	1.75	0.30	0.80

打製石器一覧表(3)

遺物番号	沖原番号	図所番号	種類	大区割り	調査区	遺構名	番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	質量 (g)
1050	153		石錐 (凸基II式)	中央北	E	包含層扱		3.30	1.60	0.48	2.48
1051	153	72	スクレーパー	中央南	L	包含層	2層	5.35	2.65	0.40	10.40
1052	153		石錐 (有茎式)	中央南	O	混入扱		2.70	1.60	0.42	1.70
1053	153		石錐 (有茎式石錐の転用)	中央南	O	包含層	2層	3.95	1.35	0.56	3.14
1054	153	70	石錐 (III類?)	中央南	O	包含層		4.00	2.30	1.03	8.84
1055	153	71	石錐	中央南	N	包含層	1層	13.60	2.90	1.32	56.74
1056	153		石錐 (有茎式石錐の転用)	中央南	T	包含層	3・4層	2.80	1.70	0.50	2.60
1057	153		石錐 (有茎式)	中央南	T	包含層	4層	3.60	2.70	0.60	3.99
1058	153		石錐 (III類)	中央南	T	混入扱	3・4層	3.50	1.20	0.40	2.48
1059	153		石錐 (有茎式)	中央南	T	包含層	第V層	3.80	1.40	0.50	2.67
1060	153		石錐 (縄文・凹基式)	中央南	T	包含層	第V層	2.50	1.50	0.40	0.96
1061	153	69	石錐 (凸基II式)	中央南	T	包含層	褐色土層	3.80	1.60	0.50	2.34
1062	153	69	石錐 (縄文・凹基式)	南	X	包含層	3層	2.85	1.85	0.28	1.14
1063	153	71	石錐 (横型)	南	W	包含層	2層	3.90	5.10	0.79	10.90
1435		69	石錐 (凸基II式)	中央南	M	竪穴住居	5・6・7	5.08	1.00	0.73	3.06
1436		69	石錐 (凸基II式)	中央南	M	竪穴住居	5・6・7	4.77	1.24	0.63	3.32
1437		69	石錐 (凸基II式?)	中央北	E	包含層	3層	6.08	1.45	0.62	4.87
1438		69	石錐 (凹基無茎式)	中央北	E	包含層	3層	2.46	1.63	0.28	0.81
1439		70	石錐 (I類)	中央北	E	包含層	3層	3.61	1.72	0.60	2.27
1440		71	石錐 (横型)	中央南	M	包含層		4.13	2.62	0.67	5.17
1441		72	スクレーパー	中央南	L	包含層	3層	7.65	3.60	1.36	38.72
1442		72	打製石苞丁	中央南	Y	包含層	2・3層	9.46	4.53	0.99	44.30
1443		73	石部、剥片など	中央南	M	竪穴住居	5・6・7				180.32
1444		73	石錐破片、楔形石器、剥片など	中央南	M	竪穴住居	5・6・7				82.80
1445		73	剥片・チップなど	中央南	L	土坑	260037				446.37

磨製石器一覧表(1)

遺物番号	発掘番号	図版番号	種別	石材	大区前リ	調査区	遺構名	番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
12	22		礫石 (台石?)	砂岩	中央南	K	竪穴住居	1	32.40	22.10	6.40	6,000.00
40	30	75	柱状片刃石片	緑色片岩	中央南	M	竪穴住居	5・6・7	8.30	2.90	2.55	135.28
124	39		叩き石	砂岩	中央南	K	竪穴住居	12	17.60	5.25	4.35	578.51
125	39	77	台石 (礫石)	砂岩	中央南	K	竪穴住居	12	15.80	23.60	5.40	3,544.70
126	39		石磨丁 (II類)	緑色片岩	中央南	K	竪穴住居	12	6.95	4.10	0.77	31.27
127	39		石磨丁 (VA類)	緑色片岩	中央南	K	竪穴住居	12	5.70	4.30	0.76	25.08
128	39		石磨丁 (II類、内湾方)	緑色片岩	中央南	O	竪穴住居	17 a	11.70	4.50	0.81	63.66
129	39	74	石磨丁未成品 (VA類?)	緑色片岩	中央南	O	竪穴住居	17 a	14.95	5.00	0.91	102.92
142	43		叩き石	砂岩	中央南	N	竪穴住居	20	7.30	4.80	4.90	219.83
143	43		礫石 (叩き石)	砂岩	中央南	N	竪穴住居	20	6.05	3.70	3.65	124.58
144	43		礫石	凝灰岩	中央南	N	竪穴住居	20	5.80	2.55	1.80	33.63
145	44		台石 (礫石)	砂岩	中央南	N	竪穴住居	20	40.80	28.00	11.30	20,000.00
146	46		礫石 (台石)	砂岩	中央南	N	竪穴住居	22・23	24.70	10.20	9.90	3,251.00
147	46		礫石	凝灰岩	中央南	N	竪穴住居	22・23	11.85	4.80	3.75	357.35
148	46		叩き石	砂岩	中央南	N	竪穴住居	22・23	17.40	4.85	3.50	363.15
149	47		柱状片刃石片	緑色片岩	中央南	N	竪穴住居	22・23	3.65	1.15	0.30	2.35
150	47		石磨丁	緑色片岩	中央南	N	竪穴住居	22・23	4.60	4.55	0.74	17.38
151	47		叩き石	砂岩	中央南	N	竪穴住居	22・23	7.55	6.35	3.90	243.48
152	47		叩き石	砂岩	中央南	N	竪穴住居	22・23	8.45	6.70	6.60	504.20
153	47		台石 (礫石)	砂岩	中央南	N	竪穴住居	25	36.40	23.10	11.00	13,500.00
164	51	77	台石 (礫石)	砂岩	中央南	N	竪穴住居	25	27.60	12.00	10.10	4,000.00
165	51		礫石	砂岩	中央南	N	竪穴住居	25	16.45	12.30	9.55	4,260.00
197	59		叩き石 (磨石?)	砂岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	10.80	4.80	2.15	137.55
198	59		叩き石	砂岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	9.55	4.85	1.75	102.87
199	59		叩き石	砂岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	9.20	3.85	3.20	185.35
200	59		石皿	砂岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	7.50	10.90	3.10	318.02
201	59	75	柱状片刃石片 (小型)	緑色片岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	5.20	1.10	1.00	12.00
202	59		石皿 (台石)	砂岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	10.00	13.05	2.80	484.52
203	59	76	石皿	緑色片岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	10.35	5.30	5.40	405.75
204	60		礫石	石英安山岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	15.70	10.50	5.50	1,256.25
205	60		礫石	砂岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	6.75	8.50	3.05	233.21
206	60		礫石 (台石)	砂岩	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	28.20	19.50	4.40	3,753.40
207	61	74	石磨丁 (VA類)	緑色片岩	中央南	T	竪穴住居	31	11.40	5.90	0.70	79.60
215	66	77	礫石	砂岩	中央南	T	竪穴住居	110390	12.20	13.00	2.60	531.52
216	68		大型磨石片刃石片 (叩き石へ転用)	緑色片岩	中央南	N	ピット	710103	12.50	7.35	4.45	362.75
217	68	75	大型磨石片刃石片 (叩き石へ転用)	斑レイ岩	中央南	M	ピット	920441	10.50	7.10	5.30	564.11
235	71		礫石	砂岩	中央南	L	土坑	260005	11.60	16.00	4.60	928.66
236	71		磨石 (叩き石)	砂岩	中央南	L	土坑	260005	6.70	5.85	4.85	253.64
237	71	75	被輪車	緑色片岩	中央南	L	土坑	260005	3.85	3.95	0.48	12.42
238	71		叩き石	砂岩	中央南	L	土坑	260015	13.55	3.90	3.80	306.43
239	71	76	叩き石	砂岩	中央南	R	土坑	720202	9.60	6.65	6.05	475.93
240	71		石磨丁 (II類)	緑色片岩	中央南	L	土坑	260035	5.20	4.45	0.71	18.00
271	78		礫石	砂岩	中央南	R	土坑	720211	13.20	5.50	2.60	389.49
272	78		礫石 (台石)	砂岩	中央南	N	土坑	710624	17.30	6.70	7.10	1,196.10
294	81		石磨丁 (II類?、内湾方)	緑色片岩	中央南	T	土坑	110089	9.70	4.70	0.70	53.13
295	81		石磨丁 (II類?)	緑色片岩	中央南	T	土坑	110171	13.10	5.25	0.60	68.49
296	81		礫石	砂岩	中央南	T	土坑	110171	27.60	18.30	3.50	2,743.35
347	89		礫石 (石皿?)	砂岩	中央南	L	溝	260694	17.00	11.50	6.80	1,546.95
348	90	76	叩き石	砂岩	中央南	L	溝	260694	8.70	6.10	5.90	408.51
349	90		台石	砂岩	中央南	L	溝	260694	26.10	20.00	6.80	4,750.00
350	90		台石 (礫石)	砂岩	中央南	L	溝	260694	30.50	16.60	5.45	3,750.00
410	97		叩き石	砂岩	中央北	G	大溝	1	11.45	4.70	3.40	239.65
411	97		柱状片刃石片	緑色片岩	中央南	I	大溝	1	11.95	3.15	2.40	155.62

磨製石器一覧表(2)

遺物番号	発掘番号	図録番号	種類	石材	大区別	調査区	遺構名	番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	質量 (g)
412	97		柱状片刃石斧	黒色片岩	中央部	I	大溝	1	15.10	3.80	1.45	169.91
413	97		扁平片刃石斧 (石慮丁の紐目?)	緑色片岩	中央部	I	大溝	1	4.10	2.70	0.73	13.98
414	97	74	石慮丁未成品 (II類)	緑色片岩	中央部	I	大溝	1	11.45	5.90	11.35	123.25
729	114		石慮丁 (II類、内溝刃)	緑色片岩	中央部	I	大溝	1	10.35	4.10	0.77	48.65
730	114		石慮丁 (大型石慮丁?)	緑色片岩	中央部	K	大溝	1	10.00	5.95	0.91	80.62
731	114		石慮丁 (II類)	緑色片岩	中央部	K	大溝	1	7.45	3.95	0.65	26.65
732	114		大型石慮丁	緑色片岩	中央部	K	大溝	1	6.60	10.15	1.07	98.10
733	114		大型石慮丁	緑色片岩	中央部	K	大溝	1	7.80	7.30	0.76	53.48
734	115		石慮丁 (VA類?)	緑色片岩	中央部	K	大溝	1	5.75	4.40	0.84	27.13
735	115		大型石慮丁	緑色片岩	中央部	K	大溝	1	7.35	7.00	1.28	80.66
736	115		石慮丁 (IV類?)	緑色片岩	中央部	K	大溝	2	7.00	3.90	0.75	25.46
737	115		礫石 (台石)	砂岩	中央部	K	大溝	2	12.70	9.50	5.10	991.84
738	115		叩き石	砂岩	中央部	K	大溝	1	9.00	5.15	4.80	301.47
739	115	77	礫石	砂岩	中央部	K	大溝	1	9.50	12.20	4.50	700.86
764	117		叩き石 (探検)	砂岩	中央部	S	大溝	1	6.50	6.40	6.30	371.80
904	128		柱状片刃石斧	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	10.75	3.25	3.70	279.13
905	128		柱状片刃石斧	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	11.15	3.90	4.10	218.14
906	128		礫石	砂岩	中央部	P	大溝	3	7.55	6.15	5.55	335.92
907	128		叩き石	砂岩	中央部	P	大溝	3	7.95	2.70	1.75	48.52
908	128		石慮丁 (II類、内溝刃)	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	16.85	4.35	0.67	76.22
909	129	74	石慮丁 (II類、内溝刃)	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	11.85	3.90	0.81	50.50
910	129		石慮丁 (II類、内溝刃)	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	8.00	4.30	0.78	39.57
911	129		石慮丁 (II類?)	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	8.80	4.55	0.78	53.33
912	129		石慮丁 (IV類)	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	8.80	4.35	0.88	46.51
913	129		石慮丁 (IV類)	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	10.25	6.25	0.93	75.24
914	129		大型石慮丁	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	8.00	6.30	0.77	64.64
915	130		石慮丁未成品?	紅隴石片岩	中央部	P	大溝	3	5.20	4.10	0.49	16.96
916	130		石慮丁 (II類)	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	6.65	5.50	0.67	30.84
917	130		石慮丁未成品?	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	8.80	4.05	0.73	29.75
918	130		石慮丁 (II類)	緑色片岩	中央部	P	大溝	3	7.80	6.80	0.52	48.48
919	130		石慮丁 (IV類)	緑色片岩	中央部	N	大溝	3	9.85	4.25	0.78	49.33
920	130		石慮丁 (II類)	緑色片岩	中央部	N	大溝	3	7.10	6.05	0.90	55.72
921	131		叩き石 (石斧の紐目?)	ヒン岩	中央部	N	大溝	3	9.00	6.85	5.25	387.58
922	131	76	叩き石	砂岩	中央部	N	大溝	3	11.50	4.95	4.80	331.90
923	131	77	礫石 (台石)	砂岩	中央部	N	大溝	3	15.00	17.60	6.80	2,305.60
924	131		叩き石	砂岩	中央部	N	大溝	3	11.40	3.00	1.20	57.20
925	132		石皿	砂岩	中央部	N	大溝	3	11.10	10.10	2.95	490.27
926	132		叩き石	砂岩	中央部	N	大溝	3	6.10	7.80	2.20	137.14
969	136	75	大型給刃石斧	ホルンフェルス	中央部	T	大溝	4	14.50	7.00	4.30	823.60
970	137		石慮丁 (VA類)	緑色片岩	中央部	T	大溝	4	4.90	3.80	0.60	17.48
971	137		石慮丁 (IV類)	緑色片岩	中央部	T	大溝	4	7.90	3.90	0.50	23.54
972	137		柱状片刃石斧	黒色片岩	中央部	T	大溝	4	11.80	2.50	2.00	86.78
973	137	75	柱状片刃石斧	緑色片岩	中央部	T	大溝	4	19.40	3.20	4.10	585.15
1064	154		叩き石 (石種?)	緑色片岩	中央北	E	惣倉層段		8.15	2.40	2.60	75.65
1065	154		叩き石 (大型給刃石斧の紐目)	砂岩	中央部	H	惣倉層段		10.25	6.80	5.40	593.98
1066	154	76	石種	砂岩	中央部	O	惣倉層段	2層	10.60	6.35	6.50	587.12
1067	154		柱状片刃石斧	緑色片岩	中央部	I	惣倉層段	3層	5.20	1.80	3.40	57.21
1068	154		叩き石 (礫石)	砂岩	中央部	O	惣倉層段		10.90	7.80	7.20	752.56
1069	155	74	石慮丁 (IV類)	緑色片岩	中央部	T	惣倉層		13.00	4.20	0.80	75.65
1070	155		石慮丁 (II類、内溝刃)	緑色片岩	中央部	Q	惣倉層		11.80	4.70	0.90	62.13
1071	155	75	大型給刃石斧	硬質砂岩	中央部	L	惣倉層段	3層	7.80	6.90	4.60	396.53
1072	156	76	叩き石 (Hみ石)	砂岩	中央部	Q	惣倉層	2・3層	12.00	7.60	6.80	964.14
1073	156		礫石	砂岩	中央部	T	惣倉層		12.60	4.80	4.80	430.11

土器一覽表(1)

遺物番号	所出層号	図版番号	種別	器形	大区劃り	積込区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体積最大径 (cm)
1	16	30	縄文土器	深鉢	中央南	N	混入扱					
2	16		縄文土器	深鉢	中央南	N	混入扱					
3	16	30	縄文土器	深鉢	中央南	N	混入扱					
4	16	30	縄文土器	浅鉢	南	V	混入扱					
5	16	30	縄文土器	深鉢	中央南	T	混入扱					
6	16	30	縄文土器	深鉢	中央北	E	混入扱					
7	16	30	縄文土器	深鉢	中央北	G	混入扱		径元 31.6			
8	21	31	弥生土器	甕	中央南	K	竪穴住居	1				
9	21		弥生土器	甕	中央南	K	竪穴住居	1				
10	21		弥生土器	底部	中央南	K	竪穴住居	1			径元 10.0	
11	21		弥生土器	底部	中央南	K	竪穴住居	1			径元 9.2	
13	24	31	弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	2	径元 21.4			
14	24		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	2	径元 21.0			
15	24		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	2			径元 6.0	
16	24		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	2			径元 5.4	
17	24		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	2			10.0	
18	26	31	弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 20.4			
19	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 26.0			
20	26	31	弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 22.2			
21	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 18.4			
22	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 16.6			
23	26		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	L	竪穴住居	3	径元 11.4			
24	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 22.9			
25	26		弥生土器	脚部	中央南	L	竪穴住居	3			径元 15.2	
26	26		弥生土器	高杯	中央南	L	竪穴住居	3	径元 33.2			
27	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 26.8			
28	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 28.3			
29	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3	径元 33.6			
30	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3				
31	26		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	3			径元 4.9	
32	26		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	L	竪穴住居	3			径元 5.6	
33	26		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	3			径元 7.4	
34	26		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	3			径元 7.2	
35	26		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	3			7.4	
36	26		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	L	竪穴住居	3			径元 8.6	
37	26		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	3			径元 7.6	
38	26		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	3			6.0	
39	26		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	3			径元 8.4	
41	31		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	4		10.8		
42	31		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	4	径元 13.8			
43	31		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	4	径元 18.2			
44	31		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	4	径元 16.0			
45	31	31	弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	4	径元 13.4			
46	31	31	弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	4	径元 20.6			
47	31	31	弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	4	径元 16.8			
48	31		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	4			2.6	
49	31		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	4			径元 5.8	
50	31		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	4			径元 7.0	
51	31	31	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	L	竪穴住居	4			径元 5.2	
52	31	32	弥生土器	甕	中央南	M	竪穴住居	5・6・7	径元 11.4			18.9
53	31		弥生土器	高杯	中央南	L	竪穴住居	5・6・7	径元 18.4			
54	31		弥生土器	脚部	中央南	L	竪穴住居	5・6・7	径元 12.8			
55	31		弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	5・6・7	径元 13.8			
56	31	32	弥生土器	甕	中央南	L	竪穴住居	5・6・7				4.7



土器一覽表(2)

遺物番号	母器番号	図版番号	種別	形状	大区割り	調査区	通称名・原名	通称番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体厚最大径 (cm)
57	31		弥生土器	底部	中央南	L	竪穴住居	5・6・7			復元 6.2	
58	31		弥生土器	複合鉢	中央南	K	竪穴住居	8				
59	31		弥生土器	高杯	中央南	K	竪穴住居	8				
79	36		弥生土器	壺	中央南	K	竪穴住居	12	復元 8.6			
80	36	32	弥生土器	甕	中央南	K	竪穴住居	12	復元 17.0			
81	36		弥生土器	甕	中央南	K	竪穴住居	12	復元 19.0			
82	36		弥生土器	甕	中央南	K	竪穴住居	12	復元 23.0			
83	36		弥生土器	甕	中央南	K	竪穴住居	12	復元 21.4			
84	36		弥生土器	底部	中央南	K	竪穴住居	12			10.0	
85	36		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	K	竪穴住居	12			5.0	
86	36		弥生土器	底部	中央南	K	竪穴住居	12			復元 6.0	
87	36		弥生土器	甕	中央南	O	竪穴住居	13	復元 19.4			
88	36	32	弥生土器	甕	中央南	O	竪穴住居	13	復元 21.4			
89	36	32	弥生土器	台付鉢	中央南	O	竪穴住居	13	復元 30.8			
90	36		弥生土器	底部	中央南	O	竪穴住居	13			復元 6.4	
91	36		弥生土器	底部	中央南	O	竪穴住居	13			復元 6.8	
92	36	32	弥生土器	甕	中央南	O	竪穴住居	16	復元 13.0			
93	36		弥生土器	甕	中央南	O	竪穴住居	16	復元 21.0			
94	36		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	O	竪穴住居	16			復元 5.0	
95	36		弥生土器	底部	中央南	O	竪穴住居	16			復元 6.4	
96	36	33	弥生土器	甕	中央南	N	竪穴住居	20	復元 15.8			
97	36	33	弥生土器	甕	中央南	N	竪穴住居	20	復元 35.5			
98	36	33	弥生土器	甕	中央南	P	竪穴住居	21	8.8		復元 17.2	
99	36		弥生土器	甕	中央南	N	竪穴住居	18				
100	36		弥生土器	無頭甕	中央南	N	竪穴住居	19				
101	37	32	弥生土器	甕	中央南	O	竪穴住居	17 a	復元 19.5			
102	37	33	弥生土器	甕	中央南	O	竪穴住居	17 a	13.4	54.5	10.0	36.4
103	37	32	弥生土器	甕	中央南	O	竪穴住居	17 a	15.2			
104	37		弥生土器	甕	中央南	O	竪穴住居	17 b	復元 19.6			
105	37	33	弥生土器	高杯	中央南	O	竪穴住居	17 a	22.0	18.7	14.2	22.6
106	37		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	O	竪穴住居	17 b			復元 6.4	
107	37	33	弥生土器	底部	中央南	O	竪穴住居	17 a			7.9	
154	50		弥生土器	甕	中央南	N	竪穴住居	24	復元 14.6		復元 22.2	
155	50		弥生土器	甕	中央南	N	竪穴住居	24	復元 21.2		7.5	
156	50	33	弥生土器	甕	中央南	M	竪穴住居	24			7.6	23.3
157	50		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	N	竪穴住居	22・23			復元 4.6	
158	50	34	弥生土器	甕	中央南	N	竪穴住居	25	復元 11.0			
159	50		弥生土器	高杯	中央南	N	竪穴住居	25	復元 18.8			
160	50		弥生土器	脚部	中央南	N	竪穴住居	25			復元 13.4	
161	50		弥生土器	高杯	中央南	N	竪穴住居	25	復元 20.0			
162	50		弥生土器	高杯	中央南	N	竪穴住居	25	復元 21.0			
163	50		弥生土器	甕	中央南	N	竪穴住居	25	復元 31.0			
166	54	34	弥生土器	把手付甕	中央南	T	竪穴住居	27	19.0			36.3
167	54	34	弥生土器	甕	中央南	T	竪穴住居	27	22.4	46.9	7.7	31.0
168	54	34	弥生土器	甕	中央南	T	竪穴住居	27	16.4	46.0	9.2	28.6
169	55	35	弥生土器	甕	中央南	T	竪穴住居	27	復元 12.0			復元 29.6
170	55	35	弥生土器	甕	中央南	T	竪穴住居	27	20.0	45.9	復元 7.3	復元 30.5
171	55		弥生土器	甕	中央南	T	竪穴住居	27			6.4	復元 23.8
172	55		弥生土器	底部	中央南	T	竪穴住居	27			10.2	
173	55		弥生土器	底部	中央南	T	竪穴住居	27			8.3	
174	55		弥生土器	底部	中央南	T	竪穴住居	27			復元 9.0	
175	57		弥生土器	甕	中央南	T	竪穴住居	27	復元 28.6	推定 40.0	9.2	復元 31.0
176	57		弥生土器	甕	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	復元 18.0			
177	57		弥生土器	甕	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	復元 25.0			

土器一覧表(3)

遺物番号	伴出番号	図記番号	種別	器形	大区劃り	期層区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	鉢径最大径 (cm)	
178	57		弥生土器	蓋	中央南	R	竪穴住居	28・29・30					
179	57		弥生土器	蓋	中央南	R	竪穴住居	28・29・30					
180	57	35	弥生土器	鉢	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	復元	25.4			
181	57	35	弥生土器	高杯	中央南	R	竪穴住居	28・29・30	復元	19.6	19.9	復元 11.3	
182	57	35	弥生土器	鉢	中央南	T	竪穴住居	31		24.8			
183	57		弥生土器	高杯	中央南	T	竪穴住居	31	復元	25.2			
184	57	35	弥生土器	高杯	中央南	T	竪穴住居	31		18.8			
185	57		弥生土器	蓋	中央南	I	竪穴住居	31	復元	15.0		復元 20.3	
208	67		弥生土器	蓋	中央南	L	ビット	260416	復元	20.3			
209	67		弥生土器	蓋	中央南	L	ビット	260518	復元	30.4			
210	67	36	弥生土器	底部	中央南	L	ビット	260852			復元 4.8		
211	67	36	弥生土器	底部	中央南	L	ビット	260727			8.2		
212	67	36	弥生土器	蓋	中央南	T	ビット	110174	復元	19.0			
213	67		弥生土器	底部	中央南	T	ビット	110385			復元 7.6		
214	67		弥生土器	底部	中央南	T	ビット	110170			復元 6.0		
218	70	36	弥生土器	把手付蓋	中央南	K	土坑	810001		16.4			
219	70		弥生土器	蓋	中央南	I	土坑	540001					
220	70	36	弥生土器	蓋	中央南	I	土坑	540001	復元	20.0			
221	70		弥生土器	蓋	中央南	I	土坑	540001	復元	15.6			
222	70		弥生土器	底部	中央南	I	土坑	540001			復元 7.4		
223	70		弥生土器	蓋	中央南	I	土坑	540001	復元	13.4			
224	70		弥生土器	底部	中央南	I	土坑	540001			復元 7.2		
225	70		弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260005	復元	14.0			
226	70	36	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	L	土坑	260005			5.0		
227	70		弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260030	復元	18.4			
228	70		弥生土器	蓋蓋	中央南	L	土坑	260030					
229	70		弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260030	復元	14.3			
230	70		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260030			4.5		
231	70		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260030			6.8		
232	70		弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260030	復元	36.1			
233	70		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260030			5.7		
234	70		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260030			7.0		
241	73		弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260016	復元	21.6			
242	73		弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260016	復元	21.4			
243	73		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260016			復元 14.2		
244	73		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260016			4.7		
245	73		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260016			復元 11.0		
246	73		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260016			復元 5.7		
247	73	36	弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260277	復元	25.4			
248	73		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260277			復元 7.0		
249	73		弥生土器	鉢	中央南	L	土坑	260700	復元	30.2			
250	73		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	L	土坑	260700			5.2		
251	73		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260203			7.8		
252	73		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260203			6.0		
253	73		弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260203			復元 6.0		
254	73		弥生土器	底部	中央南	L	土坑	260203			9.7		
255	73		弥生土器	蓋	中央南	L	土坑	260500	復元	29.2			
256	76	37	弥生土器	蓋	中央南	M	土坑(墓)	920439		17.4	復元 31.5	7.0	25.5
257	76		弥生土器	蓋	中央南	R	土坑	720036	復元	9.2			
258	76		弥生土器	蓋	中央南	N	土坑	710063	復元	19.4			
259	76		弥生土器	蓋	中央南	N	土坑	710063	復元	22.8			
260	76	37	弥生土器	底部	中央南	K	土坑	830031			11.6		
261	76		弥生土器	版銅蓋	中央南	N	土坑	710624			3.0	復元 5.5	
262	76	37	弥生土器	版銅蓋	中央南	N	土坑	710114		4.8	10.3	5.9	

土器一覽表 (4)

遺物番号	探区番号	図版番号	種別	器形	大区別	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体積最大径 (cm)
263	76	37	弥生土器	底部	中央南	K	土坑	830027			7.3	33.8
273	80	37	弥生土器	蓋	中央南	T	土坑	110089	復元 16.4			復元 20.0
274	80		弥生土器	蓋	中央南	T	土坑	110089	復元 18.4			
275	80	37	弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110089			4.6	
276	80		弥生土器	脚部	中央南	T	土坑	110089			復元 15.4	
277	80		弥生土器	蓋	中央南	T	土坑	110089	復元 19.0			
278	80		弥生土器	蓋	中央南	T	土坑	110089				
279	80		弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110086			8.0	
280	80		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	T	土坑	110086			7.0	
281	80		弥生土器	蓋	中央南	T	土坑	110171	復元 15.8			
282	80	38	弥生土器	蓋	中央南	T	土坑	110171	復元 18.2			
283	80		弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110171			復元 6.2	
284	80		弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110171			復元 6.8	
285	80		弥生土器	脚部	中央南	T	土坑	110171			14.3	
286	80		弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110386			復元 9.2	
287	80		弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110386			復元 7.0	
288	80	38	弥生土器	蓋	中央南	T	土坑	110387	復元 27.6			復元 28.4
289	80		弥生土器	蓋	中央南	T	土坑	110387	復元 17.7			
290	80		弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110387			復元 5.8	
291	80		弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110387			復元 6.0	
292	80		弥生土器	脚柱部	中央南	T	土坑	110387				
293	80		弥生土器	底部	中央南	T	土坑	110388			復元 5.0	
297	83	38	弥生土器	蓋	中央南	H	溝	530006	復元 20.0	復元 53.9	9.1	復元 36.7
298	83	38	弥生土器	蓋	中央南	H	溝	530006	11.2	23.7	5.8	18.4
299	83		弥生土器	蓋	中央南	H	溝	530006	復元 22.4			
300	83		弥生土器	脚部	中央南	H	溝	530006			6.6	
301	83		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006	復元 11.0			
302	83		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			5.0	
303	83		弥生土器	台付鉢	中央南	H	溝	530006				
304	83	38	弥生土器	高杯	中央南	H	溝	530006	復元 24.8			
305	84	39	弥生土器	蓋	中央南	H	溝	530006	復元 23.7			
306	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006	復元 12.2			
307	84		弥生土器	蓋	中央南	H	溝	530006	復元 23.6			
308	84		弥生土器	蓋	中央南	H	溝	530006	復元 29.2			
309	84		弥生土器	底部	中央南	H	溝	530006			復元 8.4	
310	84		弥生土器	底部	中央南	H	溝	530006			8.0	
311	84		弥生土器	底部	中央南	H	溝	530006			復元 6.4	
312	84	38	弥生土器	底部	中央南	H	溝	530006			5.6	
313	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			復元 8.0	
314	84		弥生土器	底部	中央南	H	溝	530006			7.2	
315	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			復元 6.0	
316	84		弥生土器	底部	中央南	H	溝	530006			10.5	
317	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			復元 7.4	
318	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			6.2	
319	84	39	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			4.5	
320	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			5.9	
321	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			7.4	
322	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			7.6	
323	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			6.6	
324	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			6.2	
325	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			6.9	
326	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			復元 5.8	
327	84		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			6.6	
328	84	39	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	H	溝	530006			7.1	

土器一覽表(5)

遺物番号	群器番号	副器番号	種別	體形	大区劃り	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口徑 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口径最大径 (cm)
329	87		弥生土器	蓋	中央南	L	溝	260694	復元 16.8			
330	87	39	弥生土器	甕	中央南	L	溝	260694	復元 18.6			
331	87		弥生土器	底部	中央南	L	溝	260694			復元 5.4	
332	87	39	弥生土器	蓋	中央南	N	溝	710280	復元 18.0			
333	87	39	弥生土器	甕	中央南	N	溝	710280	復元 24.6			
334	87		弥生土器	蓋	中央南	L	溝	260660	復元 15.8			
335	87		弥生土器	底部	中央南	L	溝	260660			復元 7.8	
336	87		弥生土器	底部	中央南	L	溝	260660			4.6	
337	87		弥生土器	底部	中央南	L	溝	260660			4.6	
338	87		弥生土器	高杯	中央南	L	溝	260732	復元 25.8			
339	87		弥生土器	甕	中央南	N	溝	710219	復元 30.4			
340	87		弥生土器	脚部	中央南	N	溝	710219			復元 14.2	
341	87		弥生土器	底部	中央南	N	溝	710219			復元 6.8	
342	87	39	弥生土器	底部	中央南	R	溝	720138			復元 7.4	
343	87		弥生土器	底部	中央南	L	溝	260020			5.5	
351	93	40	弥生土器	蓋	中央南	G	大溝	1	復元 55.8			
352	93		弥生土器	蓋	中央南	G	大溝	1	9.4			
353	93		弥生土器	蓋	中央南	G	大溝	1	19.8			
354	93	40	弥生土器	蓋蓋	中央南	G	大溝	1			復元 16.6	
355	93		弥生土器	蓋蓋	中央南	G	大溝	1			復元 16.0	
356	93		弥生土器	蓋	中央南	G	大溝	1	復元 24.0			
357	93	40	弥生土器	蓋	中央南	G	大溝	1	復元 9.5	22.0	5.5	15.0
358	93		弥生土器	蓋	中央南	G	大溝	1	復元 20.0			
359	93	40	弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	G	大溝	1	復元 14.6			
360	93		弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	G	大溝	1			6.8	
361	93	40	土製品	土埴	中央南	G	大溝	1				
362	93		弥生土器	脚部	中央南	G	大溝	1			復元 10.8	
363	93		弥生土器	甕	中央南	G	大溝	1	復元 30.7			
364	93		弥生土器	甕	中央南	G	大溝	1	復元 26.0	復元 40.0	8.2	
365	94		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 14.4			
366	94		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 27.8			
367	94		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 16.0			
368	94	40	弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 22.6			
369	94		弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	I	大溝	1	復元 11.8			
370	94	40	弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 18.2			
371	94		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 22.0			
372	94		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 15.6			
373	94		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 23.2			
374	94	40	弥生土器	脚部	中央南	I	大溝	1				
375	94		弥生土器	脚部	中央南	I	大溝	1			復元 12.8	
376	94		弥生土器	底部	中央南	I	大溝	1			3.4	
377	94		弥生土器	底部	中央南	I	大溝	1			復元 4.8	
378	94		弥生土器	底部	中央南	I	大溝	1			復元 9.6	
379	94		弥生土器	底部	中央南	I	大溝	1			復元 9.0	
380	95		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 16.8			
381	95		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 16.0			
382	95		弥生土器	無頸壺	中央南	I	大溝	1	復元 16.0			
383	95	41	弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 18.8			
384	95		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1				
385	95		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1				
386	95		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1				
387	95		弥生土器	舞台	中央南	I	大溝	1			復元 18.0	
388	95		弥生土器	高杯	中央南	I	大溝	1	復元 20.8			
389	95		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 13.6			

土器一覽表(6)

遺物番号	編目番号	図版番号	種別	器形	大区別	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	裨形最大径 (cm)
390	95	41	弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 14.8			
391	95		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 17.5			
392	95	41	弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1				
393	95		弥生土器	底部	中央南	I	大溝	1			5.5	
394	95		弥生土器	底部	中央南	I	大溝	1			6.5	
395	95	41	弥生土器	底部	中央南	I	大溝	1		復元 9.6		
396	96		弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 20.6			
397	96		弥生土器	香	中央南	I	大溝	1	復元 27.0			
398	96		弥生土器	高杯	中央南	I	大溝	1	復元 30.0			
399	96	41	弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 16.2			
400	96		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 28.0			
401	96		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 32.0			
402	96	41	弥生土器	蓋	中央南	I	大溝	1	復元 21.7			
403	96	41	弥生土器	無頸蓋	中央南	I	大溝	1	復元 13.6			
404	96	41	弥生土器	把手付鉢	中央南	I	大溝	1			6.1	
405	96		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1				
406	96		弥生土器	底部	中央南	I	大溝	1			7.7	
407	96		弥生土器	真鍮盃形土器	中央南	I	大溝	1		復元 5.8		
408	96		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 15.0			
409	96		弥生土器	甕	中央南	I	大溝	1	復元 16.0			
415	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 19.4			
416	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 16.8			
417	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 18.6			
418	98	42	弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 24.3			
419	98		弥生土器	香	中央南	J	大溝	1	復元 25.1			
420	98		弥生土器	香	中央南	J	大溝	1	復元 11.8			
421	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1				
422	98		土製品	土鐮	中央南	J	大溝	1				
423	98	42	弥生土器	香	中央南	J	大溝	1	復元 21.0			
424	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 25.0			
425	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 22.2			
426	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 22.6			
427	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1				
428	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1				
429	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 14.4			
430	98	42	弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	5.0			6.8
431	98	42	弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1			3.8	11.5
432	98	42	弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1		復元 5.0	復元 14.9	
433	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 19.0			
434	98		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1	復元 21.0			
435	99		弥生土器	甕	中央南	J	大溝	1	復元 15.6			
436	99		弥生土器	甕	中央南	J	大溝	1	復元 12.8	4.6		
437	99		弥生土器	甕	中央南	J	大溝	1				
438	99		弥生土器	甕	中央南	J	大溝	1	復元 17.8			
439	99		弥生土器	甕	中央南	J	大溝	1	復元 22.2			
440	99		弥生土器	真鍮盃形土器	中央南	J	大溝	1	復元 10.1			
441	99		弥生土器	底部	中央南	J	大溝	1			6.7	
442	99		弥生土器	底部	中央南	J	大溝	1			4.1	
443	99		弥生土器	底部	中央南	J	大溝	1		復元 6.2		
444	99		弥生土器	底部	中央南	J	大溝	1			6.6	
445	99		弥生土器	底部	中央南	J	大溝	1			11.1	
446	99		弥生土器	底部	中央南	J	大溝	1		復元 6.6		
447	99		弥生土器	底部	中央南	J	大溝	1			6.6	
448	99		弥生土器	底部	中央南	J	大溝	1			6.1	

土器一覽表(7)

遺物番号	発掘番号	図面番号	種別	器形	大区前リ	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	片厚最大径 (cm)
449	99	42	弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1			復元 6.0	
450	99		弥生土器	蓋	中央南	J	大溝	1			復元 6.0	
451	99		弥生土器	真鍮鍔形土器	中央南	J	大溝	1			復元 7.4	
452	99		弥生土器	真鍮鍔形土器	中央南	J	大溝	1			復元 6.1	
453	99		弥生土器	真鍮鍔形土器	中央南	J	大溝	1			復元 5.4	
454	100		弥生土器	高杯	中央南	J	大溝	1	復元 18.6			
455	100	42	弥生土器	複合鉢	中央南	J	大溝	1				
456	100		弥生土器	高杯	中央南	J	大溝	1	復元 26.0			
457	100		弥生土器	高杯	中央南	J	大溝	1	復元 19.8			
458	100	42	弥生土器	脚部	中央南	J	大溝	1			復元 8.5	
459	100		弥生土器	脚部	中央南	J	大溝	1			復元 13.0	
460	100		弥生土器	脚部	中央南	J	大溝	1			復元 14.4	
461	100		弥生土器	脚部	中央南	J	大溝	1			復元 16.0	
462	100		弥生土器	脚部	中央南	J	大溝	1			復元 17.2	
463	100		弥生土器	脚部	中央南	J	大溝	1			復元 14.0	
464	100		弥生土器	脚部	中央南	J	大溝	1			復元 15.0	
465	100		弥生土器	脚部	中央南	J	大溝	1			復元 14.2	
466	101	43	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1		復元 17.6		
467	101		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 22.4			
468	101		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 21.6			
469	101	43	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 9.0			
470	101	43	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 11.1			
471	101		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1		復元 14.4		
472	101		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 21.9			
473	101		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1		復元 23.6		
474	101		弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	復元 23.6			
475	101		弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	復元 22.4			
476	101	43	弥生土器	複合鉢	中央南	K	大溝	1				
477	101		弥生土器	複合鉢	中央南	K	大溝	1				
478	101		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1		復元 17.7		
479	101	43	弥生土器	台形土器	中央南	K	大溝	1	復元 23.2			
480	101		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 28.0			
481	101	43	弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 30.0			
482	101	43	弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 31.6			
483	101		弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1			復元 12.6	
484	101		弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1				
485	101	43	弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1			復元 14.5	
486	101		弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1			復元 16.0	
487	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
488	102	44	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 44.8			
489	102	44	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 22.4			
490	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 34.7			
491	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 19.0			
492	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 35.1			
493	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 19.6			
494	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 33.6			
495	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 19.1			
496	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 34.0			
497	102	44	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 17.8			
498	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 32.8			
499	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 17.6			
500	102	44	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 30.1			
502	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 15.0			
503	102		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 28.6			

土器一覧表(8)

遺物番号	発掘番号	図版番号	種別	形状	大区割り	窟室区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体部最大径 (cm)
504	102		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 14.6			
505	102		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 30.0			
506	102		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 14.7			
507	102		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 23.1			
508	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.0	8.2		5.5
509	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.4	9.3		5.7
510	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.5	9.3		5.3
511	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.0	9.3		5.4
512	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.5	9.4		6.0
513	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.9	9.9		5.7
514	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.7	10.0		6.0
515	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	5.0	9.6		6.6
516	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.6	10.4		5.9
517	103	44	弥生土器	飯鍋蓋	中央南	K	大溝	1	4.4	10.4		5.9
518	103		弥生土器	真鍮鍔形土器	中央南	K	大溝	1				5.4
519	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
520	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
521	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
522	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
523	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
524	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
525	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
526	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
527	103		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
528	104		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 57.2			
529	104	45	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 18.4			
530	104		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 25.0			
531	104	45	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 27.4			
532	104		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
533	104		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
534	104	45	弥生土器	水形形土器	中央南	K	大溝	1	復元 8.4			
535	104		弥生土器	複合鉢	中央南	K	大溝	1				
536	104		弥生土器	蓋蓋	中央南	K	大溝	1				
537	104	45	弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1			8.2	
538	104	45	弥生土器	脚柱部	中央南	K	大溝	1				
539	104		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 15.0			
540	104	45	弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 16.2			
541	104		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
542	104		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
543	104		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
544	104		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
545	104		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
546	104		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 33.8			
547	104		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 32.4			
548	105		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 22.0			
549	105	45	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	復元 31.6			
550	105		弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	復元 20.8			
551	105	46	弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	復元 26.0			
552	105		弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	21.4			
553	105	45	弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1			復元 8.9	
554	105		弥生土器	脚柱部	中央南	K	大溝	1				
555	105	45	弥生土器	複合鉢	中央南	K	大溝	1	17.8			20.0
556	105	46	弥生土器	把手付鉢	中央南	K	大溝	1	復元 13.4			
557	105		弥生土器	真鍮鍔形土器	中央南	K	大溝	1			5.7	

土器一覽表(9)

遺物番号	神田番号	品番番号	種別	器形	大区別	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	体部最大径(cm)
558	105	46	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	K	大溝	1			復元 5.6	
559	105	46	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	K	大溝	1	復元 13.0	23.3	7.0	復元 14.9
560	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 11.9			
561	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 27.1			
562	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 14.2			
563	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 28.0			
564	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 14.6			
565	106	46	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 31.8			
566	106	46	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 17.2			
567	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 31.8			
568	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 17.6			
569	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
570	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
571	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 30.6			
572	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 30.0			
573	106	46	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 32.8			
574	106		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 35.0			
575	106	46	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 34.6			
576	107		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
577	107	47	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 15.8			
578	107	47	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 23.6			
579	107		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
580	107		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
581	107		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 19.0			
582	107		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 15.6			
583	107		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 14.6			
584	107	47	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 6.8			復元 15.3
585	107		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 28.0			
586	107	47	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 28.0			
587	107	47	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 25.0			
588	107		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
589	107		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
590	107	47	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 28.0			
591	107	47	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	16.0			
592	107	48	弥生土器	把手付甕	中央南	K	大溝	1	復元 20.0			
593	108	48	弥生土器	無頸甕	中央南	K	大溝	1	復元 24.0			
594	108	48	弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
595	108		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
596	108		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	復元 19.6			
597	108		弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	復元 27.0			
598	108	48	弥生土器	無頸甕	中央南	K	大溝	1				
599	108		弥生土器	把手付鉢	中央南	K	大溝	1				
600	108	48	弥生土器	把手付鉢	中央南	K	大溝	1	復元 28.0			
601	108		弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1			復元 12.6	
602	108		弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	復元 18.0			
603	108		弥生土器	脚柱部	中央南	K	大溝	1				
604	108		弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	復元 29.0			
605	108	48	弥生土器	高杯	中央南	K	大溝	1	復元 25.6			
606	108	48	弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1				13.2
607	108		弥生土器	把手付鉢	中央南	K	大溝	1			復元 9.0	
608	108		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	K	大溝	1	復元 15.8			
609	108		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
610	108		弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1	復元 12.0			
611	108		弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	1				8.1



土器一覧表 (10)

遺物番号	群別番号	区画番号	種別	器形	大区劃り	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体部最大径 (cm)
612	108		弥生土器	真蛸壺形土器	中央南	K	大溝	1	径元 6.4			
613	108		弥生土器	真蛸壺形土器	中央南	K	大溝	1	径元 13.0			
614	108		弥生土器	腹部	中央南	K	大溝	1			径元 14.0	
615	108	48	弥生土器	腹部	中央南	K	大溝	1				8.8
616	108		弥生土器	真蛸壺形土器	中央南	K	大溝	1				6.8
617	108	49	弥生土器	真蛸壺形土器	中央南	K	大溝	1			径元 6.6	
618	108	48	弥生土器	台形土器	中央南	K	大溝	1				
619	108	49	弥生土器	腹部	中央南	K	大溝	1				
620	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 22.0			
621	109	49	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 30.0			
622	109	49	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 20.8			
623	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 19.7			
624	109	49	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 30.0			
625	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 18.9			
626	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 29.6			
627	109	49	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 18.2			
628	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 31.0			
629	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 18.3			
630	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 32.0			
631	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.8			
632	109	49	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 33.4			
633	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.9			
634	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 34.0			
635	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 18.1			
636	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 34.0			
637	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.2			
638	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 34.8			
639	109	49	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.6			
640	109		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 34.0			
641	110	50	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 25.2			径元 30.7
642	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 23.8			
643	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 25.0			
644	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 25.8			
645	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.5			
646	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 26.0			
647	110	50	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.4			
648	110	50	弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1	径元 27.4			
649	110	50	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.6			
650	110	50	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 26.7			
651	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.2			
652	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 27.8			
653	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 16.8			
654	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 28.6			
655	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.2			
656	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.2			
657	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 28.4			
658	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 17.0			
659	110	50	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 27.2			
660	110		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 16.8			
661	111	50	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 32.0			径元 35.2
662	111	51	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 12.4			
663	111		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 14.8			
664	111		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 12.0			
665	111		弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1	径元 13.0			

土器一覽表 (11)

遺物番号	押出番号	図版番号	種別	器形	大区別	調査区	遺場名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体積最大径 (cm)
666	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 15.0			
667	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 12.8			
668	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 13.0			
669	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 15.8			
670	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 14.6			
671	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 15.0			
672	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1	復元 16.2			
673	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
674	111		弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	1				
675	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
676	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
677	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
678	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
679	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
680	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
681	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
682	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
683	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
684	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
685	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
686	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
687	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
688	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
689	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
690	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
691	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
692	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
693	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
694	111		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	1				
695	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 28.6			
696	112	52	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 27.6			
697	112	52	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	21.2			
698	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 24.0			
699	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 22.2			
700	112	52	弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	2	復元 35.0			
701	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 16.7			
702	112	52	弥生土器	鉢	中央南	K	大溝	2	復元 36.0			
703	112		弥生土器	脚部	中央南	K	大溝	2			13.6	
704	112	52	弥生土器	把手付鉢	中央南	K	大溝	2			7.8	
705	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2				
706	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2				
707	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2				
709	112	52	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 18.1			
710	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 21.0			
711	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 25.6			
712	112		弥生土器	真鍮管形土器	中央南	K	大溝	2				
713	112		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2				
714	112	52	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 17.6			復元 23.2
715	113	53	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 17.4			
716	113		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 28.0			
717	113		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 19.8			
718	113	53	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 13.8			
719	113	53	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 25.0			復元 27.1
720	113	53	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 16.0			

土器一覽表 (12)

遺物番号	押印番号	図版番号	種別	器形	大区劃り	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体積最大径 (cm)
721	113	53	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 34.8			
722	113	53	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 15.8			
723	113		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 36.0			
724	113		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2	復元 15.8			
725	113	53	弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2				
726	113		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2				
727	113		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2				
728	113		弥生土器	甕	中央南	K	大溝	2				
740	116		弥生土器	甕	中央南	O	大溝	1	復元 21.0			
741	116		弥生土器	甕	中央南	O	大溝	1	復元 27.4			
742	116		弥生土器	甕	中央南	O	大溝	1	復元 24.2			
743	116		弥生土器	甕	中央南	O	大溝	1	復元 25.4			
744	116		弥生土器	甕	中央南	O	大溝	1	復元 11.1			
745	116		弥生土器	甕	中央南	O	大溝	1	復元 26.6			
746	116		弥生土器	台付鉢	中央南	O	大溝	1			復元 13.8	
747	116		弥生土器	甕	中央南	O	大溝	1	復元 16.2			
748	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			復元 14.6	
749	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			復元 14.0	
750	116	51	弥生土器	甕蓋	中央南	O	大溝	1				
751	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			復元 4.2	
752	116	51	弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			復元 8.4	
753	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			復元 6.2	
754	116		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	O	大溝	1				
755	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			復元 6.8	
756	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			9.2	
757	116	51	弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			7.5	
758	116		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	O	大溝	1			6.1	
759	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			復元 7.0	
760	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			8.5	
761	116		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	O	大溝	1			復元 7.0	
762	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			10.2	
763	116		弥生土器	底部	中央南	O	大溝	1			復元 9.0	
765	118	51	弥生土器	甕	中央南	S	大溝	1	27.0			
766	118		弥生土器	甕	中央南	S	大溝	1	復元 13.4			
767	118		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	S	大溝	1			6.2	
768	120	54	弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 27.2	推定 56.4	復元 10.8	45.0
769	120		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 13.0			
770	120		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 19.0			
771	120		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 14.4			
772	120		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3				
773	120		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	19.2			
774	120		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 21.7			
775	120	54	弥生土器	蓋台	中央南	P	大溝	3	26.3			
776	120		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 27.8			
777	120	54	弥生土器	無頸甕	中央南	P	大溝	3			4.9	10.0
778	120		弥生土器	底部	中央南	P	大溝	3			6.7	
779	120	54	弥生土器	無頸甕	中央南	P	大溝	3	復元 20.9			
780	121	54	弥生土器	甕蓋	中央南	P	大溝	3	5.9			
781	121	54	弥生土器	甕蓋	中央南	P	大溝	3	復元 15.0	3.3		
782	121		弥生土器	甕蓋	中央南	P	大溝	3	復元 13.8	5.7		
783	121		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	21.6			
784	121		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 23.6			
785	121		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 17.6			
786	121		弥生土器	甕	中央南	P	大溝	3	復元 18.8			

土器一覽表 (13)

遺物番号	神洞番号	区画番号	種別	器形	大区劃り	舞臺区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	体容積大径 (cm)	
787	121	54	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	P	大溝	3	復元 13.0			復元 14.9	
788	121		弥生土器	飯柄壺	中央南	P	大溝	3	復元 6.9	9.7	復元 3.8	復元 8.4	
789	121	54	弥生土器	飯柄壺	中央南	P	大溝	3		4.8	9.3	6.6	
790	121	54	弥生土器	台形土器	中央南	P	大溝	3					
791	121	55	弥生土器	台付鉢	中央南	P	大溝	3		25.4	23.5	13.3	25.7
792	121	55	弥生土器	脚部	中央南	P	大溝	3				9.3	
793	121		弥生土器	脚部	中央南	P	大溝	3				復元 11.6	
794	121	55	弥生土器	把手付鉢	中央南	P	大溝	3				復元 8.4	
795	121		弥生土器	脚部	中央南	P	大溝	3					
796	121		弥生土器	脚部	中央南	P	大溝	3				11.4	
797	121	55	弥生土器	脚部	中央南	P	大溝	3				13.7	
798	121		弥生土器	台付鉢	中央南	P	大溝	3				復元 12.4	
799	121		弥生土器	高杯	中央南	P	大溝	3	復元 22.8				
800	121		弥生土器	高杯	中央南	P	大溝	3	復元 23.8				
801	122		弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3	復元 14.8			復元 17.5	
802	122	55	弥生土器	鉢	中央南	P	大溝	3	復元 38.0			復元 40.9	
803	122	55	弥生土器	鉢	中央南	P	大溝	3	復元 21.0			復元 26.0	
804	122	55	弥生土器	高杯	中央南	P	大溝	3	復元 28.0				
805	122		弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3	復元 30.0				
806	122		弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3	復元 23.0				
807	122		弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3	復元 29.0				
808	122		弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3	復元 25.0			復元 28.3	
809	122	56	弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3	復元 26.0				
810	122	55	弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3	復元 35.2				
811	122	56	弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3					
812	122		弥生土器	壺	中央南	P	大溝	3					
813	123		弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3	復元 15.8				
814	123	56	弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3	復元 20.6				
815	123	56	弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3	復元 17.8				
816	123		弥生土器	器台	中央南	N	大溝	3	復元 18.0				
817	123	56	弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3			6.2	19.6	
818	123		弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3	復元 8.8				
819	123		弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3	復元 10.0				
820	123		弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3					
821	123		弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3					
822	123		弥生土器	鉢	中央南	N	大溝	3					
823	123		弥生土器	鉢	中央南	N	大溝	3					
824	123	56	弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3		14.2			
825	123	56	弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3		23.0			
826	123		弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3	復元 21.4				
827	123		弥生土器	壺	中央南	N	大溝	3	復元 19.0				
828	123		弥生土器	無頭壺	中央南	N	大溝	3	復元 12.0			復元 30.4	
829	123		弥生土器	鉢	中央南	N	大溝	3					
830	123		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	N	大溝	3	復元 11.8				
831	123		弥生土器	鉢	中央南	N	大溝	3	復元 22.8				
832	123	56	弥生土器	蓋蓋	中央南	N	大溝	3					
833	123	57	土製品	有孔丹板	中央南	N	大溝	3					
834	123	57	土製品	有孔丹板	中央南	N	大溝	3					
835	124		弥生土器	脚部	中央南	N	大溝	3				復元 13.0	
836	124		弥生土器	脚部	中央南	N	大溝	3				復元 14.2	
837	124		弥生土器	脚部	中央南	N	大溝	3				復元 14.8	
838	124	57	弥生土器	器台	中央南	N	大溝	3				復元 16.0	
839	124	57	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	N	大溝	3	復元 12.0				
840	124	57	弥生土器	真鍮器形土器	中央南	N	大溝	3		11.8	24.1	復元 5.5	15.2

土器一覽表 (14)

遺物番号	押印番号	図版番号	種別	器形	大区別	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	片厚最大径 (cm)
841	124	57	弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	N	大溝	3			9.0	復元 12.6
842	124		弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	N	大溝	3			6.6	
843	124		弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	N	大溝	3			復元 6.0	
844	124		弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	N	大溝	3			6.3	復元 16.4
845	124	57	弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 14.2			
846	124		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 18.3			
847	124		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 16.4			
848	124		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	14.6			復元 18.7
849	124		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	28.0			
850	124	57	弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 15.6			復元 22.2
851	124		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 21.5			
852	124		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 25.8			
853	124		弥生土器	底部	中央南	N	大溝	3			8.6	
854	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 16.3			
855	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 14.0			
856	125	58	弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 15.0			
857	125	58	弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 12.9			
858	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 16.8			
859	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 27.2			
860	125	58	弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 16.8			復元 21.3
861	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 26.8			
862	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3	復元 28.0			
863	125		弥生土器	底部	中央南	N	大溝	3			9.8	
864	125		弥生土器	底部	中央南	N	大溝	3			11.0	
865	125		弥生土器	底部	中央南	N	大溝	3			8.8	
866	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3				
867	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3				
868	125		弥生土器	甕	中央南	N	大溝	3				
869	125		弥生土器	底部	中央南	N	大溝	3			9.0	
870	125	58	弥生土器	底部	中央南	N	大溝	3			復元 10.0	
871	125		弥生土器	底部	中央南	N	大溝	3			復元 8.2	
872	125		弥生土器	底部	中央南	N	大溝	3			復元 12.6	
927	133		弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 18.2			
928	133		弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 27.6			
929	133		弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 21.8			
930	133		弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 17.0			
931	133		弥生土器	無頸壺	中央南	T	大溝	4	復元 15.8			
932	133	58	弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 33.0			
933	133	58	弥生土器	高杯	中央南	T	大溝	4	復元 22.2			
934	133	58	弥生土器	高杯	中央南	T	大溝	4	復元 32.2			
935	133		弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 18.8			
936	133		弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 26.6			
937	133		弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 30.8			
938	133	59	弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 34.2			
939	133		弥生土器	甕	中央南	T	大溝	4	復元 36.4			
940	134	59	弥生土器	脚柱部	中央南	T	大溝	4				
941	134	59	弥生土器	脚部	中央南	T	大溝	4			復元 16.0	
942	134		弥生土器	脚柱部	中央南	T	大溝	4				
943	134		弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	T	大溝	4			4.5	
944	134		弥生土器	飯椀	中央南	T	大溝	4				
945	134	59	弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	T	大溝	4			5.7	
946	134		弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	T	大溝	4			4.9	
947	134	59	弥生土器	真鍮壺形土器	中央南	T	大溝	4			6.9	
948	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			5.9	

土器一覽表 (15)

遺物番号	押附番号	副属番号	種別	器形	大区群/小区	器区	通称名・层名	遺物番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	钵口径大径 (cm)
949	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 5.2	
950	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 9.0	
951	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 7.6	
952	134	59	弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 8.4	
953	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 9.2	
954	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 6.8	
955	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 7.9	
956	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 8.6	
957	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			10.7	
958	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			4.2	
959	134		弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			復元 10.0	
960	134	59	弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			11.8	
961	134	59	弥生土器	底部	中央南	T	大溝	4			7.7	
974	138	61	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
975	138	61	弥生土器	蓋	中央南	O	大溝	1				
976	138	61	弥生土器	蓋	中央南	P	大溝	3				
977	138	61	弥生土器	脚部	中央南	P	大溝	3				
978	143		弥生土器	蓋	南	Y	方形周溝蓋	1		20.6	復元 27.2	
979	143	62	弥生土器	把手付蓋	南	Y	方形周溝蓋	1		17.0	34.7	7.3 26.3
980	143	62	弥生土器	蓋	南	Y	方形周溝蓋	1	復元 24.2		31.1	7.8 26.3
981	144	62	弥生土器	台付水差し形土器	南	X	方形周溝蓋	2		10.6	31.0	10.5 19.5
982	144	62	弥生土器	把手付蓋	南	X	方形周溝蓋	2		15.4	30.5	6.3 22.7
983	144		弥生土器	蓋	南	X	方形周溝蓋	2		10.0		
984	145	63	弥生土器	蓋	中央北	F	混入段	割削側溝	復元 27.2	幅定 15.2	56.9	8.0 34.0
985	145		弥生土器	蓋	北	C	混入段	3層				
986	145	63	弥生土器	蓋	中央北	F	混入段	3層				22.0
987	145	63	弥生土器	真鍮蓋形土器	中央北	E	混入段	3層	復元 14.0	23.4	6.2 16.0	
988	145	63	弥生土器	脚部	中央北	E	混入段	2層			12.8	
989	145		弥生土器	脚部	中央北	E	混入段	割削側溝			復元 13.2	
990	146	63	弥生土器	蓋	中央北	G	土坑	R20008		7.6	35.0	復元 7.2 復元 22.7
991	146	64	弥生土器	蓋	中央北	G	土坑	R20008				復元 5.0 復元 19.6
992	146	64	弥生土器	蓋	中央北	E	土坑	250048	復元 23.8			
993	146		弥生土器	蓋	中央北	E	土坑	250017	復元 27.4			
994	146		弥生土器	真鍮蓋形土器	中央北	E	土坑	250017				
995	146		弥生土器	底部	中央北	E	土坑	250017				5.6
996	147		弥生土器	蓋	中央北	E	包含層	3層	復元 21.8			26.0
997	147	65	弥生土器	蓋	中央北	G	包含層	2層		16.0	29.5	6.8 20.7
998	147	64	弥生土器	蓋	中央北	G	包含層	2層		15.8	37.2	5.3 22.7
999	147	65	弥生土器	罐頭蓋	中央北	E	混入段			6.6	29.9	5.7 20.8
1000	147	65	弥生土器	水差し形土器	中央北	G	包含層	2層	推定 8.3		23.6	5.3 19.6
1001	147		弥生土器	龍頭蓋	中央北	E	包含層	2層	復元 6.7			16.6
1002	148		弥生土器	蓋	中央北	G	包含層	2層	復元 28.0			
1003	148	66	弥生土器	蓋	中央北	G	混入段	1層				5.2 復元 19.2
1004	148	66	弥生土器	蓋	中央北	G	包含層	2層	復元 14.0	復元 7.4	復元 4.8	復元 14.7
1005	148	66	弥生土器	真鍮蓋形土器	中央北	G	混入段		復元 13.8		22.6	復元 5.3 復元 16.6
1006	148		弥生土器	蓋	中央北	G	包含層	2層	復元 18.6			
1007	148		弥生土器	蓋	中央北	G	混入段	1層	復元 17.2			
1008	148	65	弥生土器	蓋	中央北	G	包含層	2層		8.0	復元 22.3	4.4 復元 18.4
1009	148	66	弥生土器	高杯	中央北	G	包含層	2層		22.5	22.4	12.2 23.8
1010	148	66	弥生土器	高杯	中央北	G	混入段	1層		23.2	復元 22.0	16.7
1011	148		弥生土器	脚部	中央北	G	包含層	2層			復元 13.1	
1012	149	66	弥生土器	複合鉢	中央南	K	包含層	2層		16.8		復元 19.3
1013	149		弥生土器	台形土器	中央南	K	混入段	1層	復元 17.6			
1014	149		弥生土器	脚部	中央南	K	混入段				復元 14.0	

土器一覧表 (16)

遺物番号	洋器番号	図版番号	種別	器形	大穴割り	隣近区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体容量大径 (cm)	
1015	149		弥生土器	鉢	中央南	K	混入扱	1層					
1016	149		弥生土器	鉢	中央南	K	混入扱		径元 35.2				
1017	149		弥生土器	鉢	中央南	K	包含層	精査時	径元 16.0				
1018	149	67	弥生土器	鉢	中央南	K	包含層		17.0	13.9	7.4		
1019	149		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	K	包含層	2層	径元 12.6	径定 23.3	径元 7.4	径元 13.4	
1020	150		弥生土器	蓋	中央南	J	包含層	2・3層	径元 28.0				
1021	150	67	弥生土器	蓋	中央南	J	包含層	2・3層	径元 28.0				
1022	150	67	弥生土器	蓋	中央南	J	包含層	西側倒溝	径元 16.0				
1023	150	67	弥生土器	蓋	中央南	I	混入扱						
1024	150		弥生土器	脚部	中央南	J	包含層	2・3層			径元 13.8		
1025	150		弥生土器	脚部	中央南	J	包含層	2・3層				8.2	
1026	150		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	J	包含層	2・3層	径元 10.2	径定 20.4	径元 6.6	径元 13.3	
1027	150	67	弥生土器	蓋	中央南	I	混入扱		径元 38.8			40.6	
1028	150	67	弥生土器	脚部	中央南	I	混入扱				径元 11.0		
1029	151	67	弥生土器	蓋	中央南	P	包含層	2層		20.4			
1030	151		弥生土器	蓋	中央南	O	包含層	2層	径元 16.9				
1031	151		弥生土器	高杯	中央南	P	包含層	2層	径元 22.7				
1032	151	68	弥生土器	蓋	中央南	P	包含層	2層	径元 30.8				
1033	151		弥生土器	複合鉢	中央南	O	包含層	2層					
1034	151	68	弥生土器	脚部	中央南	P	包含層	2層			5.0		
1035	151	68	弥生土器	脚部	中央南	P	包含層	2層			7.2		
1036	151	68	弥生土器	蓋	中央南	O	包含層	2層		2.2	6.3	1.6	3.9
1037	151	68	弥生土器	脚部	中央南	O	包含層	2層			7.1		
1038	151		弥生土器	蓋	中央南	P	包含層	2層			径元 8.0		
1039	151		弥生土器	鉢	中央南	O	包含層	2層	径元 13.9				
1040	151	68	弥生土器	蓋	中央南	P	包含層	2層	径元 28.5				
1041	151		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	O	包含層	2層				6.8	
1042	151	68	弥生土器	短頸蓋	中央南	O	包含層	南側倒溝	径元 5.5	10.1			
1043	151		弥生土器	蓋	中央南	L	包含層	3層	径元 25.5				
1044	152		弥生土器	蓋	中央南	T	混入扱		径元 18.6			径元 20.8	
1045	152	68	弥生土器	短頸蓋	中央南	T	混入扱		径元 5.2	10.0		6.4	
1046	152		弥生土器	真鍮器形土器	中央南	T	混入扱		径元 13.0				
1047	152		弥生土器	底部	中央南	T	混入扱				径元 6.6		
1048	152		弥生土器	底部	中央南	T	混入扱				径元 5.0		
1074	159	78	製塩土器	製塩土器	南	X	土坑	650032	12.1	26.1		5.5	
1075	174	78	須恵器	杯	中央北	E	溝	240278	径元 9.6	2.9	径元 7.0		
1076	174		須恵器	杯	中央北	E	溝	240278	径元 11.8	4.1			
1077	174		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	溝	240278	径元 15.0	4.3	径元 10.0		
1078	174	78	須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	溝	240278	径元 15.2	4.4	径元 9.0		
1079	174		須恵器	杯蓋	中央北	E	溝	240278	15.8	3.4			
1080	174		須恵器	杯蓋	中央北	E	溝	240278	径元 15.0				
1081	174		須恵器	杯蓋	中央北	E	溝	240278	径元 15.2				
1082	174		須恵器	杯蓋	中央北	E	溝	240278	径元 14.8				
1083	174	78	土製品	土埴	中央北	E	溝	240278					
1084	174		須恵器	短頸蓋	中央北	E	溝	240278	径元 12.0				
1085	174		須恵器	短頸蓋	中央北	E	溝	240278	径元 19.0				
1086	174		須恵器	杯蓋	北	C	溝	230691		2.8			
1087	174		土師器	鍋	北	C	溝	230692	径元 30.2				
1088	174		須恵器	杯	中央北	E	土坑	240529	径元 12.9	2.4			
1089	174	78	須恵器	短頸蓋	中央北	E	ピット	240458	径元 9.0				
1090	174		土師器	高台	北	C	土坑	230001			径元 7.8		
1091	174		土師器	高杯	中央北	E	土坑	240468				8.9	
1092	174	78	土師器	鉢	中央北	E	土坑	240001	径元 25.2				
1093	174	78	土師器	鉢	中央北	E	土坑	240001	径元 25.2				

土器一覽表 (17)

器物番号	押出番号	図版番号	種別	器形	大区劃り	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体厚最大径 (cm)
1094	175	79	須恵器	杯	中央北	E	溝	240467	径元 10.0	3.1		
1095	175		須恵器	杯	中央北	E	溝	240467	径元 10.8	3.2	径元 6.8	
1096	175		須恵器	杯	中央北	E	溝	240467	径元 10.4	3.7		
1097	175		須恵器	杯	中央北	E	溝	240467	径元 10.8	4.0		
1098	175	79	須恵器	杯蓋	中央北	E	溝	240467	17.6	2.7		
1099	175		須恵器	杯蓋	中央北	E	溝	240467	15.8			
1100	175		須恵器	杯蓋	中央北	E	溝	240467	径元 17.6			
1101	175		須恵器	杯蓋	中央北	E	溝	240467	21.0			
1102	175	79	須恵器	蓋	中央北	E	溝	240467	径元 16.8			
1103	175	79	須恵器	短頸甕	中央北	E	溝	240467	径元 18.6			
1104	175		須恵器	杯	中央北	E	溝	240467	径元 11.8	3.5		
1105	175		須恵器	杯	中央北	E	溝	240467	12.7	4.0	8.0	
1106	175		須恵器	杯	中央北	E	溝	240467	径元 11.6	3.7	径元 7.6	
1107	175		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	溝	240467	14.0	4.0	8.8	
1108	175		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	溝	240467			10.0	
1109	175	79	土師器	杯	中央北	E	溝	240467	径元 14.8			
1110	175		土師器	脚部	中央北	E	溝	240467				
1111	175		土師器	皿	中央北	E	溝	240467	径元 18.2			
1112	175		須恵器	鉢	中央北	E	溝	240467	径元 20.8			
1113	175	79	土師器	甕	中央北	E	溝	240467	径元 26.0			
1114	175		土師器	甕	中央北	E	溝	240467	径元 23.2			
1115	175		土師器	高杯	中央北	E	溝	240467	径元 22.0			
1116	175	79	土師器	甕	中央北	E	溝	240467				
1117	175	79	土師器	甕	中央北	E	溝	240467	径元 17.9	16.6		
1118	176	80	須恵器	甕	中央北	F	土坑	910151	14.8	2.9		
1119	176	80	須恵器	杯 (高台付)	中央北	F	土坑	910151	径元 17.0	4.2	11.9	
1120	176	80	須恵器	杯 (高台付)	中央北	F	土坑	910151	径元 15.8	4.4	10.7	
1121	176	80	須恵器	蓋 (高台付)	中央北	F	土坑	910151			8.9	
1122	176	80	須恵器	鉢	中央北	F	土坑	910151	径元 20.7	9.1		
1123	176	80	須恵器	甕	中央北	F	土坑	910151	径元 37.5			
1124	176	80	土師器	罎	中央北	F	土坑	910151	径元 38.0			
1125	176	80	土師器	甕	中央北	F	土坑	910151	径元 29.8			
1126	178	81	須恵器	杯	中央北	F	土坑	910001	9.9	2.8	6.2	
1127	178	81	須恵器	杯	中央北	F	土坑	910001	11.1	3.4	7.6	
1128	178	81	須恵器	杯	中央北	F	土坑	910001	11.0	4.0	5.8	
1129	178		須恵器	杯 (高台付)	中央北	F	土坑	910001	径元 12.6	5.1	径元 4.4	
1130	178		須恵器	杯	中央北	F	土坑	910001	径元 10.6	2.9	径元 7.2	
1131	178	81	須恵器	杯	中央北	F	土坑	910001	径元 9.8	4.3		
1132	178	81	須恵器	杯	中央北	F	土坑	910001	11.0	4.4	6.6	
1133	178		須恵器	高杯	中央北	F	土坑	910001			径元 5.9	
1134	178	81	須恵器	甕	中央北	F	土坑	910001	14.5	3.9		
1135	178	81	須恵器	高杯	中央北	F	土坑	910001	12.6			
1136	178		須恵器	高杯	中央北	F	土坑	910001	径元 9.8			
1137	178	81	須恵器	高杯	中央北	F	土坑	910001			8.9	
1138	178	81	須恵器	横瓶	中央北	F	土坑	910001	径元 10.8			20.2
1139	178	81	須恵器	平瓶	中央北	F	土坑	910001	径元 12.9			20.1
1140	178	81	須恵器	平瓶	中央北	F	土坑	910001	径元 7.6			16.5
1141	178	81	須恵器	平瓶	中央北	F	土坑	910001			6.4	16.0
1142	178	81	須恵器	平瓶	中央北	F	土坑	910001			12.2	19.6
1143	178	81	須恵器	平瓶	中央北	F	土坑	910001			7.3	14.9
1144	178		須恵器	壺	中央北	F	土坑	910001	径元 26.9			径元 51.8
1145	179	81	土師器	甕	中央北	F	土坑	910001	径元 18.0			
1146	179		土師器	甕	中央北	F	土坑	910001	径元 19.2			
1147	179	81	土師器	把手付甕	中央北	F	土坑	910001	径元 25.6			径元 28.9



土器一覽表 (18)

遺物番号	納品番号	図版番号	種別	形状	大区割り	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体明径大径 (cm)
1148	179	81	土師器	把手付甕	中央北	F	土坑	910001	復元 26.2			復元 29.2
1149	179	81	土師器	杯	中央北	F	土坑	910001	復元 11.0	3.1		
1150	179	81	土師器	杯	中央北	F	土坑	910001	復元 15.8	3.8		
1151	179	81	土師器	杯	中央北	F	土坑	910001	復元 15.4	4.9		
1152	179	81	土師器	鉢	中央北	F	土坑	910001	復元 20.8	8.4		
1153	180	82	須恵器	甕	中央北	F	土坑	910002	復元 15.6			
1154	180	82	須恵器	杯 (高台付)	中央北	F	土坑	910002	復元 11.1	4.1	7.7	
1155	180	82	須恵器	杯 (高台付)	中央北	F	土坑	910002	復元 15.5	5.1	11.0	
1156	180	82	土師器	甕	中央北	F	土坑	910002	復元 17.8			
1157	180	82	土師器	甕	中央北	F	土坑	910002	復元 23.0			
1158	180	82	土師器	甕	中央北	F	土坑	910002	復元 21.0			
1159	180	82	須恵器	蓋	中央北	F	土坑	910059	復元 13.8	3.1		
1160	180		須恵器	杯	中央北	F	土坑	910059	復元 11.0	3.4		7.2
1161	180	82	土師器	皿	中央北	F	土坑	910068	復元 22.8	3.3		
1162	180		須恵器	蓋	中央北	E	ピット	250323	復元 36.0			
1163	180		須恵器	蓋	中央南	O	土坑	310001	復元 22.2			
1164	180		土師器	甕	中央北	E	土坑	250339	復元 27.0			
1165	180	82	須恵器	杯 (高台付)	中央南	O	土坑	310062	復元 14.6	4.4	復元 10.2	
1166	180		須恵器	杯 (高台付)	中央南	O	土坑	310058	復元 16.9	3.7	復元 10.9	
1167	184		須恵器	杯	南	X	大溝	5	復元 12.6	3.7		
1168	184	83	須恵器	杯 (高台付)	南	X	大溝	5			10.8	
1169	184	83	土師器	杯	南	X	大溝	5		10.7	3.1	
1170	184	83	黒色土器	椀	南	X	大溝	5		14.6	5.2	8.2
1171	184	83	黒色土器	椀	南	X	大溝	5	復元 13.6	4.4	復元 7.4	
1172	184		黒色土器	椀	南	X	大溝	5	復元 12.8			
1173	184	83	土師器	高杯	南	X	大溝	5				
1174	184		土師器	甕	南	X	大溝	5	復元 14.0			
1175	184		土師器	甕	南	X	大溝	5	復元 21.6			
1176	184	83	土師器	甕	南	X	大溝	5	復元 28.0			
1177	184	83	土師器	甕	南	X	大溝	5	復元 28.9			
1178	185	84	須恵器	杯	中央北	F	包舎層	1層	復元 10.1	3.0	7.2	
1179	185	84	須恵器	杯	中央北	F	包舎層	2層	復元 12.9	3.4	8.9	
1180	185	84	須恵器	杯	中央北	F	包舎層	2層	復元 12.1	3.5	8.6	
1181	185	84	緑釉陶器	杯	中央北	F	包舎層	2層	復元 9.8	3.3	復元 5.0	
1182	185	84	土師器	台付皿	中央北	F	包舎層	2層	復元 16.6	3.4	復元 12.0	
1183	185	84	須恵器	平瓶	中央北	F	包舎層	2層	復元 5.5	7.2	6.3	10.3
1184	185	84	須恵器	こね鉢	中央北	F	包舎層	西側倒溝			9.3	
1185	185	84	須恵器	鉢	中央北	F	包舎層	2層	復元 23.7			
1186	185	85	須恵器	鉢	中央北	F	包舎層	2層	復元 22.8			復元 37.3
1187	185	85	土師器	甕	中央北	F	包舎層	2層				
1188	185	85	土師器	甕	中央北	F	包舎層	2層				
1189	186		須恵器	杯	中央北	E	包舎層	3層	復元 9.8	3.2	7.3	
1190	186	85	須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包舎層	3層	復元 13.0	4.3	9.0	
1191	186		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包舎層	3層	復元 15.5	4.8	復元 10.5	
1192	186	85	須恵器	杯	中央南	L	包舎層	3層	復元 10.0	3.5	復元 8.1	
1193	186		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包舎層	3層	復元 14.2	3.6	復元 9.6	
1194	186		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包舎層	3層	復元 13.6	4.8	復元 8.8	
1195	186	85	須恵器	杯蓋	中央北	E	包舎層	3層	復元 10.7	2.3		
1196	186		須恵器	杯蓋	中央北	E	包舎層	3層	復元 11.0			
1197	186		須恵器	杯蓋	中央南	L	包舎層	3層	復元 11.9	2.7		
1198	186		須恵器	杯蓋	中央北	E	包舎層	3層	復元 14.4	2.3		
1199	185		須恵器	鉢	中央北	E	包舎層	3層	復元 20.4	10.4		復元 11.4
1200	186		須恵器	鉢	中央北	E	包舎層	3層				復元 12.4
1201	186		須恵器	蓋	中央北	E	包舎層	3層				復元 8.0

土器一覽表 (19)

遺物番号	伴器番号	図録番号	種別	器形	大区別	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口径大径 (cm)
1202	186	85	須恵器	高杯	中央北	E	包含層	3層				
1203	186	86	須恵器	平瓶	中央北	E	包含層	3層			15.0	22.4
1204	186		須恵器	壺	中央北	E	包含層	3層	径元 24.0			
1205	186		須恵器	壺	中央北	E	包含層	3層	径元 22.0			
1206	186		須恵器	壺	中央北	E	包含層	3層	径元 33.4			
1207	187	86	土師器	杯	中央北	E	包含層	3層	径元 16.0	5.6		
1208	187		土師器	杯	中央北	E	包含層	3層	径元 17.0	5.0		
1209	187		土師器	高杯	中央北	E	包含層	3層	径元 27.6			
1210	187		土師器	壺	中央北	E	包含層	3層	径元 20.0			
1211	187		土師器	壺	中央北	E	包含層	3層	径元 25.0			
1212	187		土師器	真蛸壺	中央北	F	包含層	3層	径元 11.8	9.0		
1213	187		土師器	皿	北	C	包含層	3層	径元 12.0			
1214	187	86	土師器	皿	中央北	E	包含層	3層		15.2	2.5	
1215	187	86	土師器	杯	中央北	E	包含層	3層		13.7	3.7	
1216	187		土師器	壺	中央北	E	包含層	3層	径元 16.9			径元 16.4
1217	187	86	土師器	壺	中央北	E	包含層	3層	径元 20.0			径元 20.0
1218	187	86	土師器	壺	北	C	包含層	3層	径元 19.0			径元 31.2
1219	188		須恵器	杯	中央北	E	包含層	2層	径元 9.0	3.7		
1220	188		須恵器	杯	中央北	E	包含層	2層	径元 12.2	3.1	径元 6.8	
1221	188		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包含層	2層	径元 12.0	4.0	径元 8.6	
1222	188		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包含層	西側倒溝	13.4	4.3	9.6	
1223	188		須恵器	壺	中央北	E	包含層	北側倒溝	15.0	2.7		
1224	188	86	須恵器	杯蓋	中央北	E	包含層	2層	径元 13.8	2.4		
1225	188		須恵器	壺	中央北	E	包含層	北側倒溝	径元 20.0			
1226	188	86	須恵器	壺	中央北	E	包含層	2層			3.5	8.2
1227	188		須恵器	杯	中央北	E	包含層	2層	径元 17.8	3.3		
1228	188		土師器	皿	中央北	E	包含層	2層	径元 19.4	2.5		
1229	188		土師器	鉢	中央北	E	包含層	2層	径元 20.0			
1230	188	87	土師器	高杯	中央北	E	包含層	2層	径元 17.4			
1231	188		黒色土器	碗	中央北	E	包含層	2層			径元 8.6	
1232	188	87	須恵器	飯蛸壺	北	B	包含層					
1233	188	87	須恵器	飯蛸壺	中央北	E	包含層	2層	4.2	3.4		
1234	188	87	土師器	飯蛸壺	中央北	E	包含層	2層				
1235	188		土師器	壺	中央北	E	包含層	2層	径元 17.0			
1236	188		土師器	壺	中央北	E	包含層	2層	径元 23.0			
1237	188		土師器	壺	中央北	E	包含層	2層	径元 34.0			
1238	188		土師器	壺	中央北	E	包含層	2層	径元 20.8			径元 19.8
1239	188	87	土製品	土鉢	中央北	E	包含層	2層				
1240	188	87	土製品	土鉢	中央北	E	包含層	2層				
1241	189		須恵器	杯	中央北	E	包含層	3層	径元 9.9	2.9	径元 7.0	
1242	189		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包含層	3層	径元 12.7	4.3	径元 8.2	
1243	189		須恵器	杯蓋	中央北	E	包含層	3層				
1244	189		土師器	杯	中央北	E	包含層	3層	径元 13.2	3.1		
1245	189		須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包含層	3層	径元 16.2	5.0	径元 11.5	
1246	189	87	須恵器	杯 (高台付)	中央北	E	包含層	3層	径元 16.8	5.6	径元 12.0	
1247	189		土師器	皿	中央北	E	包含層	2層	径元 16.0	2.5		
1248	189		土師器	皿	中央北	E	包含層	2層	径元 18.4	2.8		
1249	189		須恵器	壺	中央北	E	包含層	2層	径元 9.0			
1250	189	87	須恵器	壺	中央北	E	包含層段		径元 6.3	11.5	7.9	10.8
1251	189	87	須恵器	飯蛸壺	中央北	E	包含層	3層	径元 4.4	9.1		5.5
1252	189		土師器	鉢	中央北	E	包含層	3層	径元 20.0			径元 21.0
1253	189	88	黒色土器	碗	中央北	E	包含層	3層	径元 9.8	3.4	径元 5.6	
1254	189		土師器	鉢 (高台付)	中央北	E	包含層	2層	径元 24.0			
1255	189	88	灰胎陶器	鉢 (鉄鉢形)	中央北	E	包含層	2層	径元 20.8			径元 22.6

土器一覽表 (20)

遺物番号	坪田番号	区画番号	種別	器形	大区別	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	秤付最大径 (cm)
1256	189	88	土師器	底部 (高台付)	中央北	E	包含層	3層			径元 12.6	
1257	189	88	土師器	鉢	中央北	E	包含層	3層	径元 16.0			径元 18.4
1258	189	88	土師器	鉢	中央北	G	包含層	1層	径元 24.5	22.1		17.9
1259	189	88	土師器	鉢	中央北	G	包含層	1層	径元 14.4	18.6		15.4
1260	190		須恵器	杯	中央南	P	包含層	2層	径元 13.8	3.2		
1261	190		須恵器	杯 (高台付)	中央南	N	包含層		径元 14.6	4.2	径元 10.8	
1262	190		須恵器	杯 (高台付)	中央南	O	包含層	2層	径元 12.6	4.0	径元 8.8	
1263	190		須恵器	杯 (高台付)	中央南	P	包含層	2層	径元 16.9	4.3	径元 12.4	
1264	190		須恵器	寸り鉢	中央南	J	包含層		径元		径元 8.6	
1265	190	88	須恵器	底部	中央南	P	包含層	2層			径元 10.0	
1266	190		須恵器	蓋	中央南	O	包含層	2層	径元 40.2			
1267	190		土師器	碗	中央南	P	包含層	2層	径元 10.8	3.4		
1268	190		土師器	杯	中央南	L	包含層	3層	径元 15.5	3.5		
1269	190		黒色土師	碗	南	V	包含層	2層	径元 16.0			
1270	190	88	黒色土師	碗	南	Z	包含層				径元 6.6	
1271	190		土師器	鉢	中央南	O	包含層	2層	径元 16.0			
1272	190		土師器	鉢	中央南	J	包含層		径元 26.0			
1273	190		土師器	鉢	中央南	L	包含層	3層	径元 21.0			
1274	190		須恵器	底部	中央南	H	土坑	530015			径元 14.7	
1275	193		土師器	皿	北	B			径元 9.8	2.1		
1276	193		白磁	碗	北	B	包含層	2層				
1277	193	89	白磁	碗	北	C	包含層	2層				
1278	193	89	土師器	皿	北	C	包含層	2層	径元 11.0	1.9		
1279	193		青磁	碗	中央北	E	包含層	2層	径元 14.8			
1280	193	89	瓦器	瓦蓋	北	C	包含層	2層	径元 9.0	1.3		
1281	193		土製品	土師	北	B	混入段					
1282	193	89	土製品	土師	北	C	包含層					
1283	193	89	土製品	土師	北	C	包含層	2層				
1284	197	89	土師器	皿	中央北	E	包含層	3層		9.6	1.3	
1285	197	89	土師器	皿	中央北	E	包含層	3層	径元 11.8	2.1		
1286	197		瓦器	碗	中央北	E	包含層	2層	径元 12.9	3.2	径元 3.4	
1287	197	89	瓦質土器	指鉢	中央北	E	溝	250001	径元 26.0			
1288	197		瓦質土器	指鉢	中央北	E	土坑	250045	径元 31.6			
1289	197	89	瓦質土器	鉢	中央北	E	溝	250001	径元 31.8			
1298	200		土師器	皿	中央南	H	土坑	530015	径元 9.6	2.7		
1299	200		土師器	皿	中央南	H	土坑	530015		11.9	3.5	
1300	200		土師器	真鍮壺	中央南	H	土坑	530015				
1303	200		須恵器	乙ね鉢	中央南	H	土坑	530016	径元 28.6			
1304	200		瓦質土器	碗	中央南	H	包含層	1層	径元 29.8			
1305	200		瓦器	碗	中央北	E	包含層	3層	径元 14.7	4.2	径元 4.4	
1306	200	91	土師器	鍋?	中央北	G	混入段		径元 39.2			
1312	201	91	瓦質土器	壺	中央南	I	溝	540003	径元 18.0			
1313	201	91	土師器	羽釜	中央南	I	溝	540003	径元 22.0			
1314	201		土師器	壺	中央南	I	溝	540003	径元 20.4			
1315	201		土師器	羽釜	中央南	I	溝	540003	径元 26.0			
1316	201		瓦質土器	壺	中央南	I	溝	540003	径元 27.6			
1317	201	91	石製品	石鏡	中央南	I	溝	540003	径元 28.6			
1318	201		瓦質土器	壺	中央南	I	溝	540003	径元 30.6			
1319	201	91	須恵器	乙ね鉢	中央南	I	溝	540003	径元 34.4			
1320	201		土師器	真鍮壺	中央南	I	溝	540003				
1321	201	91	唐津	碗	中央南	I	溝	540003			径元 3.8	
1322	201		須恵器	乙ね鉢	中央南	I	包含層	1 窪積遺跡			径元 13.6	
1323	201	91	瓦質土器	鉢	中央南	I	包含層	3層	径元 16.8			
1324	201	91	青磁	碗	中央南	I	包含層	3層			径元 5.4	

土器一覧表 (21)

遺物番号	発掘層号	初出層号	種別	器形	大区劃り	調査区	遺構名・層名	遺構層号	口徑 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体容積大値 (cm)
1325	201	91	唐津	碗	中央南	I	包含層	3層			復元 3.6	
1326	201	91	青磁	碗	中央南	I	包含層	3層			復元 5.4	
1327	201		土師器	羽釜	中央南	O	包含層	2層	復元 32.8			
1341	204	93	瓦器	椀	中央南	L	ビット	260902	復元 14.0	5.0	復元 4.6	
1342	204		須恵器	杯	中央南	I	包含層	4層			復元 8.0	
1343	204		須恵器	壺	中央南	I	包含層	1層			復元 10.0	
1344	204	93	瓦質土器	壺	中央南	I	包含層	1層	復元 23.0			
1345	204	93	瓦質土器	羽釜	中央南	I	包含層	2層	復元 28.0			
1348	204	93	土製品	土罐	中央南	N	包含層	南側倒溝				
1349	204	93	土製品	土罐	中央南	L	包含層	西側倒溝				
1350	209		土師器	小皿	南	Z	包含層	西側倒溝	7.8	1.2		
1351	209	94	土師器	小皿	南	V	土坑	270006	8.0	1.6		
1352	209		土師器	小皿	南	Z	土坑	550024	復元 7.4	1.3		
1353	209		土師器	小皿	南	V	溝	270005	復元 8.4	1.6		
1354	209		土師器	小皿	南	V	溝	270003	7.9	1.4		
1355	209	94	土師器	小皿	南	Z	溝	550010	7.2	1.6		
1356	209		瓦器	椀	南	V	包含層	2層	復元 11.6	2.5		
1357	209	94	土師器	皿	南	Z	包含層	2層	10.3	2.7		
1358	209	94	土師器	皿	南	Z	土坑	550031	7.9	1.7		
1359	209	94	土師器	皿	南	V	溝	270005	12.3	3.2		
1360	209	94	土師器	皿	南	Z	土坑	550025	11.1	2.9		
1361	209	94	土師器	小皿	南	Z	包含層	2層	8.5	1.8		
1362	209		瓦器	椀	南	V	土坑	270006	12.4	3.1		
1363	209	94	青磁	碗	南	Z	ビット	550012			復元 5.2	
1364	209		瓦質土器	鐵鉢	南	V	井戸	270004	復元 34.0			
1365	209	94	土製品	土罐	南	V	包含層	2層				
1366	209	94	土師器	真鍮壺	南	V	包含層		14.0	30.9		16.2
1367	209	95	陶器	壺	南	V	土坑	270070	復元 40.0			
1368	209	95	陶器	壺	南	V	土坑	270070	復元 21.4			
1369	209		陶器	壺	南	V	溝	270005			復元 13.6	
1370	212	95	瓦器	碗	南	Y	土坑	610006	15.1	5.0	4.8	
1371	212	95	瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	15.1	5.1	4.7	
1372	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	復元 15.8	4.7	4.4	
1373	212	95	瓦器	碗	南	Y	土坑	610006	復元 15.2	5.5	4.8	
1374	212	95	瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	15.3	5.0	5.2	
1375	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	復元 15.7	5.9	復元 5.2	
1376	212	95	瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	15.4	5.2	5.9	
1377	212	95	瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	15.5	5.2	4.8	
1378	212	95	瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	15.8	5.4	5.2	
1379	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	復元 15.9	5.0	5.4	
1380	212	95	瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	15.8	5.5	4.9	
1381	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	復元 15.4	5.4	復元 6.0	
1382	212	95	瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	復元 15.4	5.1	5.6	
1383	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	復元 15.7	5.7	5.4	
1384	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	復元 15.4	5.2	6.0	
1385	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	復元 16.0			
1386	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006	15.2	4.2		
1387	212		瓦器	椀	南	Y	土坑	610006			復元 5.1	
1388	212	95	瓦器	鉢	南	Y	土坑	610006	復元 26.0			
1389	212	95	瓦器	小皿	南	Y	土坑	610006	9.2	2.2		
1390	212	95	瓦器	小皿	南	Y	土坑	610006	復元 9.0	1.9		
1391	212		瓦器	小皿	南	Y	土坑	610006	復元 9.6	1.9		
1392	213	95	白磁	碗	南	Y	土坑	610006	復元 16.6	7.1	6.4	
1393	213	95	白磁	碗	南	Y	土坑	610006	復元 16.4	6.9	復元 5.4	

土器一覧表 (22)

遺物番号	押印番号	図版番号	種別	器形	大区新り	調査区	遺構名・層名	遺構番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	体部最大径 (cm)
1394	213	96	白磁	香合・蓋	南	Y	土坑	610006		6.9	1.7	
1395	213	96	土師器	罎	南	Y	土坑	610006	復元 30.0		6.9	
1396	213	96	土師器	小皿	南	Y	土坑	610006	復元 9.5		1.6	
1397	213	96	土製品	土罐	南	Y	土坑	610006				
1398	213		瓦器	小皿	南	Y	ビット	610022		9.1	1.8	
1399	213	96	土師器	小皿	南	Y	ビット	610022		9.1	1.9	
1400	213		瓦器	椀	南	Y	ビット	610022	復元 15.0		4.7	復元 4.6
1401	213		瓦器	小皿	南	Y	ビット	610050	復元 8.8		1.9	
1402	213		瓦器	椀	南	Y	ビット	610050				5.2
1403	213	96	白磁	碗	南	X	溝	620004				復元 3.8
1404	213		瓦器	椀	南	Y	包含層	1層				5.3
1405	213		土師器	真胡堂	南	Y	包含層	2層				
1406	213		土師器	椀	南	Y	土坑	610007	復元 15.6			
1407	213	96	土製品	土罐	南	Y	土坑	610007				
1408	213	96	土製品	土罐	南	Y	土坑	610007				
1409	213	96	土製品	土罐	南	Y	土坑	610007				
1410	213	96	土製品	土罐	南	Y	土坑	610007				
1411	213	96	土製品	土罐	南	Y	土坑	610007				
1412	213	96	土製品	土罐	南	Y	土坑	610007				
1413		30	縄文土器	深鉢	南	W	混入段					
1417		58	弥生土器	底部穿孔	中央南	P	大溝	3				7.4
1418		58	弥生土器	底部穿孔	中央南	P	大溝	3				6.7
1419		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1420		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1421		60	弥生土器	蓋	中央南	P	大溝	3				
1422		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1423		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1424		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1425		60	弥生土器	蓋?	中央南	K	大溝	1				
1426		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1427		60	弥生土器	蓋	中央南	P	大溝	3				
1428		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1429		60	弥生土器	蓋	中央南	P	大溝	3				
1430		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1431		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1432		60	弥生土器	蓋	中央南	P	大溝	3				
1433		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1434		60	弥生土器	蓋	中央南	K	大溝	1				
1446		80	土師器	皿	中央北	F	土坑	910151	復元 24.0			
1447		84	須惠器	平瓶 (浴槽品)	中央北	F	包含層	2層				復元 21.0
1448		84	土師器	真胡堂 (把手)	中央北	F	包含層	1層				
1449		88	須惠器	獸脚 (礎?)	中央北	G	混入段					

瓦・その他遺物一覧表

遺物番号	棟附番号	図版番号	種別	形状	大区割り	調査区	遺構名・層名	遺構番号	備考
1290	197	89	瓦	丸瓦	中央北	E	溝	250001	
1291	197	90	瓦	軒平瓦	中央北	E	溝	250001	摂津園分寺系 布目
1292	197		瓦	軒平瓦	中央北	E	溝	250001	摂津園分寺系 布目
1293	197	90	瓦	軒平瓦	中央北	E	溝	250001	12世紀前半 布目
1294	197		瓦	軒平瓦	中央北	E	溝	250001	中世V、14世紀
1295	197		瓦	軒平瓦	中央北	E	包含層	東側側溝	中世V、14世紀
1296	197	89	瓦	丸瓦	中央北	E	溝	250001	
1297	197	90	瓦	軒丸瓦	中央北	E	溝	250001	14世紀?
1301	200		瓦	軒平瓦	中央南	H	土坑	S30015	平安?
1302	200	90	瓦	軒平瓦	中央南	H	土坑	S30015	蓮珠文、平安後期?
1307	200	90	瓦	軒丸瓦	中央南	H	包含層	1層	中世I以前 海会寺 宝塔文軒丸瓦と類似
1308	200		瓦	軒丸瓦	中央南	H	包含層	1層	中世I?、12世紀末~13世紀初?
1309	200	90	瓦	軒平瓦	中央南	H	包含層	1層	平安?
1310	200		瓦	軒平瓦	中央南	H	包含層	1層	蓮珠文、中世II?、13世紀初頭~半ば?
1311	200	90	瓦	軒平瓦	中央南	H	包含層	1層	波状文、中世VI? 14世紀末~15世紀初?
1328	202	92	瓦	軒丸瓦	中央南	I	包含層	3層	中世I?、12世紀末~13世紀初
1329	202	92	瓦	軒丸瓦	中央南	I	包含層	3層	中世II?、13世紀
1330	202	92	瓦	軒丸瓦	中央南	I	包含層	3層	中世I?、12世紀末~13世紀初
1331	202	92	瓦	鳥雲瓦	中央南	I	包含層	東側側溝	
1332	202	92	瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	2層	
1333	202	92	瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	3層	摂津に多い文様、中世II?、13世紀
1334	202		瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	3層	中世II?、13世紀
1335	202	92	瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	東側側溝	中世V、14世紀
1336	202	92	瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	3層	中世V、14世紀
1337	202	92	瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	3層	中世V、14世紀
1338	202		瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	3層	中世V?、14世紀?
1339	202	92	瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	3層	中世VI?、14~15世紀
1340	203	93	石製品	茶臼	中央南	I	包含層	3層	
1346	204	93	瓦	軒丸瓦	中央南	I	包含層	海側側溝	中世I?、12世紀末~13世紀初
1347	204	93	瓦	軒平瓦	中央南	I	包含層	2層	中世V、14世紀
1414		32	鉄製品	不明	中央南	O	竪穴住居	17	
1415		33	鉄製品	不明	中央南	N	竪穴住居	22・23	
1416		40	鉄製品	刀子?	中央南	G	大溝	1	
1450		90	瓦	丸瓦	中央北	G	混入段		
1451		94	スラグ	楕形溝	南	V	混入段		
1452		96	スラグ		南	Y	土坑	610006	
1453		96	ふいご羽口		南	X	包含層	1・2層	

## 文献一覧

### 参考文献

ここでは、報告書作成にあたって、参考にした文献をあげておく。

- 寺沢 薫・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅰ』木耳社 1989
- 平井 勝『考古学ライブラリー64 弥生時代の石器』ニュー・サイエンス社 1991
- 『陶邑Ⅲ』大阪府教育委員会 1978
- 『平城宮発掘調査報告Ⅶ』奈良国立文化財研究所 1976
- 中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995
- 倉野憲司・武田祐吉校注『日本古典文学大系Ⅰ 古事記 祝詞』岩波書店 1958
- 坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野 晋校注『日本古典文学大系67 日本書記 上』岩波書店 1967
- 『平成15年特別展 泉佐野の街道と名所を往く 展示図録』歴史館いずみさの 2003
- 秋里肇編・塚口康生校訂『和泉名所図絵』柳原書店 1976
- 『近畿自動車道と歌山線建設に伴う 滑瀬遺跡 発掘調査報告書』大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会 1987
- 『近畿自動車道と歌山線建設に伴う 滑瀬遺跡Ⅱ 発掘調査報告書』大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会 1989
- 『向出遺跡 一般国道26号(第二阪和国道)の建設に伴う発掘調査報告書』(財)大阪府文化財調査研究センター 2000
- 『一般国道26号(第二阪和国道)建設事業に伴う 向山遺跡発掘調査報告書』(財)大阪府文化財調査研究センター 2002
- 『亀川遺跡 一般国道26号(第二阪和国道)建設に伴う発掘調査報告書』(財)大阪府文化財調査研究センター 2002
- 安在皓 後藤直訳『松菊里類型の検討』『古文化談叢 第31巻』九州古文化研究会 1993
- 『矢野遺跡発掘調査概要—四国電力応神東線鉄塔建替工事に伴う発掘調査—』徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会 1991
- 春成秀爾『描かれた建物』『第29回埋蔵文化財研究会研究集会 弥生時代の掘立柱建物 本編』埋蔵文化財研究会 1991
- 『春季特別展 弥生の折り人～よみがえる農耕祭祀～ 図録』滋賀県立安土城考古博物館 1994
- 篠宮 正『罽藍紋土器と播磨の銅鐸鑄造』『文化財学論集』文化財学論集刊行会 1994

### 一般書関係

ここでは、一般に入手しやすく、男里遺跡に関する通史的な記述が掲載されている文献をあげておく。

- 『泉南市史 史料編』泉南市 1982
- 『泉南市史 通史編』泉南市 1987
- 谷 美光『おのさと』第3集 泉南歴史民俗料社 1989
- 久世仁士『泉州の遺跡物語』和泉出版印刷株式会社 2004

## 調査報告書関係

ここでは、調査報告書を主体とした調査報告関連の文献をあげておく。

- 藤岡謙二郎「泉南郡雄信達村弥生式遺跡」『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告第十二輯』大阪府 1942
- 西山要一「泉南市双子池遺跡採集の遺物」『会報6.10』和泉古代文化研究会 1971
- 『男里遺跡発掘調査報告書 泉南市文化財調査報告書第二集』泉南市教育委員会 1978
- 『男里遺跡発掘調査報告書Ⅱ 泉南市文化財調査報告書第三集』泉南市教育委員会 1981
- 『男里遺跡発掘調査報告書Ⅲ 泉南市文化財調査報告書第四集』泉南市教育委員会 1982
- 飯屋喜一郎「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 泉南市文化財調査報告書第六集』泉南市教育委員会 1984
- 飯屋喜一郎「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 泉南市文化財調査報告書第十集』泉南市教育委員会 1986
- 飯屋喜一郎・岡田直樹「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅴ 泉南市文化財調査報告書第十五集』泉南市教育委員会 1988
- 岡田直樹「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅶ 泉南市文化財調査報告書第二十一集』泉南市教育委員会 1990
- 飯屋喜一郎・岡田直樹「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅷ 泉南市文化財調査報告書第二十二集』泉南市教育委員会 1991
- 岡田直樹・石橋広和「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅸ 泉南市文化財調査報告書第二十三集』泉南市教育委員会 1992
- 岡田直樹・石橋広和・岡一彦・松本堅吾「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅹ 泉南市文化財調査報告書第二十四集』泉南市教育委員会 1993
- 岡田直樹・石橋広和・岡一彦「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅺ 泉南市文化財調査報告書第二十五集』泉南市教育委員会 1994
- 石橋広和・岡一彦・城野博文「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅻ 泉南市文化財調査報告書第二十七集』泉南市教育委員会 1995
- 石橋広和・岡一彦・城野博文・河田泰之「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅼ 泉南市文化財調査報告書第二十九集』泉南市教育委員会 1996
- 石橋広和・城野博文・河田泰之・大野路彦「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅭⅣ 泉南市文化財調査報告書第三十集』泉南市教育委員会 1997
- 石橋広和・岡一彦・城野博文・大野路彦「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅭⅤ 泉南市文化財調査報告書第三十一集』泉南市教育委員会 1998
- 岡一彦・城野博文・大野路彦「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅭⅥ 泉南市文化財調査報告書第三十二集』泉南市教育委員会 1999
- 岡一彦・城野博文「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅭⅦ 泉南市文化財調査報告書第三十三集』泉南市教育委員会 2000
- 石橋広和・城野博文・河田泰之「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅭⅧ 泉南市文化財調査報告書第三十四集』泉南市教育委員会 2001
- 岡一彦・河田泰之「男里遺跡・光平寺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅭⅩ 泉南市文化財調査報告書第三十九集』泉南市教育委員会 2003



- 石橋広和・河田泰之「男里遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅩⅠ 泉南市文化財調査報告書第四十二集』泉南市教育委員会 2004
- 『市道男里北線改良事業に伴う 男里遺跡発掘調査報告書 泉南市文化財調査報告書第三十七集』泉南市教育委員会 2002
- 飯屋喜一郎「男里遺跡・Ⅰ」、「男里遺跡・Ⅱ」『泉南市文化財年報№1 昭和57年度～平成5年度』泉南市教育委員会 1995
- 岡田直樹「男里遺跡・Ⅲ」『泉南市文化財年報№1 昭和57年度～平成5年度』泉南市教育委員会 1995
- 中村淳蔵「男里遺跡の発掘調査」『第8回古代史博物館フォーラム歴史を語る 第8話泉南の弥生時代を考える』泉南市・泉南市教育委員会 2002
- 『府営地域総合オアシス整備事業（泉南地区・双子池改修工事）に伴う 男里遺跡発掘調査概要・Ⅰ 泉南市男里所在』大阪府教育委員会 1997
- 『府営地域総合オアシス整備事業（泉南地区・双子池改修工事）に伴う 男里遺跡発掘調査概要・Ⅱ 泉南市男里所在』大阪府教育委員会 1997
- 『府営地域総合オアシス整備事業（泉南地区・双子池改修工事）に伴う 男里遺跡発掘調査概要・Ⅲ 泉南市男里所在』大阪府教育委員会 1998
- 『府営地域総合オアシス整備事業（泉南地区・双子池改修工事）に伴う 男里遺跡発掘調査概要・Ⅳ 泉南市男里所在』大阪府教育委員会 1999
- 『府営地域総合オアシス整備事業（泉南地区・双子池改修工事）に伴う 男里遺跡発掘調査概要・Ⅴ 泉南市男里所在』大阪府教育委員会 2000
- 『府営ため池等整備事業（泉南Ⅱ地区・双子上池）に伴う 男里遺跡発掘調査概要・Ⅵ』大阪府教育委員会 2002
- 『府営ため池等整備事業泉南Ⅱ期地区（双子上池）に伴う 男里遺跡発掘調査概要・Ⅶ』大阪府教育委員会 2003
- 『府営ため池等整備事業泉南Ⅱ期地区（双子上池）に伴う 男里遺跡発掘調査概要・Ⅷ』大阪府教育委員会 2004
- 『男里遺跡 都市計画道路榎井男里線建設に伴う発掘調査報告書』（財）大阪府埋蔵文化財協会 1993
- 『男里遺跡の調査 男里遺跡現地説明会資料』（財）大阪府文化財調査研究センター 2001
- 『男里遺跡発掘調査資料集（平成4年度～平成12年度）』（財）大阪府文化財調査研究センター 2001
- 橋本亜希子「男里遺跡出土の蛸形土器について」『大阪文化財研究12』（財）大阪府文化財調査研究センター 1997
- 山崎頼人「弥生中期における男里遺跡の集落構造とその評価」『大阪文化財研究21』（財）大阪府文化財調査研究センター 2002
- 中村淳蔵「男里遺跡の調査」『大阪府埋蔵文化財研究会（第44回）資料』（財）大阪府文化財調査研究センター 2002
- 中村淳蔵「男里遺跡の弥生集落」『大阪府埋蔵文化財研究会（第49回）資料』（財）大阪府文化財調査研究センター 2004

### 男里遺跡調査面積一覧表

調査年度	調査工区	現地調査期間	調査面積 (㎡)
平成5年度	その1	1993年5月19日～1994年1月31日	4,670
平成6・7年度	その2	1994年10月25日～1995年10月31日	10,739
平成7年度	その3	1996年1月30日～1996年3月25日	1,370
平成8年度	その4	1996年10月22日～1996年12月25日	1,285
平成8年度	その5	1996年10月22日～1997年3月25日	2,355
平成11年度	その6	1999年11月28日～2000年3月31日	1,616
平成12年度	その7	2000年9月21日～2001年3月28日	1,211
平成14年度	その8	2002年6月5日～2003年3月31日	3,476
平成15年度	その9	2003年6月18日～2003年10月31日	1,818
平成15年度	その10	2004年2月13日～2004年2月20日	20
平成16年度	その11	2004年11月8日～2004年12月28日	169
合計面積			28,729

# 報告書抄録

ふりがな	おのさといせき							
書名	男里遺跡							
副書名	主要地方道泉佐野岩出線（都市計画道路泉南岩出線）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	（財）大阪府文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第127集							
編著者名	中村淳儀・岡田佳之・村上富喜子・黒田慶一							
編集機関	（財）大阪府文化財センター							
所在地	〒590-0105 大阪府堺市竹城台3丁21番4号 TEL 072-299-8791 FAX 072-299-8905							
発行年月日	西暦 2005年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		東経 ° ' "	北緯 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おのさといせき 男里遺跡	おのさとかふ 大阪府 やんなんし 泉南市 おのさと・ぼぼ 男里・馬場 ・ほたしろ ・橋代	27228	12	135° 15' 45"	34° 21' 30"	19930519 ～ 20041228 [現地調査(その 1)開始から(そ の11)終了まで]	28,729㎡	主要地方道 泉佐野岩出 線（都市計 画道路泉南 岩出線） 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
男里遺跡	集落・生産	縄文時代中期 ～晩期	なし		縄文土器・石畿 など			
		弥生時代中期末	竪穴住居・掘立 柱建物・ピット ・土坑・溝・大 溝・方形周溝墓 など		弥生土器・石畿 ・石錐・石庖丁 ・石斧など			
		古墳時代	ピット・土坑 など		土師器・須恵器 ・製塩土器など			
		古代	掘立柱建物・土 坑・ピット・溝 など		土師器・須恵器 ・製塩土器・黒 色土器など			
		中世	掘立柱建物・土 坑・ピット・溝 など		土師器・須恵器 ・瓦器・陶磁器 ・瓦類など			

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第127集

## 男 里 遺 跡

一本文編一

主要地方道泉佐野岩出線（都市計画道路泉南岩出線）建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日 / 2005年2月28日

編集・発行 / 財団法人 大阪府文化財センター

大阪府堺市竹城台3丁21番4号

印刷・製本 / 株式会社 明新社

奈良県奈良市南京終町3丁目464番地